

スルニ足レリ。

千八百六十三年ニ於テハ。旅客八名以下ヲ載スル驛車ノ税ヲ減シテ。原  
免許狀ノ税ハ十司令。免許補狀ノ税ハ六邊尼ト爲シ。里税ハ之ヲ半邊尼  
ニマテ減セリ。

千八百六十六年。哥刺德斯頓氏ハ會計豫算表ノ主旨ヲ演說シテ曰。此年  
歳入ノ剩餘アルヲ以テ。大ニ諸車ノ税ヲ減セント欲ス。然レモ其餘額ノ  
充足ナラサルヲ憾ルノミ。故ニ今回ニ於テハ。唯里税若干ヲ減スヘシト。  
因テ其税一邊ニナルヲ減シテ一邊ニ四分一ト爲セリ。今此里税ノ減  
却ニ因テ。人民ノ益ヲ享クルコト幾許ナル乎ハ。未タ之ヲ明知スルヲ得  
ス。而シテ本寮ノ開ク所ニ據レハ。減税ノ後未タ曾テ車賃ノ減スルヲ知  
ラス。倫敦府ニ在テハ。反テ從前ヨリ騰貴セリ。此レ即テ車馬ノ購收。馬匹  
畜養費等ノ増加スルノ然ラシムル所ナレハ。若シ里税ヲ減スル今日ノ

如キニ至ルヲ得サラシメハ。乗車ノ賃ハ更ニ幾層ノ騰貴ヲ見ルヘシト  
云フ。然レモ此レ蓋シ倫敦府内ノ驛車ヲ專領スル驛車會社ノ説ク所ナ  
ルヲ以テ。敢テ信ヲ置クニ足ラス。唯次ニ掲ル驛車運行里數表ニ據リ。里  
税ノ減スル毎ニ驛車運行ノ里數ヲ増加スルニ因テ考レハ。減税ノ爲メ  
ニ大ニ人民ノ益ヲ享クルニ至リシヤ必セリ。里數表ヲ按スルニ。千八百  
六十四年ノ驛車運行ノ里數ハ。千八百六十三年ニ照セハ。二萬里ヲ増加  
シ。千八百六十四年里税減却ノ時ニ在テハ。其前年ヨリ六十九萬里ヲ増  
加ス。又其翌年ハ。六十萬里ノ増加ニシテ。其里税ノ課率ヲ減シテ一邊ニ  
四分一ト爲スニ至テハ。三千二百八十七萬五千里ノ數ハ。速カニ増シ  
テ三千四百零五萬四千里トナル。之ヲ乘除スレハ。則チ全ク百十七萬九  
千里ヲ増加セリ。以テ人民ノ益ヲ享クルニ至リシヲ證スルニ足ル。千八  
百六十三年乃至六十七年ノ間。驛車運行ノ里數及ヒ里税。免許稅收入ノ

數、圓、千、左、列、の、

千八百六十七年	千八百六十六年	千八百六十五年	千八百六十四年	千八百六十三年	週年	終 ル 一	十 日 二	六 月 三
一、六四四、六一	二、九五五、〇九六	二、九二六、二六三	二、九六三、二六九	三、一五六、〇四一	一 邊 尼	里 稅 ノ 課 率		驛 車 運 行 里 數
六、三九六、六四	三、三二〇、七一八	三、〇一五、九八一	一、九五八、五三一	.....	半 邊 尼			
三、三三三、六三三	.....	.....	.....	.....	一 邊 尼 ノ 四 分 一			

千八百六十七年	千八百六十六年	千八百六十五年	千八百六十四年	千八百六十三年	計	入 ノ 里 稅	收 稅 免 許	計
三、四〇五、四七九	三、二八七、五八一	三、二一七、八五四	三、一五八、二〇〇	三、一五六、〇四一	三、一五六、〇四一	三、一三四、四〇四	一、一、二〇〇	一、四四六、〇四
四、〇、七四一	一、三〇、〇八五	一、二八、二一一	一、二八、〇一七	.....	.....	.....	.....	.....
一、一、九九九	一、一、八四八	一、一、六四七	一、〇、三九八	.....	.....	.....	.....	.....
五、二、七四一	一、四、九三三	一、三、九八八	一、三、八四一	.....	.....	.....	.....	.....

驛車税ハ之ヲ車主ノ利益ニ比照シテ幾許ニ當ル手ヲ判スルハ從來最モ難スル所ナリシニ。一タヒ倫敦驛車會社ノ信據スルニ足ルヘキ計算表ヲ製シテ之ヲ刊行セシ以來ハ大ニ調査ノ便ヲ得ルニ至レリ。而シテ此計算表ハ他ノ諸車ノ税ニ對照シテ其課率ノ輕重ヲ審案スルニ於テ亦其功小ナラストス。

驛車税ト鎮道税トノ均平ヲ得サル所由ハ倫敦驛車會社刊行ノ計算表ニ因テ之ヲ證スルニ足ル。茲ニ千八百六十四年ノ實蹟ヲ舉ケン。此年倫敦驛車會社ノ利益ハ六十一萬二千四百零九磅ニシテ其政府ニ上納セシ里税及ヒ免許税ノ總計ハ五萬三千三百零四磅ナリ。故ニ之ヲ利益ニ照比スレハ百分ノ八。七ニ當レリ。又全國内ノ鎮道會社ハ三千二百四十三萬三千九百五十八磅ノ利益ヲ收メ。而シテ其政府ニ上納セシ税金ハ四十三萬零八百六十五磅トス。即チ利益ニ照セハ百分ノ一。三ニ過ギサ

ルナリ。故ニ若シ鎮道會社ヲシテ驛車税ニ比例シテ其税ヲ上納セシメハ其税金ハ二百八十二萬千七百五十四磅ナラサルヘカラス。若夫レ此利益ヨリ諸雜費ヲ除テ純益金ト爲シ。以テ兩税ノ輕重ヲ比較セン手其均平ヲ得サルヤ益甚シ。千八百六十六年驛車税ヲ減スルノ前。即チ千八百六十四年ニ在テ鎮道會社ハ三千二百四十三萬三千九百五十八磅ノ利益ヨリ純益金千七百五十一萬千磅ヲ收メ。驛車會社ハ六十一萬二千四百零九磅ノ利益ヨリ十一萬九千五百零三磅ヲ收ム。故ニ驛車税ハ純益金ニ照比スレハ百分ノ四十四強ニ當リ。鎮道税ハ百分ノ二。四ニ當ル。試ニ此年ヲ以テ驛車ノ里税ヲ一邊尼ノ四分一ニマテ減セリト假定シテ計算スルモ驛車會社ハ尙一萬四千九百二十七磅ノ巨數ノ税金ヲ上納セサルヲ得ス。乃チ鎮道税ニ照セハ六千九百六十六磅ヲ過納スルノ計算ナリ。

里稅ハ倫敦府内ニ在テハ。本寮ノ稅吏。毎月第一ノ月曜日ニ於テ收入シ。府外ニ在テハ。地方ノ稅吏各收稅期ノ終ニ於テ之ヲ收入ス。而シテ其過半ハ。倫敦ノ驛車ヲ以テ收入スル者ニ係レリ。驛車稅ハ。其免許稅タリ。里稅タルヲ論セス。千八百六十九年十二月三十一日ヲ以テ之ヲ廢止セリ。

## 賃車稅

賃車稅ハ。倫敦府内ニ於テ之ヲ課シ。其府外ニ在テハ。驛馬稅ヲ課ス。而シテ賃車ノ運行ハ。千八百五十三年前ニ在テハ。之ヲ驛遞局ノ周圍五里内ニ限レリ。但賃車及ヒ轎車ノ免許稅ハ。千六百六十二年查爾斯第二世ノ代ニ於テ既ニ之ヲ課セリト云フ。

千八百十五年。賃車稅管理ノ官吏ハ。賃車千八百輛。即チ馬車千輛。半馬車四百輛。轎車四百輛ノ免許狀ヲ發付スヘキノ許可ヲ得タリト雖モ。其實

ニ發付シタルハ。千二百枚ニ過キサリキ。

如此ク賃車ノ免許狀ヲ制限シテ。濫ニ之ヲ發付セサルヲ以テ。其車主ハ恰モ一種貴重ナル特權ヲ有スルノ狀アリシニ。千八百三十一年。之ヲ印稅局ノ所轄ニ歸シ。請フ者アレハ。彼我ノ別ヲ論セス。之ヲ發付セントスルニ至テ。一箇年間ハ仍從來ノ特權ヲ有セシムルニ決シ。終ニ千八百三十三年一月ヲ以テ。其制限ヲ廢止セリ。故ニ其年ニ於テ發付シタル免許狀ノ數ハ。八百枚ノ多キニ至リ。爾來漸ヲ逐テ増加セリ。

賃車稅ハ。千八百四十七年九月五日國產稅局ノ管理ニ屬スル以來。猶驛車稅ニ於ルカ如ク。二種ニ分テ之ヲ課ス。即チ其一ヲ免許稅。千八百五十年ハ。免許狀ノ期ト爲シ。其一ヲ每週稅ト爲ス。而シテ國產稅局ニ於テハ。免許狀ヲ發付スル毎ニ番號ヲ記シタル延板ヲ下付シテ。之ヲ各車ニ附着セシメ。其延板ヲ附着セサル者ハ。街頭ニ在テ衆庶ノ使用ニ供スルヲ

得サラシム。但延板ハ二年毎ニ之ヲ交換シ。其製造費ハ千八百六十八年四月ニ於テ五百六十六磅ニ上レリ。每週税ハ。毎月第一ノ月曜日ニ於テ。四週間ノ額ヲ前納セシム。其率從前ニ在テハ。十司令ナリシニ。千八百五十三年ニ至テ。全週間ノ使用ニ供スル免許ヲ請フ者ハ。之ヲ七司令ニ減シ。日曜日ヲ除テ使用ニ供スル者ハ。六司令ニ減セリ。此年又貸車運行里程ノ倫敦區内ニ限ル者ヲ擴充シテ。警視方面ニ及ホシ。免許税五磅ハ之ヲ減シテ一磅ト爲シ。以テ年毎ニ之ヲ上納セシメタリ。

既ニ如此ク六日間使用ニ供スル貸車ト七日間使用ニ供スル者ト。税額ヲ異ニスルヲ以テ。收税吏及ヒ巡查ノ明カニ之ヲ識別スルニ足ルヘキノ標記ヲ須要ス。乃ノ七日間ノ使用ニ供スル者ノ延板ニハ。第一乃至第三千九百九十九ノ番號ヲ記シ。其六日間ノ使用ニ供スル者ニハ。第一萬

乃至第一萬千三百九十九ノ番號ヲ記シテ。且其色樣ヲ異ニセリ。

千八百五十三年ヲ以テ。貸車ニ關スル事務ノ過半ハ。警視局ノ所轄ニ歸シタリ。故ヲ以テ爾後其經費ニ當テ。毎年貸車税ノ收入スル者一萬千磅ヲ該局ニ交付ス。而シテ警視局ハ。或ハ馭者ト馭者ハ車主ニ免許狀ヲ付與シ。或ハ各懸止場ノ馬丁ヲ命シテ。之ニ備給ヲ支付スル等竝ニ其責任トス。又此年國產税局ノ管理セシ遺失物儲藏庫ヲ該局ノ所轄ニ歸シ。若シ旅客ノ貸車内ニ遺失セシ物アレハ。馭者ヲシテ。二十四時ヲ限リ。之ヲ儲藏庫ニ納付セシムルノ制ヲ定メリ。

左ニ千八百六十七年乃至千八百六十九年ノ三年ニ於テ。三箇月間ニ發付シタル延板ノ數ヲ掲ク。

千八百六十七年	千八百六十八年	千八百六十九年
---------	---------	---------

一 月	五、八七五	五、七四二	五、五七五
二 月	五、九二六	五、七四四	五、六六三
三 月	五、九二四	五、七二九	五、六五五

千八百六十六年七月ニ於テ發付シタル延板ハ、六千三百五十三枚ニシテ、實ニ未曾有ノ巨數タリ。  
 賃車稅ハ、其免許稅タリ每週稅タルヲ論セス。千八百六十九年十二月三十一日ヲ以テ之ヲ廢止セリ。

驛馬稅

驛馬稅ハ、千七百七十九年英蘇ノ兩國ニ於テ、始テ之ヲ施行セリ。爾來旅行ノ形狀變換スル毎ニ、課稅ノ支障ヲ生シ、曾テ其効ヲ得ルナク、徒ニ驛馬主ニ煩勞ヲ與フルニ過サリキ。

千八百五十三年ニ於テハ、從前ノ里稅ヲ廢止シ、更ニ車輛及ヒ馬匹ノ數ニ隨テ免許稅ノ額ヲ輕重セリ。此改正ニ因テ、大ニ驛馬主ノ煩勞ヲ除ク。然レモ、從來ノ收入ヲ減スルニ至ラス。又富有ノ營業者ハ、之カ爲メニ納稅ノ數ヲ減スルヲ得タリト雖モ、貧困ノ者ハ、反テ其數ヲ增加セリ。故ニ此増加ハ、其一方ニ減セル者ヲ償フタルヤ知ル可キナリ。聞ク所ニ據レハ、倫敦二三ノ驛馬主ハ、大ニ車馬ノ賃金ヲ低下セリ。因テ衆庶ノ便益ヲ得ル少カラスト。以テ減稅ノ其効ヲ得タルヲ知ルニ足レリ。又千八百五十二年ニ在テ、或驛馬主三名ノ上納セル稅金ハ、各、五百七十二磅、四百八十四磅、三百三十一磅ナリシニ、千八百五十六年ニ至テハ、百二十磅、百十磅、九十磅トナレリト。

愛爾蘭ノ驛馬稅ハ、千八百年ヲ以テ、始テ之ヲ施行シ、雇使ニ供スル馬匹ヲ畜養スル者ヲシテ、年毎ニ二磅四司令一邊尼ノ免許稅ヲ上納セシム

面シテ千八百六十八年ノ收入ハ。四千八百七十五磅ニ上レリ。  
驛馬税ハ。驛車税、賃車税ト同シク。千八百六十九年十二月三十一日ヲ以  
テ之ヲ廢止セリ。

### 鍊道税

鍊道税ハ。千八百三十二年。始テ之ヲ施行シ。旅客四名コシテ一里毎ニ半  
邊尼ノ税ヲ課セリ。千八百四十二年ニ至テハ。則チ今日施行スル所ノ車  
賃百分ノ五ノ税ニ改正ス。乃チ鍊道會社ヲシテ。日計簿ヲ製シテ。之ニ旅  
客ノ員數ヲ登録シ。毎月初旬ヲ以テ。一月間ノ數ヲ印稅局ニ申報シ。以テ  
税金ヲ上納セシムルノ法ヲ制定施行セリ。但其日數ハ。前月ノ第一月曜  
日ヨリ。應ニ申報スヘキ翌月ノ第一月曜日ニ至ルマテヲ計算スルヲ成  
規トス。又鍊道會社ノ簿冊ハ千八百四十七年ノ法令ニ照シテ。印稅局官  
吏ノ檢査ヲ承ケシム。

鐵道税ハ。千八百四十七年九月五日ヲ以テ。國產稅局ノ管理ニ屬ス。千八  
百六十三年ニ至テハ。鐵道會社ノ便宜ヲ圖リ。申報書ヲ呈スルノ期ヲ改  
メ。前月ノ申報書ハ。翌月ノ二十日ヲ限テ。之ヲ呈セシム。  
從來ノ稅法ニ於テハ。曾テ本寮ト鐵道會社ノ間ニ紛議ヲ生スルノ事ナ  
カリシニ。千八百四十四年ニ至テ。貧民ノ爲メ下等ノ客車ヲ備ヘ。低價ヲ  
以テ之ヲ送運スレハ。其得ル所ノ利益金ニ。納稅ヲ免除スルノ法ヲ設ル  
ヨリ以來ハ。本寮及ヒ商務局ト鐵道會社トノ間ニ。軋轢ヲ生シ。政府ノ收  
入モ亦大ニ減セリ。憶フニ將來如此キ事情ノ起ラントハ。蓋シ議政官ノ  
豫メ期セサリシ所ナラン。  
千八百四十四年ノ法令ハ。首ニ低下ノ車賃ヲ以テ。貧民旅行ノ便ニ供ス  
ル爲メ。雨露ヲ防クニ足ルヘキ鐵道客車ヲ備ヘ云々ヲ掲ケ。次ニ記ス。鐵  
道會社ハ左ノ規則ヲ遵奉シテ。耶蘇降誕日及ヒ耶蘇殞落日ヲ除クノ外

ハ。毎日下等客車ヲ列車中ニ聯子テ。此驛站ステーションヨリ彼驛站ニ駛行セシメ。以テ三等旅客旅行ノ便ニ供セサル可ラスト。所謂左ノ規則ハ即チ此ノ如

第一 鐵道列車ハ。商務局ノ布令スル時限ニ於テ發車セシメサルヘカラス。

第二 瀟車ノ平均速力ハ。一時毎ニ十二里ヨリ下ルヲ得ス。

第三 各驛站ニ於テハ。必ス旅客ノ意ニ從テ。或ハ上車セシメ。或ハ下車セシメサルヘカラス。

第四 鐵道客車ハ。必ス商務局ノ檢査ヲ承ケサルヘカラス。

第五 三等旅客ノ車賃ハ。一里毎ニ一邊尼ニ超過スルヲ得ス。

此他ニ旅具ノ斤量及ヒ小兒ノ送運等ニ就テ制定スル所ノ規則アレモ之ヲ略ス。

又其次ニ下等客車ヲ用ヒテ。一里毎ニ一邊尼ニ超過セサルノ車賃ヲ收

メ。以テ旅客ヲ送運スル鐵道會社ハ。其車賃ニ稅ヲ課セサルヘントノ一款ヲ掲ケリ。

夫レ三等旅客ヨリ收ル車賃ニ課稅ヲ免除スル所以ハ。政府ニ於テ車賃ノ額ヲ制限スルノ旨ニ課稅ノ主旨ニ悖ルノミナラス。亦鐵道會社ノ損失スル所少小ニ非サレハナリ。然ルニ幾ナラスシテ。鐵道會社ハ車賃ノ低下ナルハ却テ利益ヲ得ルノ本源タルコトヲ覺知シタレハ。曩ニハ政府ヨリ強テ列車中必ス下等客車一輛ヲ聯ヌヘント令シタルニ。今ハ自ラ好シテ。一里毎ニ一邊尼ノ車賃ヲ以テ。下等客車數十輛ヲ駛行セシメ。上中二等ノ客車ノ如キモ。亦往々下等ノ車賃ヲ以テ遊戯客車ニ供シ。遂ニ今日國內ノ鐵道會社悉ク其例ニ倣ハサルナキニ至レリ。

如此ク利益アル營業ニ課稅ヲ免除スルハ。素ヨリ政府ノ趣旨ニ非サルナリ。然レモ今二三ノ會社ニ於テハ。下等客車ノミヲ用ルヲ以テ會社車



賃ノ課税スヘキ者ナキニ至ル。又上中二等ノ車賃ノ如キモ。其免税ヲ請フ者アリ。因テ之ヲ政府ニ具狀シ現ニ其裁決ヲ仰ケリ。

千八百六十三年ニ於テハ。凡ソ鐵道税ハ。下等ノ車賃ヲ以テ一週間六日ヲ用フル客車。及ヒ市場ニ向テ發スル者。若クハ日曜日ニ駛行スル者ヲ除クノ外ハ。之ヲ免除スルヲ得スト令セリ。其主旨ハ。遊戯客車ヨリ收ル車賃ノ税ヲ免除スル無キニ在リ。然レモ。期スル所ノ効ヲ得ルニ至ラス。

何トナレハ千八百六十二年ニ。車賃ノ税ヲ課スル者ハ。七百七十四萬二千五百零五磅ニシテ。其税ヲ免除スル者。四百二十一萬三千零十二磅ナリシニ。千八百六十八年ニ至テ。前者ハ僅ニ一千萬七千六百六十七磅ニ増加シ。後者ハ。五百九十五萬四千四百四十七磅ノ多キニ上レハナリ。

政府ノ歲入ヲ増加スルニ。其効ヲ得サル如此クナルハ。特リ法令ノ文義ニ明解ヲ缺クノ故ニ非ス。前ニ記スル如ク。鐵道會社ニ在テハ。車賃收入

ノ計ヲ申報シ。本寮ニ在テハ。其欺詐アランヲ慮リ。之ヲ審案詳査スルヲ以テ。其際彼此軋轢シテ。屢紛議ヲ生スルニ由ルナリ。故ニ此等ノ弊害ヲ除カント欲セハ。今日ノ免税法ヲ廢シテ。更ニ諸般ノ車賃ニ。輕税ヲ課スルニ若カサルヘシ。而シテ鐵道會社ノ冀望スル所モ。亦必ラス此外ニ出テサルヘキヲ知ル。

鐵道税ハ之ヲ會社ノ純益ニ照比スレハ。其課率ノ僅少ナル。前ニ記スル所ノ如シ。然レモ政府ノ收入ノ數ニ至テハ。亦漸次増加セサルニ非ス。又愛爾蘭ニ在テハ。今日ニ至ルマテ此種ノ税ヲ課セス。

#### 競馬税

競馬ニ用フル馬ノ税ハ。従前雜稅局ノ管理ナリシヲ。千八百五十六年ニ至テ。國產稅局ノ所轄ニ屬シ。競馬擔當ノ書記ヲシテ。其興行前ニ在テ。之ヲ徵收セシメタリ。其翌年。ウエーセルヒ一氏ヲ該稅ノ收入官ト爲シ

テ。英蘇二國ヲ總管セシメ。收税金一磅毎ニ一司令ニ當ルノ俸給ヲ支付ス。因テ爾後ハ大ニ收税ノ事務ヲ釐正スルヲ得タリ。  
或ハ褒賞ヲ與ヘ。或ハ金錢ヲ賭シテ興行スル競馬ハ。悉ク之ニ課税セサル可ラサルヤ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ。然レモ本寮ニ於テハ。務メテ税法ノ精神ヲ取ル。故ニ農民若クハ獵丁ヲ褒賞スルノ趣旨ヲ以テ興行スル競馬ハ之ニ税ヲ課セス。但乘馬トシテ雜税ヲ課スル者ハ。此例ヲ須ヒス。

### 第五編 國產税ノ部

#### 國產免許税ノ概略

國產税ヲ課スル物品ヲ製造シ或ハ之ヲ販賣セント欲スル者ニ免許狀ヲ付與シテ其税ヲ課スルノ制ハ。安納女王ノ代ニ於テ稍行ハレリ。而レテ之ヲ普通ニ施行セシハ。千七百八十四年亞米利加合衆國ノ獨立戰爭ヲ終ル時ノ會計豫算表ヲ以テ始メトス。當時此税ヲ課スルノ旨意ハ。彪士氏ノ建議ヲ見テ明知スルヲ得ルヘシ。因テ之ヲ左ニ掲ク。

余ノ建議スル所ノ。國產税ヲ課スル物品ヲ製造シ或ハ之ヲ販賣スル者ニ。免許狀ヲ付與シテ其税ヲ課スルノ案ハ。特ニ國產税局官吏ノ建議スルアルノミナラス。該品ヲ販賣スル老實ノ商賈モ亦欲スル所ナリ。而シテ此税ヲ以テ八萬磅ヲ收入セント圖ルニハ。營業ニ特殊ノ利益アルヲ以テ。蒸餾者ニハ五十磅ヲ課シ。釀造者。釀醋者及ヒ綿布ノ印

花匠ニハ各十磅ヲ課セサルヘカラス。此數者ノ間ニ介入シテ利ヲ儲スル者ノ如キハ物品ヲ販賣スルノ多寡ト利ヲ獲ルノ大小トコ隨テ算課スヘシ。

然レモ千七百八十四年ノ法令ヲ按スルニ其賦課スル免許稅ハ彪士氏ノ建議スル所ト額ヲ同クセス。蒸餾者及ヒ精餾者ニハ一箇年ノ稅五十磅ヲ收メスシテ使用ノ蒸餾器一瓦倫毎ニ半邊尼ノ算課ニ當ルノ稅ヲ收メ。釀造者ニハ十磅ヲ收メスシテ現ニ今日施行スル者ノ如ク。麥酒釀造ノ多寡ニ隨テ一磅十司令乃至五十磅ヲ收メ。麥芽製造者ノ如キハ麥芽五百五十クヲルトル以下ヲ製造スレハ五十クヲルトル毎ニ五司令ノ算課ヲ以テ收ム。此他定額ノ免許稅ヲ課スル者ハ酒精卸賣商ハ五磅今十磅。釀造者ハ十磅今五磅。五司令。綿布ノ印花匠ハ十磅。澱粉製造者ハ五磅今十磅。釀造者ハ十磅今五磅。五司令。綿布ノ印花匠ハ十磅。澱粉製造者ハ五磅。葡萄酒ヲ汲ム者樽入ノ葡萄酒ヲ外國ヨリ輸入スルノ後ハ二磅。硝皮樽入ノ葡萄酒ヲ外國ヨリ輸入スルノ後ハ二磅。硝皮

匠ハ二磅十司令。晒皮匠ハ一磅。玻璃製造者ハ十磅トス。而シテ今蒸餾者及ヒ釀造者ヲ除クノ外ハ悉ク之ヲ廢止セリ。

酒精小賣免許稅ハ初メ其額ヲ定メテ賦課セシニ。千七百八十七年ニ至テ之ヲ改正シ。家屋ノ價值ニ隨テ其稅ヲ昂低セリ。而シテ此稅法ハ今日ニ至ルマテ仍之ヲ施行ス。

凡ソ免許稅ハ三ノ立則ニ原テ課スルモノトス。二ノ立則トハ第一營業ノ盛衰ニ隨フナリ。第二家屋ノ價值ニ準スルナリ。第三稅額ヲ一定スルナリ。而シテ第一則ハ千七百八十四年ニ於テ。麥酒釀造者及ヒ麥芽製造者ノ課稅ニ用ヒ。千七百八十九年ニ至テハ。烟草製造者ノ免許稅ニモ亦之ヲ用ヒタリ。

國產海關兩稅ノ收入ヲ保護スルノ旨趣ヲ以テ。國產稅ヲ課スル物品ノ製造ヲ監視スルニ因リ。第一則ハ既ニ其製造者ニ施行シ。製造物ノ多寡

ニ隨テ免許稅ヲ課スルヲ得タリト雖モ然レモ其製造物ヲ販賣スル者ノ如キハ始メテ免許稅ヲ課セシ以來犯禁豫防ノ監視ニ屬セリ而シテ此監視ノ主務ハ收稅ノ事ニ非スシテ豫メ脫稅ヲ規ルヲ防クニ在リ故ニ固ヨリ營業ノ盛衰ヲ詳悉スルニ非サレハ此稅即チ第三則ニ適スル者ト謂ハサルヘカラス。

其第二則ニ據テ改正セシ者ハ酒店免許稅及ヒ前ニ記スル酒精小賣免許稅トス而シテ酒精小賣免許稅ノ收入ハ一歲ノ計約六十萬磅ニ上ル蓋シ此法ヲ創設スル其稅金ヲ收ルノ多キト衆民ニ關係スルノ大ナルトヲ以テ營業者ノ貧富ニ隨テ其負擔ヲ均平スルノ宜シキヲ得タリト爲スノミ。

從前免許狀ヲ以テ施行スル物品ノ製造及ヒ販賣ニ課スル國產稅ハ之ヲ廢止ズルモノ多シ但石鹼製造并ニ抄紙ノ免許稅ニ至テ廢止セサリ

シハ蓋シ千八百三十四年ニ於テ國產稅審查委員カ免許稅ノ大ニ政府ノ歲入ヲ増益スルニ足ルヘキ所以ヲ論陳セシニ由ルナリ譯者曰抄紙六十年ヲ以テ廢止シ石鹼製造免許稅ハ今仍之ヲ課ス後葉ニ編纂記述スル各種ノ免許稅ハ近時特ニ議院ノ注目スル所ニシテ衆民ノ利害ニ關スル最モ大ナル者ニ限レリ其別ニ解釋ヲ須ヒサル者ハ課稅ノ年號ト稅額トヲ左ニ併記ス。

	課稅ノ年號	稅額
糶賣者	千七百七十七年	十磅
蒸餾者	千七百八十四年	十磅十司令
石腦油混和酒精製造者	千八百五十五年	十磅十司令
石腦油混和酒精小賣商	千八百六十一年	十司令

麥芽製造者	千七百八十四年	斗量五十「クオトル」以下ナレハ。七司令十邊尼半ヲ課シ。之ヲ超レハ五十「クオトル」及ヒ其奇數毎ニ七司令十邊尼半ノ増稅ヲ課シテ。五百五十「クオトル」ニ至ル。
麥芽熬炙者	千八百四十二年	二十磅
熬炙麥芽ノ販賣者	千八百四十二年	十磅
抄紙者	千八百二十五年	四磅四司令
郵船内ニ在テ國產稅ヲ課スル飲料ヲ販賣スル者	千八百二十八年	一磅一司令
精餾者	千七百八十四年	十磅十司令
石鹼製造者	千七百八十四年	四磅四司令
蒸餾器製造者 <small>蘇格蘭及愛爾蘭</small>	千八百二十二年	十司令
蒸餾器ヲ使用スル賣藥商	千八百四十六年	十司令

烟草製造者	千七百八十九年	二萬封度以下ナレハ。五磅五司令ヲ課シ之ヲ超レハ二萬封度。及ヒ其奇數毎ニ五磅五司令ノ増稅ヲ課シ。以テ十萬封度ニ至ル。
烟草販賣者	千七百八十九年	五司令三邊尼
釀醋者	千七百八十四年	五磅五司令

國產免許稅ニ關スル諸般ノ法令ハ。千八百二十五年ヲ以テ纂輯シ。二三ノ條款ヲ除クノ外ハ。今日ニ至ルマテ仍之ヲ施行ス。又從前印稅局ノ管理セル免許稅ハ。此時ニ至テ國產稅局ノ所轄ニ屬スル者居多ナリ。其特別ノ法令ノ如キハ。之ヲ施行スルノ日甚々悠久ナリト雖モ。今日ニ至ルマテ仍其効ヲ有ス。但近年ニ至テ制定スル諸法令ハ。初ヨリ完備スルニ

非ス。皆多少ノ改正ヲ經タル者ナリ。

### 釀造免許税

釀造免許税ハ前ニ記スル如ク千七百八十四年彪士氏ノ始メテ施行スル所ナリ。當時課税ノ規法ハ麥酒釀造ノ量數ニ從フ。猶今日ノ課税法ノコトシ。即チ千「バーレル」以下ヲ釀造スル者ニシテ。所謂尋常ノ麥酒ヲ釀造スレハ。則チ一磅ヲ課シ。芳烈ノ麥酒ヲ釀造スレハ。一磅十司令ヲ課ス。其千「バーレル」乃至二千「バーレル」ノ間ヲ釀造スル者ノ如キハ。各、二磅ヲ課セリ。之ヲ該税額ノ最モ低下ナル者トス。

千八百十五年ニ於テハ。尋常ノ麥酒釀造ノ免許税ヲ二倍シ。芳烈ノ麥酒ハ。従前ノ半額ヲ増加ス。千八百二十四年ニ至テハ。釀造ノ數二十「バーレル」ヲ超ヘサル者ハ。一司令ヲ課シ。二十「バーレル」乃至五十「バーレル」ノ間ハ。一磅。五十「バーレル」乃至百「バーレル」ノ間ハ。一磅十司令。百「バーレル」乃

至千「バーレル」ノ間ハ。二磅ヲ課ス。其以上ハ總テ従前ノ額ニ仍レリ。又此年免許狀ヲ發付スルノ數ハ。四千零七十五枚ナリシニ。其翌年ニ至テ。二萬六千二百五十二枚ニ上レリ。是レ税額ノ低下ニ由ルニ非ス。必ス他ノ原アリ矣。而シテ之ヲ今日ニ推究スル能ハサルナリ。

千八百三十年ニ於テハ。麥酒ノ販賣日ニ盛大ニ趨クト。麥酒税ノ廢止トニ因テ。釀造者ノ數増加シテ三萬六千五百五十名ニ至リ。千八百三十八年ニハ。四萬九千二百二十八名ノ多キアリ。其後ハ歲ニ若干名ヲ減スルモ。曾テ増加スルコト無シ。

千八百三十年前ニ在テ。釀造免許税ハ。釀造ノ量數ニ從テ課スル麥酒税ニ準據シテ其額ヲ定ム。故ニ其收入ノ法實ニ簡易ナリシニ。千八百三十年十月十日麥酒税ヲ廢止ス。因テ準據ノ便ヲ失ヘリ。然レモ收税吏ノ監視ハ。仍之ヲ廢止セス。此レ釀造者カ竊ニ他品ヲ以テ麥芽ニ代用センコ

トヲ恐レハナリ。夫レ既ニ證據ノ便ヲ失フト雖モ其額ハ則チ適當ニレテ奇重ナラス。且收稅吏ノ時々監臨スル有レハ則チ以テ釀造者ノ奸ヲ防キ以テ該稅ヲ保護スルニ足ルヘキナリ。

千八百三十年ヲ以テ改正セシ釀造免許稅ハ現今施行スル所ノ者ニ異ナラストス。即チ課稅ノ旨趣ニ據テ麥酒釀造者ハ麥芽ニ「ブツセル」毎ニ麥酒一「バーレル」ヲ釀造スルヲ得ル者ト定ム。且該釀造者ヲシテ麥酒ヲ釀造スル二十四時前ニ在テ其日時及ヒ麥芽ヲ靡消スル量數并ニ穀物ヲ以テ新酒ヲ製スルニ幾日ヲ要スル乎ヲ報告セシム。故ニ收稅吏ハ此報ヲ得テ乃チ監臨シ而シテ新酒ノ量ヲ測テ麥芽ノ量數幾許ヲ使用セレ乎ヲ推算スルヲ得ルナリ。

千八百四十七年釀造者ニ麥酒ノ釀造ニ砂糖ヲ使用スルヲ許スノ時ニ於テモ亦右ト同一ノ規則ヲ施行シ砂糖五十封度ハ麥芽ニ「ブツセル」即

チ麥酒一「バーレル」ニ比例スヘシト定ム。又千八百五十四年ニ於テハ麥酒ノ釀造ニ砂糖ヲ使用スル者ニ其量數ヲ記録スルノ旨趣ヲ以テ定額ノ免許稅一磅ヲ課セリ。

千八百六十二年前ニ在テ釀造免許稅ヲ以テ收入スル平均ノ數ハ甚ク僅少ナリ。此年三月三十一日ニ終ル一週年間免許狀ヲ付與スル釀造者ノ數ハ二萬八千二百七十六名ニシテ其收入ハ七萬七千三百零七磅十三司令トス。即チ釀造者一名毎ニ二磅餘ニ當ルノ計算ナリ。

千八百六十三年ニ於テハ曾テ秣穗稅ヲ以テ收ルノ金員ヲ得ント欲シ。當時施行スル所ノ釀造免許稅法ヲ改正セリ。其案ニ據ルニ麥芽一「ブツセル」毎ニ秣穗一「封度」ヲ使用スルノ例ヲ推シテ麥酒一「バーレル」ニハ二「封度」ハ三邊ニ當ルヲ使用スルノ平均ニ當ルト爲シ。即チ麥酒ノ量數ニ之ヲ加ヘ釀造ノ多寡ニ隨テ免許稅ノ額ヲ昂低スルナリ。然レモ政府

ノ收入ニ至テハ其効少シ。蓋シ當時ニ在テモ亦必ス其然ルヲ思料スル者ナキニ非サルナリ。若シ稗穂稅ヲ廢止セスシテ仍今日ニ賦課セシメハ。昨年ノ稗穂使用ノ量數ハ約四千九百萬封度麥酒一「バーレル」ヲ以テ稗穂二封度ト爲ス。ナリ。故ニ三十萬六千磅ノ收入ヲ得ルヘク。又此數ノ麥酒ヲ以テ從前施行スル免許稅九萬六千磅ヲ得ルヘク。其總計ハ四十萬二千磅ノ多キニ上ルヘキニ。當時改正ノ免許稅ニ由テ反テ三十五萬五千六百七十二磅ヲ收メタルノミ。

千八百六十九年三月三十一日ニ終ル一週年間免許狀發付ノ數ハ三萬五千六百六十四枚ニシテ其稅ハ一枚毎ニ殆ント十磅ノ平均ニ當レリ。千八百六十二年ノ改正ニ因テ免許狀發付ノ數ノ大ニ減セサリシハ巨數ノ低稅免許狀ニ改正ヲ加ルノ甚タ妙ナキニ由ルナリ。

現今施行スル麥酒釀造ノ免許稅ハ。免許狀ヲ付與スルノ時ニ十二司令

六邊尼ヲ課ス。若シ一箇年ノ終ニ至リ釀造二十「バーレル」ヲ超ヘサレハ。更ニ十二司令六邊尼ヲ增課シ之ヲ超レハ。則チ左ノ例ニ從テ增課ス。

釀造二十「バーレル」乃至五十「バーレル」。

一磅七司令六邊尼

釀造五十「バーレル」乃至百「バーレル」。

二磅

釀造百「バーレル」乃至千「バーレル」コハ五十「バーレル」及ヒ其畸數毎ニ十五司令ヲ增課シ。千「バーレル」乃至五萬「バーレル」コハ五十「バーレル」毎ニ十四司令五萬「バーレル」以上コハ五十「バーレル」毎ニ十二司令六邊尼ヲ增課ス。

千七百八十四年ニ於テ麥酒四萬「バーレル」以上ヲ釀造スル免許稅即チ該稅中最モ昂貴ナル者ハ五十磅ニシテ千八百二十五年ニハ七十五磅



ナリシニ。現今ノ税法ニ從ヘハ。五萬「パーレル」ヲ釀造スルノ税ハ。七百零一磅十司令ニ當リ。之ヲ超レハ。其税亦隨テ増加スルノ計算ナリ。現今施行ノ免許税ハ。之ヲ諸般ノ税ニ比スレハ。未ダ重税ト稱スヘキノ域ニ至ラス。故ニ曾テ脱税ヲ規ル者ナシ。然レモ若シ之ヨリ昂貴ナルノ税ヲ課セント欲スレハ。則チ不可ナリ。

前ニ記スル所ノ千八百二十五年以前ニ係ル釀造免許税ノ課率ハ。大親利頗國內ヲ限り之ヲ施行ス。其合衆王國內ノ税率ヲ畫一シテ之ヲ施行セシハ。千八百二十五年以降ノ事ニ係レリ。

愛爾蘭ノ免許税ハ。千八百二十五年前ニ在テハ。印税トシテ之ヲ賦課セシニ。其税率ハ他ノ免許税ニ同シク。壓制政事ニ出ルノ狀アリ。千八百十二年愛爾蘭ノ釀造免許税ハ。即チ左ノ如シ。

都伯林「コーク」「フォートル」「ワルド」及ヒ「リメリック」ニ在テハ。

五十二磅十司令

此ヨリ二里以内ノ地ニ在テハ。

三十一磅十司令

都伯林ヨリ五里以内ノ地及ヒ税法ニ記スル二十七箇所ヨリ一里以内ノ地ニ在テハ。

二十六磅五司令

此他ノ地ハ。

二十一磅

國產税ヲ課スル飲料ノ販賣免許税國產税ヲ課スル飲料トハ「第一」酒精「第二」外國製葡萄酒「第三」內國製葡萄酒「第四」麥酒及ヒ林檎酒ヲ總稱シテ云フ。

此總稱中ニ在ル所ノ免許税ノ種類及ヒ免許ヲ得テ營業スル商賈ハ。左ノ如シ。

卸賣商	商賈ノ員數	免許税ノ數
酒精卸賣商	五、八九四	七五、一八二
麥酒卸賣商	五、九五二	二〇、六二六
外國製葡萄酒卸賣商	三、六三九	四一、二〇二
內國製葡萄酒卸賣者	一、二三三	六五九
小賣商		
酒店主	九八、〇〇九	九二四、一四三
麥酒店主	九二、五九〇	一八三、〇一六
葡萄酒ヲ小賣スル休憩店主	二、九七四	一一、四一八
葡萄酒小賣商店頭 <small>於テ廢消セシメサル者ヲ限ル</small>	四、七八〇	一一、八七六

內國製葡萄酒ノ小賣商	九、〇二四	一〇、四〇七
郵船内ニ在テ國產税ヲ課スル飲料ヲ小賣スル者	三七四	四〇八
尋常麥酒小賣商	二、七二〇	七三〇
麥酒ヲ釀造シ及ヒ小賣スル者	一七	九三
計	一八六、〇九六	一一二八六、七五九

此等ノ免許税ニ於テハ。衆庶ノ疑團ヲ抱クヤ久シ。故ニ今細カニ該税ノ性質及ヒ收税ノ次序ヲ記スルハ。決シテ無益ノ事ニ非ルヘシ。且之ニ關スル諸般ノ規則ハ。或ハ警視局ノ管理ニ屬シ。或ハ本寮ノ管理ニ屬ス。而シテ其警視局ニ屬スル者ヲ提記スルハ。此書ノ旨趣ニ非スト雖モ。既ニ本寮ノ免許狀ハ該局ヲ經テ之ヲ發付スレハ。則チ此レ亦已ヲ得サルナリ。因テ千八百六十三年。國產税ヲ課スル飲料販賣免許税ノ改正案ヲ起

草スルノ時ニ方リスリング氏ノ纂輯セシ英倫國內施行ノ警視規則沿革書中ヨリ左ノ數項ヲ抄録ス。

義德瓦第六世第三十五章ニ曰ク。通常暴飲酒樓ト稱スル麥酒店及ヒ他ノ酒店ニ於テ衆民相會シテ雜選スルハ國安ヲ害スルヲ甚カラス。因テ此等ノ酒店主ハ警視官二名連署ノ免許狀ヲ請テ之ヲ領スヘシ。又該官ハ免許狀ヲ付與スルニ方リ應ニ其店主ヲシテ將來雜選ノ事ナキヲ保証セシムヘシト。此法令ハ其後惹爾日二世第二十八章ヲ以テ擴充シ凡ソ警視官ノ任所ヨリ隔絶スル地ノ傳舍主ニ免許狀ヲ付與スルハ該主ノ爲メニ不便アルヲ以テ傳舍主ノ免許狀ハ該主ノ居住スル區内ニ勤仕スル警視官ノ通常會ニ於テ應ニ之ヲ付與スヘシト令セリ。但此二法令ハ爾後竝ニ廢止スト雖モ傳舍營業ノ免許狀ハ仍今日ニ至ルマテ警視官ノ特別會ニ於テ之ヲ付與ス。

傳舍營業免許狀ハ毎年之ヲ付與ス。之ヲ付與スルト否トハ警視官ノ權内ニアリ。而シテ此免許狀ハ地方官吏并ニ法官及ヒ免許狀ニ關スル規則ニ違犯スルノ故ヲ以テ警視官ノ三箇年間之ヲ請求スルヲ得スト判決シタル者ハ竝ニ之ヲ請求スルヲ得ス。又警視官ノ免許狀ヲ付與セサルヲ不當ト爲シ其事由ヲ上告スルヲ得ルハ唯巡回裁判所ニ控訴スルノ一路アルノミ。何トナレハ凡ソ警視官ノ措置タル惡意ニ發スルカ或ハ賄賂ニ出テタルノ事項ニ非レハ大審院ニ於テハ警視官ヲシテ強テ免許狀ヲ付與セシメ或ハ警視官ノ判決ヲ破毀スルヲ得サレハナリ。

義德瓦第六世ノ代ヨリ千八百三十年ニ至ルマテ警視官ヲシテ免許狀ヲ付與セシムルノ旨趣ハ麥酒店主ノ國產稅ヲ課スル飲料ヲ小賣シ以テ店頭ニ於テ廉消セシムルヲ准スニ在ルヤ知ルヘキナリ。何ト

ナレハ。當時ノ法令ニ據レハ。國產稅局ハ。警視官ノ付與スル免許狀ヲ領スル者ニ非レハ。酒精、内外國製ノ葡萄酒、麥酒及ヒ他ノ飲料ノ販賣ヲ惟スヲ得サレハナリ。然レモ此法令ハ維廉第四世第六十四章ヲ以テ。大ニ其旨趣ヲ變更セリ。乃チ其文ニ曰ク。千八百三十年十月十日以降。地方官吏及ヒ法官ヲ除クノ外。一家ノ居住人ニシテ。警視官ノ付與セシ免許狀ニ明記スル所ノ店舗ニ於テスル者ハ。麥酒、黑麥酒、梨酒、林檎酒等ヲ販賣スル免許狀ヲ國產局ニ請ヒ領スルヲ得ルヘシト。此時又免許狀ノ持主ヲシテ。豫シメ法令ニ違反スル有レハ。保人一名ナレハ二十磅ノ罰金ヲ上納シ。保人二名ナレハ十磅ノ罰金ヲ上納スヘキヲ誓フノ證書ヲ呈セシメ。若シ違反スレハ。則チ證書ニ記スルノ數ニ依テ。本人若クハ保人ヨリ罰金ヲ徵收スルノ制ヲ定メ。又賊徒蜂起ノ時ニ方テハ。麥酒店ヲ閉鎖セシメ。若クハ該店主ヲシテ新定施行ノ量

器ヲ使用セシムルノ權。并ニ店主カ他人ノ亂醉狂暴ノ行アルヲ默視シ及ヒ偽造ノ麥酒ヲ販賣スレハ。之ニ罰金ヲ科スルヲ得ルノ權ヲ警視官ニ付與ス。又該店開閉ノ時限ニ於テハ。毎日午前四時前若クハ午後十時後ニ在テハ開店スルヲ禁止シ。日曜日若クハ祭日ニ在テハ。午前十時乃至午後一時。午後三時乃至五時ノ間ニ於テ。閉店セシメタリ。然ルニ此諸法令ハ。曾テ麥酒ノ販賣ニ制限ヲ施ス無キカ爲メ。多少ノ弊害ヲ生スルヲ免レス。故ニ千八百三十四年ニ於テハ。免許狀ヲ甲乙二種ニ分チ。其甲ヲ店頭ニ於テ販賣スル麥酒ヲ販賣スルノ免許狀ト爲シ。其乙ヲ店頭ニ於テ販賣セサル者ヲ販賣スルノ免許狀ト爲セリ。而シテ乙ニ於テハ。毫モ從前ノ成規ヲ改正スルコナク。特ニ甲ノ店主ヲシテ同郷ノ戶主六名ノ連署スル履歷書ヲ呈セシム。但倫敦府内及ヒ人口五千ニ滿ルノ都會若クハ其一里内ニ住スル者ノ如キハ。別ニ

履歷書ヲ呈スルヲ須ヒス。仍其住家ハ一箇年十磅ニ値スルヲ證セ  
 シメ。且免許ヲ得タル麥酒店ヲ巡檢シ。及ヒ該店主ヲシテ。毎日午前五  
 時乃至午後十一時ノ間ヲ限り開店セシメ。日曜日及ヒ祭日ニ在テハ。  
 午後一時ニ至レハ閉店セシムルヲ得ルノ權ヲ警視官ニ付與セリ。  
 維多利亞第六十一章ヲ以テ。更ニ此制限ヲ嚴明ニシ。甲ノ店主ヲシテ  
 履歷書ヲ呈セシムルハ仍從前ノ法ノ如キノ外。甲乙竝ニ其店ノ價值  
 ニ從テ許否スルノ一項ヲ追加シ。其價值ハ其店ノ現在ノ地位ヲ以テ  
 之ヲ區別ス。乃チ倫敦府内及ヒ戶口檢査ニ於テ。人口一萬ニ超ルノ地  
 ニ在テハ。十五磅ノ價值ヲ有スル者ヲ限り。其一萬乃至二千五百ニ下  
 ラサルノ地ニ在テハ十一磅。其他ノ地ニ在テハ八磅ト爲シ。林檎酒ノ  
 小賣商モ。亦此例ニ照依セシム。  
 前ニ歷舉スル法令ヲ閱セハ。明カニ酒店免許狀傳會免許狀ニ同レト。麥酒店免

許狀ノ異ナル所ヲ瞭解スヘシ。麥酒店ニ在テハ。管ニ酒精及ヒ内外製  
 ノ葡萄酒等ヲ販賣スルヲ得サルノミナラス。麥酒モ。亦一次ニ四瓦倫  
 半ニ超ルノ量ヲ販賣スルヲ准サスト。雖モ酒店ハ則チ然ラス。既ニ警  
 視官ノ免許狀ヲ得。亦國產稅局ノ免許狀ヲ請ヒ領スルノ後ハ。唯他ノ  
 酒店主ニ酒精ヲ轉賣スルヲ除クノ外ハ。其卸賣ト小賣トヲ論セス。購  
 收者ノ需求ニ應シテ。國產稅ヲ課スル各種ノ飲料ヲ販賣スルヲ得ル  
 ナリ。然レモ千八百六十年葡萄酒販賣免許法ノ公布ニ於テ。此兩店ノ  
 區域ノ判然タル者ヲ減ス。乃チ該法第二十三款ヲ以テ。凡ソ地方官吏  
 及ヒ法官ヲ除クノ外。食店ノ主タル者。初メニ休憩店免許狀ヲ請ヒ領  
 スレハ。何人ヲ論セス。内外製ノ葡萄酒ヲ小賣シ及ヒ店頭ニ於テ之ヲ  
 廉消セシムルノ免許狀ヲ請フコヲ准シ。仍該店ノ價值。人口一萬ニ超  
 ルノ地ニ在テハ。一箇年二十磅。其他ノ地ニ在テハ十磅ヲ限り。該免許

狀ヲ請フ者ヲシテ預メ其旨趣ヲ警視官ニ告ケシム。若シ警視官食店ヲ查驗シテ其價值ノ法令ニ掲ル者ニ適セス。或ハ室内ノ不規則ナルヲ若クハ此時ヲ距ル三箇年以内ニ在テ禁獄ノ處刑ヲ受ケ。或ハ傳舍主及ヒ麥酒店主ノ免許狀ヲ領シテ之ヲ沒收セラレシコトヲ查明スレハ其發付ヲ禁止シ。且食店免許狀ヲ領スル者ヲシテ一次ニ葡萄酒類ニ瓦倫以上ヲ販賣スルヲ得サラシメ。而シテ該店開閉ノ時期ハ麥酒店及ヒ傳舍ノ例ニ照依セシム。其後維多利亞第九十一章ヲ以テ更ニ其區域ノ異ナル所ヲ減ス。乃チ食店主ノ外製葡萄酒ヲ販賣スルハ猶酒店主ノ如クナラシムルノ外内製葡萄酒及ヒ麥酒ノ販賣ヲ准セリ。此諸法令ノ旨趣ハ店頭ニ於テ廉消スル飲料ヲ販賣スルノ點ニ於テハ麥酒店主ニ葡萄酒ノ販賣免許狀及ヒ他ノ國產免許狀ヲ請ヒ領スルコトヲ准シ。以テ警視官ノ免許狀ヲ領スル傳舍主ノ地位ニ至ラシム

ルニアリ。故ニ唯其異ナル所ノ者ハ傳舍主ハ酒精ノ販賣免許狀ヲ請ヒ領スルヲ得ルト雖モ麥酒店主ニ至テハ則チ然ルヲ得サルノミ。蘇格蘭ノ免許狀ニ關スル諸法令ハ英倫ト大同ニシテ小異アリ。而シテ維多利亞第六十七章所謂「フォルベス、マケンジ」法及ヒ第三十五章ヲ以テ改正ヲ加ヘタル者特ニ緊要ナルヲ以テ左ニ其要領ヲ掲ク。警視官ニ於テ國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣免許狀ヲ付與スル者ハ左ノ如シ。

第一傳舍及ヒ旅館傳舍及ヒ旅館ハ旅客ノ宿房ニ供スル爲メ。少クモ互ニ區域ヲ異ニスル寢室四所ヲ備ヘサルヘカラス。

第二酒店

第三雜貨店茶砂糖咖啡菓實香料及ヒ食物店。此店鋪ニ於テハ酒精等ヲ販賣スル店鋪。及ヒ食物店ノ需用者ヲシテ店頭ニ於テ廉消セシムルヲ准サス。

通常午後十一時乃至午前八時ノ間ニ在テハ。免許狀ヲ領スル者ト雖モ。飲料ヲ販賣スルヲ准サ、レモ。地方ノ形狀ニ因テ。旅館及ヒ酒店等ヲ開閉スルノ時限ヲ斟酌セサルヲ得サル者アリ。故ニ警視官ハ開店ノ時限ニ於テハ。午前六時乃至八時ノ間ヲ斟酌シ。閉店ノ時限ニ於テハ。午後九時乃至十一時ノ間ヲ斟酌ス。又饗宴等ノ如キ特別ノ事ニ至テハ。免許狀中ニ明記スル所ノ外。更ニ時限ヲ延スヲ得ヘシ。但日曜日ニ在テハ。終日飲料ヲ販賣スルヲ准サスト雖モ。旅館ノ宿客及ヒ行旅ノ人ニ販賣スルハ此限ニ在ラス。而シテ酒精及ヒ外製葡萄酒ノ販賣免許狀ヲ領スル者ハ。麥酒モ亦之ヲ販賣スルヲ得ルト雖モ。警視官ノ意見ヲ以テ。其量ヲ限ルヲ得ヘシ。

旅館主若クハ酒店主ニ非スシテ。免許狀ヲ請フ者ハ。地方若クハ區内ノ警視官ニ於テ。其家屋ノ適當ナルコトヲ保スルノ書及ヒ其人ノ品行ニ就テ。警視官二名ノ連署セル履歷書ヲ呈スルヲ須要ス。若シ之ヲ呈セサルハ。免許狀ヲ付與スルヲ准サス。又警視官ハ。時々酒店及ヒ休憩店ヲ巡檢スルヲ得ヘシ。

維多利亞第三十五章ハ。尋常麥酒販賣者ノ店舗開閉ノ時期ヲ限テ。他ノ飲料小賣商ニ同カラシムルノ條款ヲ載セ。且免許狀ヲ領セスシテ。國產稅ヲ課スル飲料ヲ販賣スル者ヲ制止スルノ規法ヲ示ス。

前ニ歷舉スル法令ヲ閱セハ。麥酒店及ヒ休憩店ニ關スル諸法令ハ。之ヲ蘇國內ニ施行セサルコトヲ瞭知スヘシ。

愛爾蘭ノ免許法ノ緊要ナル者ハ。維廉第四世第六十四章トス。然レモ此法令ハ。爾後改正ヲ加フル多キヲ以テ。現今施行スル者ニ就キ。其要領ヲ左ニ掲ク。

免許狀ハ。巡回裁判ノ席ニ於テ警視官之ヲ付與ス。而シテ此免許狀ハ

唯麥酒ノ販賣ノミニ限ル。若シ此免許狀ヲ請求スル者アルニ方リ。警視官之ヲ付與スルヲ聽サ、ルキハ。其理由ノ説明書ヲ作り。書記ニ付シテ之ヲ簿冊ニ登記セシム。

免許狀ノ期限既ニ滿チ。更ニ之ヲ請求セント欲スル者ハ。其品行及ヒ前年店舗内ノ檢攝ニ就テ非議スヘキ者ナキコトヲ。其区内ニ住スル戶主六名及ヒ警視官二名以上ノ連署保證セルノ書ヲ呈スルヲ須要ス。若シ警視官之ニ連署スルコトヲ聽サ、ルキハ。其理由ノ説明書ヲ其主ニ交付ス。其主若シ服セサレハ該書ヲ將テ巡回裁判所ニ控訴スルヲ得ヘシ。

守關者、捕吏、獄卒、警視官吏、地方官吏、法官、蒸餾者、精餾者、酒精混和者及ヒ戶主ニ非ル者ハ。國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣免許狀ヲ請求スルヲ得ス。又酒店主ハ。行旅ノ客ヲ除クノ外。平日ニ在テハ午後十一時乃至

午前七時ノ間、日曜日ニ在テハ。午後二時前及ヒ午後九時乃至翌日ノ午前九時ノ間ニ於テ。飲料ヲ販賣スルヲ得ス。

區會ハ。酒精及ヒ麥酒ノ販賣者并ニ其店舗ヲ監視セシムル爲メ。二十名ヨリ多ラス十名ヨリ少ラサル監督ヲ命ス。若シ區會ニ於テ命セサレハ。警視官二名以上連署シテ之ヲ命ス。又酒店主。六箇月内ニ酒店ニ關スル諸法令ニ違犯スルコト三次ニ至レハ。巡回裁判ノ席ニ於テ。警視官二名以上連署シテ免許狀ヲ銷棄スルヲ得ヘシ。

麥酒店法ハ之ヲ愛國內ニ施行セス。然レヒ休憩店法ハ英倫國內ニ公布スルニ方テ。愛國ニ於テモ亦之ニ類スル法令ヲ施行セリ。

警視規則ノ英蘇愛三國ニ異ナル所ハ。左ノ如シ。

英倫ニ於テ。警視官ノ職權ハ。特ニ店頭ニ於テ。靡消スル酒精ノ小賣商ニ限リ。他ハ其權内ニ在ラス。



蘇格蘭ニ在テ警視官ノ職權ハ尋常麥酒<sup>ブライネビヤ</sup>ノ販賣者并ニ他ノ麥酒若クハ酒精ノ卸賣麥酒ハ一次ニ四瓦倫半酒精ハ二瓦倫ヨリ少キヲ得スヲ除クノ外國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣ニ關スル者ハ總テ其權内トス。而シテ該國ニ於テ雜貨商ニシテ酒店ノ業ヲ兼ヌルハ法令ノ禁止スル所ナリ。故ニ雜貨商ハ本業ノ免許狀ヲ警視官ヨリ請ヒ領シ兼テ店頭ニ於テ糜消セサル酒精等ヲ小賣ス。英倫ノ地方ニ在テハ雜貨商ニシテ酒店ノ業ヲ兼ヌル者比々皆然リ。

愛爾蘭ニ在テ警視官ノ職權ハ店頭ニ於テ糜消スル麥酒及ヒ酒精等ノ小賣ニ及フト雖モ近時休憩店法ノ公布アリシ以來ハ曾テ外國製ノ葡萄酒ノ販賣ニ關係スルコトナシ。而シテ雜貨商ハ警視官ノ免許狀ヲ領セサルモ一次ニ二クワルト以下ヲ販賣シ店頭ニ於テ糜消セサルハ酒精小賣ノ免許狀ヲ國產稅局ニ請ヒ領スルヲ得ヘシ。

國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣免許稅ハ初メ印稅トシテ之ヲ賦課ス。即チ外國製葡萄酒ノ販賣ニハ四司令ヲ收メ麥酒ノ販賣ニハ一司令ヲ收ム。而シテ此免許狀ハ警視官ヨリ之ヲ付與セリ。千七百九十年ニ至テ外國製葡萄酒ノ販賣免許稅ヲ國產稅局ノ所轄ニ歸ス。又麥酒ノ販賣免許稅ハ初メ印稅局ノ管理ナリシニ千八百八年ニ至テ亦之ヲ國產稅局ノ所轄ニ屬セリ。

國產稅ヲ課スル飲料ノ販賣免許狀ヲ二種ニ分チ其一ヲ卸賣免許狀ト爲シ。其一ヲ小賣免許狀ト爲ス。而シテ麥酒ト酒精トニ於テ最モ此區別ヲ嚴明ニス。又飲料ヲ販賣シ店頭ニ於テ之ヲ糜消セシムルト否トニ因テ免許狀ノ區別アリ。而シテ其店頭ニ於テ糜消セシムルヲ得サル免許狀ハ通常ノ卸賣商ト小賣商ニ付與スル者トス。

酒精ヲ卸賣スル者一次ニ二瓦倫ヨリ少キ酒精ヲ販賣スルヲ得ス。

酒精ヲ小賣スル者(即チ酒店主)ハ。警視官ノ免許狀ヲ領スレハ。店頭ニ於テ廢消セシムルト否トヲ論セス。其量ヲ限ラスシテ販賣スルヲ得ヘシ。但他ノ小賣商ニ販賣スルハ。法令ヲ以テ之ヲ禁止ス。

麥酒ヲ卸賣スル者ハ。四瓦倫半ヨリ少キ麥酒ヲ販賣スルヲ得ス。他ノ免許狀ヲ領スル者ハ。此限ニ在ラス。

麥酒ヲ小賣スル者ハ。酒店免許狀ヲ領スレハ。店頭ニ於テ廢消セシムルト否トヲ論セス。其量ヲ限ラスシテ販賣スルヲ得ヘシ。但麥酒店免許狀ノミヲ領スル者ハ。一次ニ四瓦倫以上ヲ販賣スルヲ得ス。而シテ納税ノ多少ニ因テ。店頭ニ於テ廢消スルヲ得ルト否トノ別アリ。

外國製葡萄酒ヲ卸賣スル者ハ。其量ヲ限ラスシテ販賣スルヲ得ヘシ。外國製葡萄酒ヲ小賣スル者ハ。酒店免許狀ヲ領スレハ。其量ヲ限ラスシテ販賣スルヲ得ヘシ。但休憩店免許狀ノミヲ領スル者ハ。一次ニ二瓦倫

以上ヲ販賣スルヲ得ス。

內國製葡萄酒ヲ卸賣スル者ハ。其量ヲ限ラスシテ販賣スルヲ得ヘシ。內國製葡萄酒ヲ小賣スル者ハ。二瓦倫以上ヲ販賣スルヲ得ス。但酒店免許狀ヲ併セ領スル者ハ。店頭ニ於テ之ヲ廢消セシムルモ。其便ニ從ス。各商賈ノ國産税ヲ課スル飲料ノ販賣免許狀ヲ領スル者ハ。左ノ如シ。

第一「酒店主」 麥酒、酒精及ヒ内外製葡萄酒ノ販賣免許狀ヲ領スルヲ得ヘシ。

第二「麥酒小賣商」 麥酒店法ニ遵テ免許狀ヲ領スレハ。麥酒ノミヲ販賣シ。休憩店法ニ遵テ免許狀ヲ領スレハ。内外製葡萄酒ヲ併セテ販賣スルヲ得ヘシ。

第三「葡萄酒小賣商」 休憩店法ニ遵テ免許狀ヲ領スレハ。内外製葡萄酒ヲ販賣スルヲ得ヘシ。

第四〔内國製葡萄酒小賣商〕

第五〔<sup>オランダ</sup>尋常麥酒ノ販賣者〕

第六〔郵船内ニ在テ國產稅ヲ課スル飲料ヲ小賣スル者〕

第七〔麥酒ヲ醸造シ及ヒ小賣スル者〕

第八〔麥酒酒精及ヒ内外製葡萄酒ノ卸賣商〕

第一〔酒店主〕

酒精小賣免許稅

初メ英蘇二國ニ於テ酒精小賣免許稅ヲ課スルヤ其旨趣專ラ民治ヲ圖ルニ在テ稅務ニ關スルニ非ス故ニ千七百三十六年ノ法令ニ曰ク今ヤ揮發ノ飲料ヲ嗜ムノ習慣大ニ民間ニ染潤シ下等社會ニ在テハ最モ甚トス夫レ此種ノ飲料ヲ嗜ムノ弊タル當ニ人民ノ健康ヲ害シ品行ヲ亂

ルノヨナラス亦之カ爲メニ勤勞事業ヲ放擲敗壞スルニ至ル況ンヤ其害ハ特リ其代ニ止ラス延テ後世ニ及フニ於テヲヤ乃チ此弊害ヲ矯正スル爲メ茲ニ免許狀ヲ發付シテ五十磅ノ稅ヲ上納セシム因テ此免許狀ヲ領セサル者ハ二瓦倫ヨリ少キ啤蘭地糖水酒及ヒ其他揮發ノ飲料ヲ販賣スルヲ得スト而シテ此種ノ飲料ヲ小賣スル者ニハ更ニ其量一瓦倫毎ニ二十司令ノ增稅ヲ課シ且共免許狀ハ警視官二名ノ連署ヲ須要スルヲ布令セリ

如此キノ嚴令ヲ實行スルニ方テハ必ラス苛酷ノ所分ヲ用ヒサルヲ得ス故ニ千七百三十七年ノ法令ニ曰ク酒精呼賣商ニ科スル罰金二十磅ヲ上納スル能ハサルキハ二箇月間懲治檻ニ入レ滿期解放ノ時男女ノ別ヲ論セス半衣ヲ脱シテ肌膚ヲ露ハシ鞭撻ヲ加ヘテ血ヲ濺クニ至ラシムヘント

此年又令之曰ク。曩ニ揮發酒精ノ廢消ヲ制限スル爲メ。法令ヲ制定シテ之ヲ公布ス。而ルコ人民ノ之ヲ廢消スル。今ニ至テ仍止マス。其廢消ハ下等社會ノ間ニ於テ最モ甚シトス。加之無産ノ徒。或ハ帳幕ノ内或ハ壁墻ノ間等國法ノ許サ、ル處ニ於テ酒精ヲ密賣スル者甚々多ク。靡然風ヲ成セリ。因テ此弊害ヲ矯正スル爲メ。酒精ヲ販賣スル戸主ハ悉ク酒精ノ小賣商ヲ以テ論シ。若シ免許狀ヲ領セスシテ之ヲ販賣スレハ。罰金百磅ヲ科スヘシト。又曰國法ニ違犯シ。或ハ該法ヲ實行スルヲ妨クル爲メ。暴徒相集テ。犯者ヲ曲庇シ。或ハ犯者ヲ搜索シテ。警視官ニ密告セントスル吏員若シハ他ノ人ヲ歐擊シテ殆ント死ニ至ラシムル者アリ。因テ嗣後五名以上相集テ。如此キノ罪ヲ犯セハ。重罪人ヲ以テ論シ。流刑七年ニ處スヘシト。

千七百四十三年ノ法令ニ曰。千七百三十六年ノ法令ヲ實行スルヲ極メ

テ難ク且不便ナル者アリテ。嘗テ期スル所ノ効ヲ得ルニ至ラス。因テ酒精小賣稅二十司令及ヒ免許稅五十磅ヲ課スルノ制ヲ廢シ。更ニ酒精蒸餾者ニハ。酒精ノ種類ニ隨テ。一瓦倫毎ニ一司令乃至六邊尼ノ稅ヲ課シ。酒精小賣商ニハ。一箇年二十司令ノ免許稅ヲ課スヘシト。

蘇格蘭ニ在テハ。麥芽ヲ以テ製スル酒精ノ製造者。及ヒ其小賣商ハ。此法令ヲ遵奉スルノ限ニ在ラサリシニ。惹爾日第二世第十二章ヲ以テ。更ニ酒精販賣免許稅若干ヲ課セリ。

千七百四十七年ニ於テハ。倫敦<sup>ビルホフ、モルタリチ</sup>死亡檢査區内ノ酒精蒸餾者ヲ限リ。免許稅五磅ヲ増課シテ酒精ヲ小賣スルヲ准シタレ。之カ爲メニ弊害ヲ生スル渺カラサルヲ以テ。千七百五十一年ニ至テ之ヲ廢止シ。其地ヲ限ラスシテ。更ニ小賣免許稅二十司令ヲ増課シ。以テ酒精ノ小賣ヲ准セリ。

千七百八十四年。始テ酒店ノ價值ニ照算シテ酒精小賣免許稅ヲ課スルノ制ヲ定ム。千七百九十年ニ至テハ更ニ其課率ヲ増加シ左ノ例ニ照シテ之ヲ徵收セリ。

- 家稅ノ元價十五磅以下ニ當ル者 四磅 一四、〇
- 同十五磅乃至二十磅ニ當ル者 五 〇二、〇
- 同二十磅乃至二十五磅ニ當ル者 五 一〇、〇
- 同二十五磅乃至三十磅ニ當ル者 五 一八、〇
- 同三十磅乃至四十磅ニ當ル者 六 〇六、〇
- 同四十磅乃至五十磅ニ當ル者 六 一四、〇
- 同五十磅以上ニ當ル者 七 〇二、〇

蘇格蘭ノ酒精小賣免許稅ハ。英倫ト其課率ヲ同シセシニ。千八百三年ニ至テ該國高蘭ヲ限リ一箇年一磅ニ減シ其市府及ヒ他ノ地ニ在テハ之

ヲ二磅ニマテ減ス。然レモ千八百十五年ニハ再ヒ之ヲ増加シテ從前ノ額ニ倍スルノ稅ヲ課セリ。

千八百十六年ニ於テハ。英倫ノ酒精小賣免許稅ヲ改正シテ。約從前ヨリ百分ノ五ヲ増加シタリ。但其最下ニ在ル二項ノ稅額即チ四磅十四司令及ヒ五磅二司令ハ之ヲ増加スルコト此例ニ準スルニ至ラス。千八百二十四年ニ至テ其法ヲ改メ其課率ヲ減シ。千八百二十五年又少シク改正セリ。此レ即チ今日英倫ニ施行スル所ノ者トス。其稅率左ノ如シ。

- 家賃十磅以下ニ當ル者 二磅 〇四、一
- 同 十磅乃至二十磅ニ當ル者 四 〇八、二
- 同 二十磅乃至二十五磅ニ當ル者 六 一二、三
- 同 二十五磅乃至三十磅ニ當ル者 七 一四、四
- 同 三十磅乃至四十磅ニ當ル者 八 一六、四

同 四十磅乃至五十磅ニ當ル者  
同 五十磅以上ニ當ル者

二百四十二  
九 一八、五  
一 〇〇、六

蘇格蘭ノ酒精小賣免許稅ハ、千八百五十三年ヲ以テ改正シ、爾來連綿之ヲ施行シテ今日ニ至ル。又該國ニ於テハ、酒精小賣免許狀ヲ領スレハ、麥酒ヲ販賣スルヲ准ス。其稅率左ノ如シ。

家賃十磅以下ニ當ル者	四	〇四、〇
同 十磅乃至二十磅ニ當ル者	五	〇五、〇
同 二十磅乃至二十五磅ニ當ル者	九	〇九、〇
同 二十五磅乃至三十磅ニ當ル者	一〇	一〇、〇
同 三十磅乃至四十磅ニ當ル者	一一	一一、〇
同 四十磅乃至五十磅ニ當ル者	一二	一二、〇
同 五十磅以上ニ當ル者	一三	一三、〇

愛爾蘭ノ酒店免許稅ハ、初メ印稅トシテ之ヲ課セリ。千八百十二年ノ印稅法纂輯書ニ據ルニ、當時課稅ノ法ハ、飲料ノ種類ヲ分テ、揮發ノ飲料、葡萄酒、麥酒、ポルトル「エール」種酒、林檎酒、梨酒、蜂蜜水ヲ販賣スルノ稅ヲ一種ト爲シ、唯販賣ノ地ニ因テ其課率ヲ異ニス。即チ左ニ記スルカ如シ。故ニ一見スレハ、其法ノ奇異ニシテ且奇酷ナルヲ知ルニ足ル。

都伯林「コーク」ウ「アートル」フ「アルト」リ「メリツク」及ヒ「ベル」フ「ワスト」ニ在テハ。

四十磅

都伯林ヲ距ル二里以内、及ヒ「コーク」ウ「アートル」フ「アルド」リ「メリツク」若クハ「ベル」フ「ワスト」ヲ距ル一里以内ニ在テハ。

三十三磅

都伯林ヲ距ル五里以内、及ヒ此法令ニ明記スル二十七箇所ノ市府ヲ

二百四十三

距一里内ニ在テハ。

二十二磅

此他ノ地ハ。

十一磅

此税額ノ外百分ノ五ニ當ル増税ヲ課シ其最低ノ税即チ十一磅ヲ上納  
シテ飲料ヲ小賣スル者若シ一次ニ二瓦倫以上ヲ販賣スレハ更ニ十一  
磅ノ増税ヲ課セリ千八百十五年ニ至テ此税ヲ以テ國產税局ノ管理ニ  
屬ス然レモ此時ニ於テハ唯小賣商ニ更ニ課スル十一磅ノ増税ヲ廢止  
スルノ外ハ課税ノ規法等曾テ變更スル所ナシ

千八百二十五年ニ在テハ愛爾蘭ノ免許税法ヲ改正シテ其課率ヲ英倫  
ト同一ナラシム然レモ茶咖啡等ヲ販賣スル商賣ノ免許税ニ至テハ特  
ニ左ノ例ニ照シテ之ヲ賦課ス而シテ店頭ニ於テ酒精ヲ廉消セシメ及

ヒ一次ニニクヲールト以上ヲ販賣スルヲ准サス。

家賃二十五磅ニ當ル者

九稅 一八五司令 7/10

同二十五磅乃至三十磅ニ當ル者

一一 〇〇六

同三十磅乃至四十磅ニ當ル者

一二 〇二六 7/10

同四十磅乃至五十磅ニ當ル者

一三 〇四七

同五十磅以上ニ當ル者

一四 〇六七 3/10

麥酒小賣免許税

酒店主ノ麥酒小賣免許税ハ安納女王ノ代ニ在テハ印税トシテ之ヲ賦  
課ス初メ其課率ハ一司令ナリシニ漸次之ヲ増加シテ或ハ一磅一司令  
一磅十司令六邊尼若クハ二磅二司令四磅四司令ト爲シ遂ニ國產税局  
ノ管理ニ屬ス數年ヲ經ルノ後チ即チ千八百十六年ニ至テ家賃ニ照算

レテ之ヲ賦課セリ其課率家賃十五磅以下ハ二磅二司令十五磅乃至二十磅ハ三磅三司令二十磅以上ハ四磅四司令ナリ。

千八百二十五年ニ於テハ英蘇愛三國ノ麥酒小賣免許税ノ課率ヲ畫一セリ而シテ英愛ノ二國ニ在テハ今日ニ至ルマテ仍之ヲ施行ス其稅率左ノ如シ。

家賃二十磅以下ニ當ル者

一磅 司令 〇二、〇<sup>7</sup>/<sub>11</sub>

同二十磅以上ニ當ル者

三 〇六、一<sup>3</sup>/<sub>11</sub>

千八百六十三年ニ至テ英愛二國ノ酒店主ニシテ酒精販賣免許狀ヲ領セサル者兵營内ノ雜貨商ヲ除クハ家賃二十磅以下ヲ辨スルト雖モ必ス麥酒小賣免許税三磅六司令一邊尼四分ノ三ヲ上納セサル可ラサルコトヲ令セリ此法令ノ由テ起ル所ハ免許税ノ低下ナル者即チ一磅二司令半邊尼ヲ上納シテ麥酒ヲ販賣セントスルノ旨趣ヲ以テ傳舍營業ノ

免許ヲ請フ者日ニ増加ス然ルニ警視官ニ於テ之ヲ付與スルヲ聽サレハ麥酒ノ販賣ヲ妨ケ若シ之ヲ付與スレハ政府ノ歲入ヲ減スルノ弊アレハナリ。

蘇格蘭ノ麥酒小賣免許税法ハ千八百五十三年ヲ以テ之ヲ改正シ今日ニ至ルマテ仍之ヲ施行ス其稅率ハ即チ左ノ如シ。

家賃十磅以下ニ當ル者

二 司令 一〇、〇

同十磅以上ニ當ル者

四 〇四、〇

外國製葡萄酒小賣免許税

外國製葡萄酒ヲ小賣スル酒店主ノ免許税ハ千七百十年ヲ以テ僅額ノ印税ヲ課スルニ濫賜シ千七百五十七年ニ至テ麥酒ノミヲ販賣スル免許狀ヲ領スル者ハ之ヲ四磅ニ増加シ麥酒并ニ酒精ヲ販賣スル免許狀



ヲ領スル者ハ二磅ニ増加ス。而シテ蘇格蘭ニ在テハ前者ヲ二磅十三司  
令四邊尼ト爲シ。後者ヲ一磅六司令八邊尼ト爲ス。

千八百二十五年英蘇愛三國ノ免許稅ノ課率ヲ畫一スルノ時モ亦此主  
義ニ仍テ之ヲ賦課ス。其稅率左ノ如シ。

麥酒ノミヲ販賣スル免許狀ヲ領スル者	四	磅
麥酒并ニ酒精ヲ販賣スル免許狀ヲ領スル者	二	〇四、一

内國製葡萄酒小賣免許稅

内國製葡萄酒小賣免許稅ハ千八百九十年ヲ以テ始テ之ヲ賦課シ。今ヤ  
英蘇愛ノ三國皆其課率ヲ同クス。而シテ其規法ハ曾テ家賃ノ多寡ニ關  
セス。總テ一磅二司令半邊尼トス。

第二(麥酒小賣商)

酒店主ニ次テ緊要ナル者ハ千八百三十年ノ麥酒店法ニ遵テ麥酒ヲ小  
賣スルノ商賣トス。既ニ麥酒稅ヲ廢止シ。之ニ代ルニ該法ヲ以テスルヤ。  
警視官ノ免許狀ヲ領セサル者ト雖モ麥酒ヲ小賣スルヲ得セシム。即チ  
前ニ述ル所ノ如シ。然レモ該法ハ唯英倫ノ一國內ニ施行シ。蘇愛ノ二國  
ニ及サス。

麥酒稅廢止ノ案ハ麥酒商況審査委員之ヲ草成シテ議院ニ紹介セリ。委  
員長カリクヲフト氏ノ演說ニ曰。本案ノ旨意ハ麥酒ノ販賣ヲシテ自由  
ノ域ヲ得セシムルニアリ。夫レ自由販賣ノ主義タルヤ。夙ニ諸卿ノ採用  
スル所ニ係レリ。故ニ今麥酒稅ヲ廢止セント欲スレハ。則チ此主義ヲ捨  
テ、復タ他ニ據ルヘキノ者アラサルナリ云ヤト。

麥酒店法ニ據ルニ店頭ニ於テ廉消スル麥酒ノ小賣免許稅ハ二磅二司  
令ナリシニ爾後一回ノ改正ヲ經テ。遂ニ今日百分ノ五ニ當ルノ稅ヲ課

スルニ至ル。其稅率左ノ如シ。

店頭ニ於テ廢消セサル麥酒及ヒ林檎酒ノ小賣免許稅。	一	司令	〇二、〇	ニ
店頭ニ於テ廢消スル麥酒及ヒ林檎酒ノ小賣免許稅。	三		〇六、一	三
店頭ニ於テ廢消シ若クハ廢消セサル林檎酒ノ小賣免許稅。	一		〇二、〇	ニ

第三休憩店法ヲ遵奉スル外國製葡萄酒小賣商及ヒ休憩店

千八百六十年哥刺德斯頓氏ハ。倫敦府内免許狀ヲ領スル酒店ノ夜間其  
 戸ヲ鎖スノ後。仍開店シテ營業スル店舖ニ免許稅ヲ課セリ。此課稅ノ旨  
 趣ハ。民治ヲ圖ルニ出テ。亦タ佛蘭西條約并ニ曾テ會計豫算表ノ說明ニ  
 於テ開演シタル政略ニ基キ。外國輸入葡萄酒ノ販賣ヲ盛大ニセント欲  
 スルニ在ルナリ。因テ午後十時乃至午前五時ノ間。衆庶ノ集同饗宴若ク  
 ハ休憩ニ備フル所ノ店舖ニシテ。麥酒酒精及ヒ葡萄酒等ヲ販賣スルノ  
 免許狀ヲ領セサル者アレハ。則チ稅吏ヲ派遣シテ。其家屋ヲ查驗セシメ。

且該店主ヲシテ。酒類ノ販賣免許狀ヲ請ヒ領セシム。此店舖ヲ名ケテ。休  
 憩店ト稱ス。而シテ千八百六十一年ヲ以テ改正セル休憩店免許稅ノ課  
 率ハ即チ左ノ如シ。

家屋ノ價值一箇年三十磅以下ニ當ル者	一	司令	一〇、六
同一箇年三十磅以上ニ當ル者	一		〇一、〇
休憩店ノ免許ヲ得ル者。若シ二三ノ成規ニ遵テ左ノ稅ヲ上納スレハ。亦 内外製葡萄酒ノ販賣免許狀ヲ領スルヲ得ヘシ。	三	司令	〇三、〇
家賃五十磅以下ニ當ル者	五		〇五、〇
家賃五十磅以上ニ當ル者	二	司令	〇二、〇
休憩店主ハ。左ノ稅ヲ上納スレハ。亦店頭ニ於テ廢消セシメス。且二瓦倫 ヨリ少キ葡萄酒ノ販賣免許狀ヲ領スルヲ得ヘシ。	二	司令	〇二、〇
家賃五十磅以下ニ當ル者	二		〇二、〇

家賃五十磅以上ニ當ル者

二百五十二

三三〇三〇

千八百六十年ノ休憩店法ハ初メ英倫ニノミ施行セシニ其年亦之ヲ愛爾蘭ニ施行セリ。

千八百六十一年三月三十一日ニ終ルノ年即チ課税ノ初年ニ發付シタル休憩店免許狀ノ數ハ即チ左ノ如シ。

倫敦府内ノ休憩店免許狀	免許税十司令六邊尼	三二	免許税一磅一司令	一六三三
地方ノ休憩店免許狀	一八六〇			二二七五

計

五七九八枚

收入

三三三六六磅

店頭ニ於テ廢消スル葡萄酒ノ販賣免許狀

六八六枚

店頭ニ於テ廢消セサル葡萄酒ノ販賣免許狀

七四〇枚

計

一四二六枚

收入

二六三九磅

休憩店免許税ヲ以テ收入スル税金ノ思料ノ外ニ出テ其數ノ僅少ナル此ノ如キ者ハ法令ニ依テ該稅收入ノ區域ヲ限ルニ由ルナリ。

夫レ家屋ノ價值二十磅ヲ内外シテ或ハ一磅一司令或ハ十司令六邊尼ノ如キ輕稅ヲ夜間ノ飲料販賣者ニ課スルノ規法ヲ定メ而シテ其規法ヲ遵守セシムルト否ハ唯酒類販賣及ヒ開店ノ時限ニ在レハ其夜間ニ在テ饗宴等ヲ設ルヲ證明スルヲ得テ而シテ施行スヘシ然レモ是固ヨリ難事ナレハ則チ安ソ其脫稅スルナキヲ保スヘケンヤ。

千八百六十九年三月三十一日ニ終ル一週年ニ付與セル休憩店免許狀ノ數ハ六千四百零七枚ナリ之ヲ前ノ八年間ニ比スレハ百分ノ十ヲ増

二百五十二

加シ。人口ノ増殖ノ度ニ照セハ。則チ其幾許ヲ超過ス。而シテ其増加ハ今殆ント其極點ニ至レルカ如シ。

店頭ニ於テ麻消セサル葡萄酒ノ販賣免許狀ハ。千八百六十年ニ在テ七百四十枚ヲ發付セシニ。千八百六十八年ニ至テハ。二千七百零六枚ニ上リ。其店頭ニ於テ麻消スル者ノ販賣免許狀ハ。六百八十六枚ヨリ上リテ二千九百七十四枚ニ至レリ。即チ前ナル者ハ二倍百分ノ六十五ヲ増加シ。後ナル者ハ三倍百分ノ三十二ヲ増加セルノ計算ナリ。

#### 第四(内國製葡萄酒小賣商)

千七百九十年。始テ内國製葡萄酒ノ小賣商ニ。免許稅二磅四司令ヲ課シ。後チ改正シテ。一磅二司令半邊ニ減ス。即チ今日施行スル所ノ者ニシテ。英蘇愛ノ三國並ニ其課率ヲ同クス。而シテ此免許狀ヲ以テ一次ニ二瓦倫以上ヲ販賣スルヲ准サス。其二瓦倫以上ヲ販賣スルヲ要スル者ハ。

應ニ昂額ノ稅ヲ上納シテ卸賣商ニ付與スル免許狀ヲ領セサルヘカラス。但此免許狀ノ。酒店主ニ付與スル同種ノ免許狀ニ異ナリトスル所ハ。唯之ヲ付與スルノ期日ニ前後アルノミ。即チ其一ハ七月ヲ以テシ。其一ハ他ノ酒店主ニ付與スル免許狀ト同シク十月ヲ以テス。

#### 第五(尋常麥酒販賣商)

千八百六十一年ヲ以テ。尋常麥酒「クワールトル」ノ價值一邊尼半ニ超ヘサル者ヲ販賣スレハ。其販賣者ニ免許稅五司令ヲ課スルノ令ヲ公布ス。此ヨリ先キ千八百三十年前ニ在テハ。此種ノ麥酒ヲ販賣スルニハ。曾テ免許狀ヲ領スルヲ須ヒサリシニ。其年ニ至テ始メテ免許稅ヲ課セシカリ。此時適シ其稅ノ第一麥酒店法ニ抵觸スルナキ乎否ノ疑問ヲ生ス。因テ千八百三十年十一月九日大藏卿ノ指令ヲ以テ假ニ課稅セシメ。千八百六十一年ニ至テ。更ニ課稅ノ法令ヲ發布セリ。

第六〔郵船内ニ在テ國產稅ヲ課スル飲料ヲ小賣スル者〕

此小賣人ハ一種特別ノ者ニシテ其數甚々少ク免許稅一磅二司令半邊  
尼ヲ上納スレハ或船隻ヲ限リ麥酒酒精外國製葡萄酒及ヒ煙草等ヲ販  
賣セシム然レモ免許狀ヲ付與スルハ必ス船主若クハ船長ノ推選スル  
者ヲ限ル。

第七〔麥酒ヲ釀造シ及ヒ小賣スル者〕

千八百二十四年ニ於テ麥酒ノ販賣ヲ盛大ナラシムルノ旨趣ヲ以テ警  
視官ノ允許ヲ得タル釀造者ニシテ一次ニ麥芽十六ブッセル以上ヲ用  
ヒテ釀造スル者ヲ限リ免許稅五磅五司令今五磅十司令三邊尼ヲ課ス  
ヲ上納スレハ店頭ニ於テ廢消スルヲ除ク外芳烈ノ麥酒ヲ小賣スル  
コトヲ准セリ然レモ其准許ノ區域狹少ナルノ故ヲ以テ免許狀ヲ付與  
スルノ數ハ未タ曾テ百枚ニ至ルアラス昨年(千八百六十九年)ニ於テハ

僅ニ十七枚ヲ付與セリ。

兵營及ヒ劇場内ノ酒店

兵營及ヒ劇場内ニ在テ國產稅ヲ課スル飲料ヲ販賣スルノ免許狀ハ酒  
店主ニ付與スル者ニ異ナル所ナク即チ店頭ニ於テ廢消スル飲料小賣  
ノ規法ニ同シト雖モ亦特ニ此兩種ノ免許狀ノ爲メニ設ル者ナシトセ  
ス因テ茲ニ之ヲ詳記ス。

〔兵營内ノ酒店〕 此酒店ハ特ニ軍人ノ爲メニ設置スル者ニシテ何ノ時  
ヲ論セス公務アレハ即チ開店セサルヘカラス故ニ警視官ハ特ニ免許  
狀付與ノ爲メニ開ク所ノ常年會ヲ待タス小會ヲ以テ之ヲ下付スルノ  
權ヲ有ス。

軍律ニ據レハ兵營内ノ酒店主ハ揮發ノ飲料ヲ販賣スルヲ准サス故ニ  
該店ノ借賃二十磅以下ナンハ酒精ヲ販賣セサル酒店主ノ免許稅三磅

六司令一邊尼四分三ノ例ニ依ラスシテ。一磅二司令半邊尼ヲ上納セシム。外國製葡萄酒ノ販賣免許稅ニ於ケルモ亦酒精ヲ販賣セサル酒店主ノ免許稅四磅八司令二邊尼ノ例ニ依ラスシテ。二磅四司令一邊尼ヲ上納セシム。

〔劇場内ノ酒店〕國王ノ特許ヲ得テ創立セル劇場或ハ宮内卿及ヒ警視官ノ允許ヲ得タル者若シハ他ノ遊戯場ニ於テ麥酒酒精等ヲ販賣スル者ハ普通ノ酒店免許狀ヲ領スレハ別ニ警視官ヨリ傳舍免許狀ヲ得ルヲ須ヒス。

第八〔卸賣商〕

國產稅ヲ課スル飲料ヲ卸賣スル各種ノ免許狀ハ通常一人ニシテ之ヲ併有ス。故ニ實際ノ便宜ヲ量リ各種ノ免許狀ヲ一紙ニ録シテ付與スルヲ例トス。

麥酒卸賣商

千八百二十四年ヲ以テ始テ麥酒卸賣免許狀ヲ發付ス。千八百二十五年以降ハ英蘇愛ノ三國皆其稅率ヲ同クシ。今三磅六司令一邊尼四分三ヲ賦課ス而シテ此免許狀ヲ領スル者ハ麥酒四瓦倫半以下ヲ販賣スルヲ准サ、ルコト前ニ記スル所ノ如シ。然レモ千八百六十三年ニ至リ英愛ノ二國ニ於テ既ニ麥酒卸賣免許狀ヲ領シ更ニ補助免許稅一磅一司令半邊尼ヲ上納スレハ店頭ニ於テ廢消スルヲ除ク外少量ノ麥酒ヲ販賣スルコトヲ准セリ。此ヨリ先キ千八百六十三年前ニ在テ英倫ノ麥酒卸賣商ハ麥酒店法ニ遵テ免許狀ヲ領スレハ麥酒四瓦倫以下ヲ販賣スルヲ得タリト雖モ酒精ノ卸賣ヲ兼ヌルニ至テハ亦該法ノ禁止スル所之ヲ如何トモスルコト能ハサリキ。

外國製葡萄酒卸賣商

葡萄酒ノ量ヲ限リ販賣セシムルノ點ニ於テハ、卸賣商ト酒店免許狀ヲ領スル小賣商ト曾テ區別アルコト無シ。唯異ナル所ノ者ハ、小賣商ニ於テ警視官ノ免許狀ヲ領スレハ、店頭ニ於テ之ヲ靡消セシムルヲ得ルノミ。葡萄酒卸賣免許稅ハ、千七百十年始テ印稅トシテ四司令ヲ賦課ス。千七百五十七年ニ在テハ、五磅ニ増加シ、千八百二十五年ニ至テ、之ヲ十磅ニ増加ス。而シテ今十磅十司令ヲ賦課ス。但其課率ハ、英蘇愛ノ三國並ニ差異アルコト無シ。

内國製葡萄酒卸賣商

内國製葡萄酒卸賣免許稅ハ、千七百八十四年ニ濫賜シ、初メ其課率ハ五磅ナリシニ、一タヒ之ヲ廢止スルノ後、千八百六十年ニ至テ、更ニ二瓦倫以上ヲ販賣スル者ニ、五磅五司令ヲ課セリ。但此商買ハ其數甚々少ク、昨年千八百六十九年ニ在テ免許狀ヲ付與スルノ數ハ、僅ニ百二十三枚アルノミ。

酒精卸賣商

千七百八十四年始テ英蘇二國ノ酒精卸賣商ニ免許稅五磅ヲ賦課ス。千八百二十五年ニ至テハ、之ヲ十磅ニ増加シ、以テ英蘇愛三國ノ課率ヲ同一ナラシム。

千八百四十八年、酒精卸賣商ノ免許狀ヲ領スル者、小賣免許稅二磅二司令ヲ上納スレハ、店頭ニ於テ靡消セシムルヲ除クノ外、外國製里克兒リキニール「グワルト」以上ヲ販賣スルコトヲ准セリ。該變革ハ酒店主ノ抗議スル所タリト雖モ、他日酒精卸賣商ヲシテ、各種ノ酒精「グワルト」以上ヲ販賣セシムルノ法令ヲ發スル、其基實ニ此ニ在リ。而シテ當時其販賣ヲ、特ニ外製里克兒ニ限ル所以ハ、蓋シ下議院ニ於テ酒店主等ノ權勢ヲ專握スル。自ラ政府ノ施政ヲ左右スルニ足ル者アレハナリ。

千八百六十一年ニ至テ。遂ニ酒精卸賣商ニ小賣免許稅三磅三司令ヲ上納セシメテ。各種ノ酒精一「クヲルト」以上ヲ販賣スルコトヲ准ス。此レ獨リ本寮ノ素ヨリ冀望スルノミナラス。議院ノ委員モ亦贊成スル所ナリ。而シテ此法令ヲ公布スルヤ。一ハ以テ政府ノ歲入ヲ増加シ。一ハ以テ衆庶ノ便益ヲ加フ。豈懿ナラスヤ。

#### 酒店主及ヒ他ノ小賣商ニ付與スル假免許狀

前記外ノ酒店主免許狀ノ變革ハ。政府會計ノ大得失ヲ爲スニ足ラスト雖モ。初メ議案ヲ下議院ニ紹介シ。後チ本寮ニ於テ之ヲ區處スルニ方テ。頗ル煩擾ヲ生セリ。悉爾日第四世ノ免許法ニ據レハ。凡ソ免許狀ヲ領スル酒店主ハ。定期ノ市場ヲ開キ。或ハ競馬ヲ興行スルノ時ヲ限り。假屋若クハ帳幕内ニ在テ。國產稅ヲ課スル飲料ヲ販賣スルヲ得ルノ制タリ。而シテ本寮ニ於テハ。此他ト雖モ。衆民相集ルノ時ニ方リ。之ヲ販賣スルハ。

衆民ノ便利タルコ由リ。警視官ノ允許ヲ得ル者ニハ。販賣ノ特許ヲ與フルヲ以テ。慣例ト爲セリ。因テ國法ヲ以テ更ニ之ヲ准許セラレシコトヲ冀ヒ。千八百六十二年ニ。凡ソ衆民相會シテ饗宴ヲ開キ。或ハ踏舞打毬射擊等ノ遊戯ヲ爲スニ當リ。酒店主ニ假免許狀ヲ付與シテ。國產稅ヲ課スル飲料ヲ販賣セシムルノ事ハ。本寮ノ權内ニ在テ施行スルノ案ヲ作り。之ヲ內國稅改正案中ニ加ヘテ。議院ニ紹介セシニ。其酒店主ヲ猜忌スルノ甚シキ。反テ制限ノ法ヲ嚴明ニシ。且從來定期市場及ヒ競馬場ニ在テ飲料ヲ販賣スルヲ得ルノ特許ヲ廢止シタリ。

千八百六十二年ノ決議ヲ以テ。假免許狀ノ稅額ヲ一日五司令ト定メ。警視官二名ノ允許ヲ得ルヲ須要セシニ。地方ノ酒店主ニ在テハ。警視官ノ允許ヲ得ル爲メ。遠隔ノ地ニ詣ラサルヘカラサルノ不便アリ。因テ千八百六十三年ニ於テ。此免許稅ヲ一日二司令六邊ニ減シテ。警視官一名



ノ允許ヲ以テ之ヲ聽シ。又免許狀ノ期日ヲ延シテ。曾テ特許セル所ノ定期市場及ヒ競馬場ニ在テ飲料ヲ販賣スルコトヲ准セリ。千八百六十四年ニ至テハ。更ニ此特許ヲ麥酒及ヒ外製葡萄酒小賣商〔甲〕烟草卸賣商〔乙〕及ヒ休憩店主〔丙〕ニ與ヘ。甲乙ノ免許稅ハ則チ一日一司令。丙ノ免許稅ハ則チ一日四邊尼ト定メ。而シテ警視官一名ノ允許ヲ以テ之ヲ聽セリ。

普通ノ規則

政府ノ歲入ヲ保護スルノ旨趣ヲ以テ。前記ノ商賈ニ遵奉セシムル諸規則ノ中ニ就テ。變革ノ最モ大ナル者ハ。千八百四十八年ニ。酒精卸賣商及ヒ其小賣商ニ關スル儲藏法及ヒ准許法ヲ廢止スル是レナリ。是ヨリ先キ酒精卸賣商及ヒ其小賣商ノ儲藏酒精ハ。國產稅局ノ吏員ノ期日ヲ豫定シテ巡回檢査スルヲ要シ。或ハ酒精ヲ購收者ニ搬送スルニ方テハ。必ス該吏員ノ准許票酒精ノ種類其量ヲ添ルノ制ヲ設ケ。若シ之ニ違ヘハ

該酒精ヲ沒收シ。或ハ罰金ヲ徵收セシム。其往々失錯ニ出ルヲ以テ。本寮ニ於テハ務メテ宥恕寬待シテ。徵沒スル所ノ者ヲ還付スト雖モ。之カ爲メ商賈ニ煩勞ヲ與ヘ。日子ヲ浪費セシムルコト實ニ壓小ナラス。此法既ニ此ノ如キノ弊害アリト雖モ。酒精ノ密商ヲ防クノ良制ナリトシテ。之ヲ施行セシコト久シ。今ヤ卸賣商及ヒ小賣商ノ儲藏酒精ヲ檢査スルコトヲ廢シ。又准許票ニ代ルニ商賈ノ自記スル證書ヲ以テスレハ。則チ殆ント九萬人ニ上ルノ商賈ヲシテ。復タ煩勞ノ患ナカラシメ。而シテ曾テ政府ノ歲入ヲ損害セス。本寮ニ在テハ。一歲ノ費六萬五千磅ヲ節減シ。亦吏員數名ヲ廢罷スルヲ得タリ。

右ノ二法ハ既ニ廢止スト雖モ。今仍酒精ノ商賈ヲシテ。其購收酒精ノ量ト售賣ノ酒精一瓦倫以上ニ至ル者トヲ簿冊ニ登記セシム。而シテ近時ニ至ルマテ。收稅吏ハ少クモ一季間ニ一回。酒精商賈ノ家屋ニ至テ。儲藏

品簿ヲ點檢セシニ千八百六十八年七月ニ至テ又之ヲ減却スルニ決シ  
爾後漸次減却シテ今ヤ一週年ノ内僅ニ一回ノ點檢ヲ爲スノミ  
酒精商買ヲシテ自記ノ證書ヲ作ラシムルノ無害有益ノ良制タル瞭々  
既ニ明カナルヲ以テ千八百六十八年ニ於テ亦之ヲ酒精精餾者ニ施行  
ス。因テ准許票ノ書寫ヲ擔當スル吏員ヲ廢罷スルヲ得タリ。故ニ政府ノ  
歳費ヲ節減スルモ亦甚ク妙カラストス。  
酒店免許稅ハ從來家屋ノ價值ニ隨テ増減スルノ制ナリ。故ニ其價值ヲ  
査定スルニ方リ。多少ノ難事アリシニ千八百五十一年。家稅ヲ再課スル  
ニ至テ之ニ照依スルノ便ヲ得ル以來ハ。課稅ノ率自ラ均平セリ。因テ此  
年英蘇二國ノ收入ハ七萬磅ヲ增加ス。千八百六十二年ニ至テ。又此規法  
ヲ愛爾蘭ニ施行シ之カ爲メ一萬千磅ノ收入ヲ增加スルヲ得タリ。  
麥酒店免許狀ハ從來曾テ區別ヲ設クル無シ。濫ニ之ヲ付與セシニ由リ。

麥酒商買ハ都府ト地方トヲ論セス。大ニ其弊害アルコトヲ愁訴セリ。因  
テ昨年千八百六十九年ニ至リ。其法ヲ改正ス。乃チ店頭ニ於テ廢消スル  
麥酒若クハ葡萄酒ノ販賣ハ。總テ酒店ニ於ルカ加シ。警視官ヲシテ之ヲ  
允許セシメ。其店頭ニ於テ廢消ヒザル者ニ於テハ。其請主ノ履歷若クハ  
店舖ノ不頁ナルニ因テ允許セサルノ情由ヲ具申セシム。

估價人。賣藥商。典質商。金銀細工人。呼賣商及ヒ行商ノ免許稅

課稅ノ初年	稅名	現今ノ稅額
千八百六年	估價人	二〇〇〇
千七百八十五年	賣藥商(英蘇ノ二國) 倫敦及ヒ以丁堡ニ在テハ 此二府外ノ都會ノ地ニ在テハ	二〇〇〇 〇 一〇〇〇

千七百五十八年	此他ノ地ハ ○ 〇 五 〇
典質商 倫敦及ヒ「ウエストミンスター」 ニ在テハ 一 五 〇 〇 〇	
此他ノ地ハ 七 一 〇 〇 〇	
千七百五十八年 金細工物二、ペー、ウエイト乃至二 「オンス」及ヒ銀細工物五、ペー、 ウエイト乃至三、オンスヲ販賣 スル金銀細工人 二 〇 六 〇	
千七百五十九年 金二、オンス以上及ヒ銀三十、オ ス以上ヲ販賣スル金銀細工人 ニ受ル典質商 五 一 五 〇	
呼賣商及ヒ行商「英蘇ノ二國」 徒行スル者 二 〇 〇 〇	
牛馬一匹ヲ牽ク者 四 〇 〇 〇	
牛馬ノ數ヲ増加スレハ其一匹毎ニ 四 〇 二 〇	

呼賣商愛爾 徒行スル者 二 〇 二 〇	
僕ヲ從ヘ或ハ牛馬ヲ牽ク キハ一名若クハ一匹毎ニ 二 〇 二 〇	

此諸税ハ初メ印税トシテ之ヲ賦課セシニ往々脱税ヲ規ル者アルヲ以テ千八百六十一年ニ於テ國產税局ノ監視ニ屬ス然ルニ其翌年ニ至テ遽カニ收税金百分ノ二十五ヲ増加シ其効功歲ニ著明ナルニ至レリ因テ千八百六十四年ヲ以テ之ヲ國產税局ノ管理ニ歸ス。茲ニ左ノ表ヲ以テ收税金増加ノ數ヲ示ス故ニ此ニ據レハ曾テ本寮期スル所ノ其實ニ違ハサルヲ瞭知スルニ足ルヘシ。

三月三十一日ニ終ル一週年ノ收税金	
千八百六十一年	千八百六十九年

賣藥商	五三八四磅	六八四二磅
典質商	二六五二二磅	三三〇六七磅
金銀細工人	二〇、八五七磅	二九、七一六磅
呼賣商	三七、六二四磅	五二、〇九五磅
計	九〇、三七七磅	一二一、七二〇磅

此表ヲ觀ル者ハ。呼賣商ノ免許稅ハ。千八百六十一年七月ヲ以テ。大ニ其課率ヲ減シ。千八百六十二年ニ至テハ。更ニ一種ノ呼賣商ノ稅ヲ減セシコトヲ記臆ヒサルヘカラス。而シテ現今ノ稅率ハ。千八百六十四年ヲ以テ改正シ。之ヲ千八百六十一年ノ稅額ニ照セハ。英蘇二國ニ在テハ。殆ント其半額ヲ減ス。但愛國ニ在テハ。曾テ増減スルコト無シ。

愛爾蘭ノ呼賣商免許稅額ハ。英蘇ノ二國ノ稅額ニ比スレハ。稍減スト雖

モ。昨年ニ在テ免許狀ヲ請求スル者ハ。百二十二名アルニ過キス。而シテ之ヲ英倫ノ一萬九千零六十四名。蘇格蘭ノ千五百五十四名ニ照セハ。其數ノ甚ダ掛キニ驚カサルヲ得サルナリ。但現今ニ於テ呼賣商ノ免許稅ハ。其半額ヲ上納スレハ。半年間ノ免許狀ヲ領スルコトヲ准ス。

曾テ制定スル所ノ金銀細工人ノ免許法ハ。店鋪一字毎ニ必ス免許狀一枚ヲ領セサル可ラサルヲ將タ一名若クハ數名ニテ店鋪數字ヲ有スト雖モ。免許狀一枚ヲ領スレハ足レルヲ其文義曖昧ニシテ疑ヲ生スル無キ能ハス。因テ維多利亞第九章ヲ以テ。金銀細工人ノ免許狀ハ。店鋪一字毎ニ必ラス一枚ヲ領セサル可ラサルヲ令セリ。憶フニ舊法ノ旨意モ。亦之ニ外ナラサルヘシ。

家屋周旋人ノ免許稅

千八百六十一年。始テ家屋周旋人。即チ估價人ニ非ス。糶賣者ニ非ス。而シ

テ一箇年ノ借料十五磅以上ニ當ル什物齊備ノ家屋ヲ周旋スル者ニ一箇年ノ免許税二磅ヲ課セリ。此税ハ初メ印税トシテ之ヲ賦課ス。因テ印税局ノ管理ニ屬セシヲ千八百六十四年ニ至テ他ノ免許税ト共ニ國產税局ノ所轄ニ歸セリ。而シテ其免許狀ハ素ト估價人ニ非ル者ニ付與スル所ノ者タリ。然レモ之ヲ家屋周旋人及ヒ估價人ニ併用ス。故ニ家屋ノ周旋ヲ以テ營業スル者ノ員數ハ幾許ナルカヲ詳ニスルヲ得ス。然レモ從前估價人ノ免許狀トシテ付與スル時ノ數ニ照セハ現今付與スル所甚タ多シ之ヲ乘除スレハ其剩ル所ノ數千五百名ハ即チ家屋周旋人ト爲サ、ルヘカラス。

狩獵免許税

該税ハ千七百八十四年始テ印紙トシテ英蘇ノ二國ニ施行ス。當時狩獵者ノ税ハ二磅二司令ヲ課シ。獵獸看守者ノ税ハ十司令六邊尼ヲ課ス。千

七百九十一年ニ於テ其課率ヲ増加シ。千八百八年ニ至テ之ヲ雜税局ノ管理ニ屬セリ。千八百十二年ニ於テハ獵犬及ヒ銃器ヲ用ヒテ狩獵スル者ノ税ヲ三磅十三司令六邊尼ト爲シ。獵獸看守者ニシテ狩獵ノ事ヲ助クル者ノ税ヲ一磅五司令ト爲ス。而シテ千八百三十一年ニハ更ニ獵獲ノ獸ヲ販賣スル者ニ二磅ノ税ヲ課セリ。

千八百六十年ニ於テ該税ヲ國產税局ノ管理ニ屬スルマテハ此規法ニ依テ收入セシニ該年ニ至テ一週年ノ狩獵免許税ハ之ヲ三磅ト爲シ。四月乃至十月三十一日ノ間及ヒ十一月一日乃至四月ノ間ハ各々二磅。獵獸看守者及ヒ狩獵ノ事ヲ助ル者ノ一週年ノ免許税ハ之ヲ二磅ト爲ス。愛爾蘭ニ在テハ初メ印紙ヲ以テ狩獵税ヲ課ス。其大貌列頓國ニ聯合スルノ時ニ方テ其課率ハ二磅五司令六邊尼ナリシニ千八百十六年ニ至テ獵獸看守者ナルト否トヲ論セス。總テ狩獵スル者ニ三磅三司令ヲ課

ス。千八百四十二年ニ於テハ、該稅ヲ國產稅局ノ管理ニ屬シ。千八百六十  
年ニ至テ、始テ英蘇愛三國ノ稅率ヲ畫一シタリ。

既ニ閣下ノ明知セララル、如ク、狩獵免許狀ハ、必ス其請主ノ居住スル收  
稅區ニ於テ付與スルノ規法ヲ廢止スル以來ハ、復タ地方ノ新聞紙ヲ以  
テ、免許狀持主ノ姓名ヲ公告セス。更ニ每區ノ名簿ヲ製シテ之ヲ印刷シ、  
各區ニ頒布シテ、或ハ吏員監視ノ便ニ供シ、或ハ他ノ請求ニ應ジテ、之ヲ  
授與スルコト、玆ニ數年ニ至レリ。而シテ此カ爲メ、本寮ノ經費ヲ節減ス  
ル。年々三千磅ニ下ラス。又歲入ヲ保護スルノ點ニ於テハ、從前ノ規法ヲ  
施行スルノ時ト異ナル者アルヲ見ス。

近時本寮ニ於テハ、此ノ如ク名簿ヲ各區ニ分テ印刷スルノ制ヲ止メ、全  
國內ニ普通スル名簿一部ヲ製シテ、倫敦ノ印刷者ニ付シテ刊行セシメ、  
價ヲ收メ、スシテ公立學校、會社、書籍館、其他人民輻湊ノ處ニ頒布セリ。然

レ其施行ノ千八百六十九年十月以降ニ係ルヲ以テ、未タ其結果ノ功  
効如何ヲ開陳スルヲ得ス。

狩獵免許稅ノ管理ヲ國產稅局ニ歸シ、該稅ノ課率ヲ減スルノ年、即チ千  
八百六十一年三月三十一日ニ終ル一週年ノ收入ノ數ハ、十二萬九千八  
百四十一磅ニシテ、千八百六十九年三月三十一日ニ終ルノ年ハ、十六萬  
八千四百四十八磅ニ上レリ。即チ百分ノ三十ノ増加トス。是レ寔ニ滿意  
スルニ足ルカ如シト雖モ、細カニ其情況ヲ察スレハ、脫稅ヲ規ル者、比々  
相續キ、社會ノ上流ニ在ルノ人ニシテ、免許狀ヲ領セスシテ、狩獵スル者  
ナルニ至ル。夫レ免許狀ヲ領セスシテ、狩獵スル者ノ如キハ、獵獸盜ヲ以  
テ論スル國法ノ在ルアレハ、本寮ニ於テハ、敢テ監視スルヲ怠ラスト雖  
モ、其犯罪ヲ證明シテ告發スルニ至リシハ、甚タ稀ナリトス。

### 畜犬免許稅

該税ハ素ト雜税局ノ管理ナリシヲ千八百六十七年三月ヲ以テ國產税局ノ所轄ニ屬ス。此時第一畜犬税十二司令ナルヲ減シテ五司令ト爲シ。〔第二牛羊家畜ノ看守驅逐ニ用フル犬ノ税ヲ免除スルノ法ヲ廢止ス。又第三從前中區ノ官司新クニ吏員ヲ命シテ之ニ收税ノ事ヲ掌ラシムルノ例規ヲ廢シテ更ニ國產税局ニ於テ畜犬免許狀ヲ付與シ以テ該税ヲ收入スルノ制ヲ定ム。乃チ一面ハ該税收入ノ數ヲ増加シ。一面ハ本寮ノ當テ雜税法中畜犬税ニ關スル成規ノ其宜キヲ得サルヲ開陳セシ言ノ果シテ証ヒサルヲ証スルニ至レリ。此レ第三項ノ改革ヲ以テ其然ルヲ知ル。

此改革ニ於テ直接ノ効ト其効ヲ得ルニ至ルマテノ沿革トハ載セテ本寮第十一回年報書千八百六十六年中ニアリ因テ之ヲ左ニ抄録ス。

千八百六十七年ノ八箇月間ノ課税ノ犬數ヲ以テ其前年ノ十二箇月

間ニ照セハ四十萬頭ヲ増加セリ。而シテ曩ニ地方税吏ノ管内ノ事情ニ詳カナルノ故ヲ以テ厚ク之ニ信任シタルモ今税法ノ改變ニ遭テ速ニ課税ノ犬數數萬頭ヲ増加セシハ畢竟地方税吏ノ不注意ニヨリ脱税セル者多キニ由ルト謂ハサル可ラス。然ハ則チ該税吏豈ニ其責ヲ免ル、ヲ得ンヤ。假令税吏ノ罪ハ宥恕スヘキモ雜税法ノ宜キヲ得サルハ決シテ掩フヘカラス。而シテ曩ニ本寮ノ屢、此事ヲ痛論セシハ實ニ茲ニ見ル所アレハナリ。

畜犬免許税ノ收入ノ今日ノ成功ヲ得ルニ至リシハ地方ノ巡査預テ大ニ力アリトス。然レ昨今ニ至テ仍課税ヲ脱スルノ犬ナキニ非サレハ則チ本寮未タ今日ノ成功ヲ以テ足レリトスルヲ得サルナリ。而シテ免許狀ヲ以テ該税ヲ收入スルノ制ヲ設クルハ近時ノ事ニ係レリ。故ニ其未タ完全ノ域ニ至ラサルハ固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ。

畜犬税ノ課率未ダ減スルニ至ラス。仍雜稅局ノ管理ニ屬スルノ末年ニ  
方テ課稅ノ犬數ハ三十九萬四千八百三十七頭ナリシニ。稅法改革ノ初  
年即チ千八百六十七年四月六日乃至十二月三十一日ノ間ニ在テハ八  
十二萬八千三百四十一頭ニ上リ。千八百六十八年十二月三十一日ニ終  
ルノ一週年ニ至テハ更ニ増加シテ九十萬七千四百八十八頭トナル。又  
千八百六十九年十二月三十一日ニ終ルノ一週年ニハ百萬七千二百四  
十一頭ノ多キヲ致セリ。

價造物

烟草

本寮ノ職務ハ烟草ノ製造及ヒ其販賣ニ免許稅ヲ課スルニ止ラス。價造  
ノ弊ヲ防クノコト亦其責任トス。故ニ本寮ノ精鍊室ニ於テハ常ニ老練  
ノ化學士ヲシテ分析ノ事ヲ擔當セシム。

凡ソ烟草ノ價造ニ用フヘキモノ其種類甚タ多ク。價造ノ事ニ從フ者モ  
亦尠シトセス。故ニ豫メ其價造ヲ防キ。以テ收稅ヲ害スルニ至ラシメサ  
ルハ。特ニ監督ノ功ト耐忍ノ力トニ在ルノミ。

烟草ニ混和スル物料ハ各種ノ木葉砂糖甘草澱粉染料護謨及ヒ無機鹽  
トス。木葉ノ如キハ顯微鏡ノ力ヲ假レハ。則チ價造ヲ防クニ足ルヘシ。護  
謨及ヒ無機鹽ハ混和スル多キニ至レハ。白ラ烟草ノ質ヲ害ス。故ニ之ヲ  
用フル者甚タ尠シ。又砂糖甘草澱粉及ヒ染料ノ中ニ就テ。砂糖甘草ノ二  
品ハ。烟草ノ質ヲ害セサルノミナラス。之ヲ混和スレハ。反テ其香味ヲ改  
良シ。國內ノ需用ニ適スル外國製カヴェンヂシ烟草ニ擬スルニ足ル。故  
ニ之ヲ用フル者甚タ多シトス。

近時本寮ニ於テ。木葉ニ澱粉若クハ砂糖ヲ混和セシコトヲ檢明シテ。沒  
收スル者甚タ多シ。茲ニ其一例ヲ掲ケンニ。千八百六十八年ノ初コ方リ。



倫敦ノ烟草卸賣商ノ愛爾蘭ノ製造者ヨリ非常ノ低價ヲ以テ卷烟草ヲ  
購收セシコトヲ報シ其貨辨ヲ贈ル者アリ本察乃チ化學ヲ試驗ト顯微  
鏡ノ力ヲ以テ之ヲ精査シ始メテ木葉ニ澱粉ヲ塗抹シ之ニ着色シテ卷  
烟草ニ擬セシコトヲ看破スルヲ得タリ因テ吏員ヲ愛國ニ派遣シテ其  
製造者六名ノ儲藏スル者二萬八千封度ヲ沒收シ猶英倫ノ卸賣商二十  
六名蘇格蘭ノ卸賣商六名ヲ併セ殆ント四千封度ニ至ル者ヲ貯藏スル  
コトヲ檢明シ亦之ヲ沒收セリ本察既ニ贋造ノ烟草ヲ沒收セシヲ以テ  
更ニ其連累者ヲ告發スルヲ理ノ當然ナリト思料シ乃チ之ヲ地方裁判  
所ニ告訴セリ而シテ此等ノ連累者ヨリ徵スル所ノ科金ハ千二百六十  
七磅十司令トス若シ之ニ沒收物ノ價金ヲ加レハ約四千磅ニ上ルヘシ

#### 嗅烟草

嗅烟草ニ混和スル者ハ木片澱粉、緒石、泥炭、葉石灰ノ類ニシテ就中鉛黃

ハ之ヲ混和スレハ人ノ健康ニ害アリ而シテ今ヲ距ル十五年前以降ニ  
在テハ曾テ此等ノ混和物ヲ檢明セシコト無シ近年ニ至リ殊ニ混和物  
トシテ用フル者ハ石灰ナリトス而シテ本察ノ其使用ヲ制止スルヲ得  
サリシ者ハ蓋シ石灰水ハ法令ノ禁止スル所ニ非ス故ニ石灰水ヲ使用  
スルノ口實ヲ以テ密ニ水ニ和セサル石灰ヲ混和スルニ由ルナリ如此  
ノ情由アルヲ以テ千八百六十七年ノ法令ヲ以テ石灰及ヒ麻<sup>ハク</sup><sup>コ</sup><sup>ソ</sup><sup>ア</sup><sup>ニ</sup>亞  
ハ百分ノ十三ヲ限り之ヲ使用セシム因テ爾後ハ嗅烟草ニ過量ノ石灰  
ヲ混和スル者アルヲ聞カス

#### 茶葉

凡各種ノ食品中贋造ノ多キハ茶葉ニ若ク者ナシ茶稅ノ減額ニ因テ贋  
造ノ弊害ハ頗ル之ヲ除クヲ得タリト雖モ今日ニ至ルマテ未タ絶滅ス  
ルニ至ラス而シテ茶稅ハ素ヨリ關稅局ノ管理ニ屬スルヲ以テ賣茶免

許稅ヲ廢止スル以來ハ本寮ノ敢テ預リ知ル所ニ非ス故ニ其贗造ヲ檢明スルヲ得ルハ偶然ノ事ニ過キサルナリ。

茶葉ノ贗造ハ其輸入前ニ在テ成ル者多シ故ニ稅關ノ官吏ハ其實ニ贗造ニ出ルヲ知ルト雖モ其輸入ヲ拒絕スルノ權ヲ有セサルヲ以テ既ニ關稅ヲ完清スレハ之ヲ如何トモスル能ハス縱ヒ本寮ニ付與スルニ如此キ贗造茶葉ノ販賣ヲ禁止スルノ權ヲ以テスルモ果シテ能ク其責任ヲ盡スヲ得ル乎ハ未タ今日ニ明知スヘカラサルナリ然レモ若シ其輸入前ニ成ルノ贗造ヲ措テ問スンハ其弊ヤ益甚シキニ至ルヘシ。

清國ニ於テ茶葉ヲ贗造スルヤ之ニ用フルノ物料ハ蓋シ一二ニ止ラス。綠茶ニハ護謨、藍靛、字靛、シリツク、酸ヲ混和シ。黑茶ニハ細條若クハ黑鉛ヲ用ヒテ着色シタル細末ノ水晶片ヲ混和ス。國內ニ在テハ各種ノ樹葉ヲ乾燥シテ綠茶、黑茶ニ擬シ。或ハ一タヒ煎煮シタル茶葉ヲ曝シテ之ニ

着色スル者アリ。

初メ國內ニ於テ茶葉贗造ノ行ハル、ヤ之カ爲メ大ニ茶葉ノ需用ヲ減セリ。因テ千七百二十四年ノ法令ヲ以テ其贗造ヲ禁止ス。其文ノ冒頭ニ曰。烏荊子葉、甘棠葉ヲ以テ茶葉ニ擬シ。或ハ一タヒ煎煮シタル茶葉ヲ曝シテ之ヲ販賣シ。或ハ樹葉ヲ乾燥シテ茶葉ニ混和シ。以テ其秤量ヲ増加シ。或ハ此種ノ贗造物ニ阿仙藥、砂糖、糖蜜、粘土ヲ混和シ。若クハ蘇木ヲ用ヒテ之ニ着色スルノ徒アリ云云ト。慈爾日第三世ノ代ニ至テハ贗造ノ弊害益甚シ。因テ更ニ之ヲ禁止スルノ法令ヲ公布ス。其文ノ冒頭ニ曰。烏荊子葉、秦皮、葉、接骨木、葉、其他ノ樹葉ヲ乾燥シテ茶葉ニ擬シ。之ヲ販賣スルノ徒日ニ増殖ス。其弊ヤ樹木ノ發育ヲ妨ケ。人民ノ健康ヲ害シ。亦政府ノ歲入ヲ減却ス。而シテ實直ノ商賈ハ之カ爲メ倒産シ。國民ノ勤勞事業ヲ放擲敗壞スルニ至ルヘシ云云ト。此ニ由テ之ヲ觀レハ茶葉ノ贗造ハ。

實ニ此時ヲ以テ其極ニ至レリト謂ハサルヘカラス。然レモ後世學術ノ  
 進歩スルヤ。茶葉製造ノ爲メニ。復タ樹木ノ發育ヲ害スルコト無シ。乃チ  
 曩時ニ國內ノ樹葉ヲ摘採シ。粗惡ノ製方ヲ以テ支那茶ニ擬セシモ。今ハ  
 則チ然ラス。顔料ヲ用ヒテ屑茶ヲ染メ。以テ其色ヲ改良シ。或ハ孛錠及ヒ  
 少量ノ護膜ヲ用ヒテ黒茶ニ着色シ。以テ緑茶ニ擬シ。或ハ無害物ヲ用ヒ  
 テ黒茶ヲ緑茶ニ變ス。而シテ此第三ノ製方ハ。國內ノ茶商悉ク之ヲ行ハ  
 サルナキニ至レリ。曾テ茶商ノ本寮ニ呈スルノ書ニ曰。黒茶ヲ緑茶ニ變  
 製スルノ事ハ。國法ニ抵觸スル所アル乎。苟モ之アリトヒハ。某等固ヨリ  
 其製方ヲ廢止セサルヘカラス。只冀クハ貴官ニ於テ國法ニ抵觸スルト  
 ナスハ。該法ヲ誤解スルノ致ス所ナランコトヲ。何トナレハ。某等商業ノ  
 不便之ヨリ大ナル者ナケレハナリト。因テ官府ノ事ハ宜シク温和ヲ以  
 テ主トスヘキニ拘泥セス。本寮即チ之ニ答ヘテ曰。是下等ノ爲ス所ハ。國

法ノ外尙他ノ規法ニ抵觸スル所アリト。又當時黒茶變製ノ事ニ就キ。茶  
 商等カ何如ナル感觸ヲ生セシ乎ハ。曾テ本寮ニ呈スル所ノ書翰ヲ見テ。  
 瞭解スルヲ得ヘシ。因テ其全文ヲ左ニ掲ク。

本年ノ茶期ニ於テ。黒茶ノ供給餘アリト雖モ。緑茶ハ甚々缺乏ス。因テ貴  
 官ヲ煩シテ。左ニ質疑ス。冀クハ回報アラントシ。  
 黒茶ニ着色シテ緑茶ニ變シ。或ハ緑茶ニ着色シテ黒茶ニ變スルノ事ハ。  
 國法ノ許ス所ナル乎。斯ク着色スルト雖モ。曾テ其秤量ヲ増加スルコト  
 無シ。又此變色ノ茶葉ハ。既ニ政府ニ納税セシ者タルコト固ヨリ辯ヲ俟  
 タサルナリ。

倫敦

茶商某拜

千八百六十二年四月二十九日

內國稅事務長官閣下

近時千八百六十九年本寮ニ於テハ。下等人民ノ茶葉ノ爲メニ損害ヲ蒙ルコトヲ查明セリ。因テ今本寮ノ會議ニ付ス。茲ニ其顛末ヲ掲ケンニ。從來倫敦ノ或船廠會社ハ。茶葉ヲ倉庫ニ搬運スルニ當リ。雇夫ニ備金ヲ給付シテ塵芥ヲ掃除セシメタルニ。今ハ則チ然ラス。雇夫却テ價ヲ納メテ其塵芥ヲ受領ス。此レ其塵芥ヲ淘汰シテ。不潔ノ茶葉ヲ拾取センカ爲メナリ。而シテ此塵芥ニ芥茶ノ名稱ヲ付シ。一封度毎ニ八邊尼乃至一司令四邊尼ノ價值ニ以テ賣售ス。乃チ本寮精鍊室ニ於テ。フィリップ氏ヲシテ。其芥茶ヲ分析セシメタルニ。即チ左ノ回報ヲ得タリ。

#### 第一回ノ分析

一 封度毎ニ八邊尼ニテ購收シタル芥茶ハ。紛茶。細末。杉屑。少量ノ澱粉及ヒ塵砂百分ノ二十四。三九ヲ混入ス。

一 封度毎ニ一司令ニテ購收シタル者ハ。紛茶。杉屑。少量ノ澱粉及ヒ塵

砂百分ノ十。九二ヲ混入ス。

一 封度毎ニ一司令四邊尼ニテ購收シタル者ハ。綠黑茶。少量ノ木屑及ヒ塵砂百分ノ九。六九ヲ混入ス。

#### 第二回ノ分析

第一貨辨中。茶葉ハ百分ノ六十。樺木其他ノ木屑ハ百分ノ十二。砂及ヒ釘片ハ百分ノ二十。餘ハ悉ク無機物ニシテ。亦昆蟲ノ類ヲ混入ス。

第二貨辨中。細粉ノ無機物ハ百分ノ三十一。内百分ノ三。七九ヲ酸化銻トス。而シテ茶葉ニ非ル有機物ハ百分ノ二十二下ラス。故ニ純粹ノ茶葉ハ。僅ニ百分ノ四十九アルノミ。

第三貨辨中。酸化銻ハ百分ノ十三。七九。木屑百分ノ十二。一六。銻ニ非ル無機物百分ノ十二。三八。及ヒ他ノ不潔物ヲ混入ス。且此貨辨ハ既ニ腐敗シテ臭氣ヲ發シ。夥多ノ死蟲アルヲ檢明セリ。

農事牧畜ノ統計

千八百六十八年。商務局ノ囑託ニ因テ。國產稅局及ヒ地稅局ノ吏員ヲシテ。英蘇二國ノ牧畜及ヒ穀物ノ統計表ヲ纂輯セシム。此事固ヨリ重大ニシテ一朝一夕ノ能ムル所ニ非スト雖モ。其功ハ既ニ商務局ノ信重ニ負カサルノ域ニ至レリ。而シテ其翌年ハ。國產稅局ノ檢査官。特ニ之ニ從事ス。

此統計表ヲ纂輯スルニ方リ。英倫ノ地主ノ耕地ノ積ヲ報スルコトヲ拒ミ。或ハ之ヲ辭スルカ爲メニ。本寮ニ於テハ多少ノ困難ニ遭遇セリ。然レモ其何ノ情由ニ出ル乎ヲ詳ニスルヲ得ス。而シテ英倫ニ於テハ。既ニ此事情アリト雖モ。蘇格蘭ニ於テ曾テ之ナキハ。本寮ノ最モ解スルヲ得ル所ナリ。

第六編 印稅ノ部

印稅收入法

凡ツ諸種ノ印紙ハ。倫敦。以丁堡及ヒ都伯林ノ印稅局ヨリ發出シ。或ハ印紙配分官及ヒ副配分官。并ニ官准ヲ得タル印紙販賣者之ヲ發出ス。貼附印紙ハ。總テ倫敦印稅局ニ於テ之ヲ製造シ。英蘇ノ二國ニ用フル諸證印ハ。倫敦ニ於テ打過ス。其新聞紙ニ用フル者ニ至テハ。曼薩特及ヒ以丁堡ニ於テモ亦之ヲ打過ス。以丁堡印稅局ニ在テハ。各件流用ノ一邊尼内國稅証印。三邊尼乃至二百磅ノ證印并ニ結社記錄ノ證印。契符印及ヒ賦斷一丁參看ノ料金ノ證印ヲ打過シ。都伯林ニ在テハ。愛爾蘭國內ニ用ナル諸證印(新聞紙ノ證印モ亦其中ニ在リ)ヲ打過ス。而シテ都伯林ニ印稅局ノ創起セシハ。千八百四十八年前ニ在テ。愛爾蘭ノ證券稅ノ英蘇二國ト其課率ヲ異ニスルニ由ルナリ。

以下優及ヒ、蘇伯林ノ印稅局、印刷課ニ於テ、區處スル通常ノ事務ハ、曾テ倫敦印稅局ニ異ナル所ナシ。倫敦印稅局ノ事務ハ、之ヲ分テ二種ト爲ス。即チ其一ヲ貼附印紙、打印紙及ヒ打印羊皮紙ノ發賣ト爲シ、其一ヲ既必證券、未必證券及ヒ人民賣ス所ノ通常紙、羊皮紙ノ打印ト爲ス。

貼附印紙ノ發賣ハ、免許主簿課ニ於テ之ヲ管掌ス。故ニ該印紙ノ發賣ヲ請フ者ハ、本局ニ備フル書式ニ依リ願書ヲ造テ、豫メ之ヲ呈シ、而シテ其稅金ヲ納金課長ノ書記ニ上納スヘシ。計算課ノ書記該願書ヲ查檢シ、訖レハ、免許主簿課長ヨリ其印紙ヲ交付ス。

免許主簿課長ノ印紙ヲ交付スルヤ、先ツ其發給ヲ儲藏庫監守者ニ要ム。監守者乃チ印紙發給證書正副二通ヲ作り、其正書ヲ計算課長ニ移シ、其副書ヲ印紙ト共ニ免許主簿課長ニ送付ス。主簿課長即チ領票ヲ發シ、以

テ儲藏庫監守者カ印紙ヲ發給シタルノ憑證ト爲ス。計算課長ハ、此證書ヲ以テ印稅ノ納付ヲ免許主簿課長ニ要メ、後チ之ヲ儲藏庫監守者ニ還付ス。而シテ主簿課長ノ管理スル印紙ハ、半年毎ニ之ヲ領收ス。

未必證券、羊皮紙及ヒ通常紙ヲ賣シテ打印ヲ請フ者ハ、本局ニ備フル書式ニ依テ願書ヲ作り、證印ノ種類、證券紙數及ヒ其稅額ヲ詳記シテ、計算課長ニ呈スヘシ。計算課長ノ書記之ヲ檢査シテ、其稅額ヲ簿冊ニ登記シ、納金課長ニ向テ稅金ノ納付ヲ要ムルノ憑證ト爲シ、納金課ノ收入セシ稅金ハ、毎日之ヲ納付スルノ制ナリ。而シテ之ニ稅金領收箋ヲ附シテ、納金課ノ書記ニ移ス。納金課書記之ヲ接到シテ、乃チ其稅金ヲ收入ス。故ニ打印願書一タヒ計算課書記ノ手ヲ經レハ、該書ニ載スル所ノ稅額ヲ追寫スルヲ得ス。以テ奸ヲ防クニ足ルヲ知ルヘシ。

打印ヲ請フ者既ニ稅金ヲ上納スレハ、應ニ打印スヘキ紙ヲ賣シテ受付

課金課書記ヨリ打印願書ノ回達スルヲ俟テヘシ。打印願書送  
 スレハ。則チ其紙ヲ交付シテ領票納税金員ト打印ノ種類トヲ記ス。フ受  
 領シ打印ノ紙ヲ接受スルノ時之ニ署名シテ領收ノ證ト爲スヘシ。  
 既必證券ノ打印ヲ請フ者ハ。普通ノ願書ヲ呈スルニ止ラス。證印ノ種類  
 税額ト證券面應ニ打印スヘキノ所トヲ記シ。以テ計算課書記ニ呈スヘ  
 シ。該書記ハ乃チ第一該證券ハ直ニ打印スルヲ得ルヘキ乎。將テ本寮ノ  
 訟師ヲ經テ打印ヲ請ハシムヘキ乎。第二契約ノ年月日ヲ改捏セシニ非  
 ル乎。契約ノ年月日ヲ改捏セシ者ニ於テハ。本寮准ス所ノ期限内即チ不  
 動産證券ナレハ二箇月ヲ限り。署名證券ナルハ十四箇日ヲ限り第一契  
 約人ノ手署ニ成ルコトヲ證明スルヲ須要ス。第二證印ノ税額ヲ記載セ  
 シ乎ヲ歴檢シ。第四若シ證券ノ批書ニ打印スルヲ要スル者ニ係レハ。該  
 證券ノ印税并ニ最初ノ批書ノ印税ヲ上納セシ乎ヲ查檢ス。

證券ノ印税六邊ニシテ。打印ヲ請フノ數二十ニ超エサレハ。處辨ノ規  
 法甚テ簡單ナリトス。即チ未必證券紙(即チ白紙)ナレハ。之ヲ齎シテ證券  
 調査室ニ詣リ。税金ヲ上納スレハ直ニ其打印ヲ得ヘシ。若シ既必證券ニ  
 係レハ。調査室ニ在リ計算課書記ノ檢印ヲ得テ。該證券ノ十四箇日內ニ  
 成ルノ憑證ト爲スヘシ。而シテ打印者ノ打印シタル數ハ。テールト  
 稱スル器械ヲ用ヒテ之ヲ表記シ。一日ヲ終ル毎ニ打印ノ數ト收入ノ税  
 金トヲ對照シ。其金員ハ之ヲ納付ス。  
 未必證券ヲ齎シテ打印ヲ請フヤ。受付掛之ヲ接到シテ直ニ打印課ニ送  
 付ス。打印課ニ在テハ。該證券ノ願書ニ符合スル乎。或ハ其上納セシ税金  
 ノ請フ所ノ打印ノ數ニ違ハサル乎ヲ查檢ヒシ後。之ヲ打印監督ニ送り。  
 以テ職工ニ配分セシム。其齎ス所羊皮紙ニ係レハ之ヲ「エスカッション」室  
 ニ送ル。該室ニ在テ「エスカッション」ト稱スル青色ノ紙片ヲ羊皮紙面應

〇 打印スルモノ所ニ糊附シテ後其上面ヨリ打印ス。故ニ打印ノ痕ハ。案然トシテ紙片ノ表面ニ現ハル。  
 〇 未必證券ノ打印既ニ竣シテ願書ト共ニ之ヲ調査課ニ移シ。以テ打印ノ真否ヲ檢シ。且未メ願書ヲ閱セサル者ヲシテ更ニ計算ノ當否ヲ查檢セシメ。謬誤ナケレハ直ニ記録課ノ書記ニ交付ス。該書記之ヲ願書ニ照シ。果シテ符合スレハ即チ印紙交付課ニ送付ス。  
 〇 儲藏庫監守者及ヒ印紙配分官ノ儲藏スル印紙ハ。總テ其原紙ヲ文具課ヨリ發シ。監守者之ヲ接受シテ打印課ニ交付ス。印紙配分官ノ打印ノ爲メニ送ル白紙モ亦監守者之ヲ接受シテ打印課ニ交付ス。而シテ打印ノ次序ハ人民齋ス所ノ者ニ異ナルコト無シ。但現金ヲ收入セス。其金員ヲ計算課ノ簿冊ニ記上シテ。監守者及ヒ配分官ノ負債ト爲シ。打印紙ハ交付掛ヲ經由セス。調査課ヨリ直接ニ監守者ニ送付ス。

儲藏庫ノ打印紙。打印ノ羊皮紙及ヒ貼附印紙ハ。半年毎ニ之ヲ領收スルヲ例規トス。

〇 印紙配分官并ニ販賣者ハ。儲藏庫監守者ニ照會シテ打印紙ヲ領收ス。故ニ儲藏庫監守者其照會ヲ得レハ。庫内ニ現存スル者ニハ。印稅票ヲ作り。現存セサル者ニハ。印稅票及ヒ打印證書ヲ作り。而シテ之ヲ計算課ニ移ス。計算課長ハ配分官ニ向テ税金ノ納付ヲ要メ。印稅票及ヒ打印證書ハ。之ヲ監守者ニ還付ス。監守者ハ打印證書ヲ打印ス。ハキノ白紙ト共ニ打印課ニ送ル。該課ニ在テハ白紙ニ打印シ。證書ヲ併セテ監守者ニ還付ス。監守者乃チ打印紙ニ印稅票ヲ添ヘテ配分官ニ遞送ス。配分官ハ印稅票ヲ打印紙ニ照シ。果シテ符合スレハ。打印紙領收書ト共ニ翌日ノ郵便ヲ以テ監守者ニ還付ス。若シ監守者ノ要ムル所貼附印紙ニ係レハ。印刷スルモノノ白紙ト印刷證書トヲ併セテ直接ニ印刷者ニ送付ス。印刷者其工



ヲ曉レハ本局ノ穿孔課ニ送ル。該課ニ在テハ之ニ穿孔シテ乃チ監守者ニ交付ス。

印紙配分官

印紙配分官ハ大藏事務長官之ヲ命ス。其職務ハ諸種ノ印紙ヲ儲蓄シテ人民ノ請求ニ應ジ。或ハ廢棄印紙交換申請書ヲ受理シテ廢棄印紙ト共ニ印稅局ニ傳達シ。或ハ遺物稅相續稅ノ計算簿及ヒ其稅金ヲ接到シテ。亦之ヲ印稅局ニ傳達ス。又所得稅ノ還付ヲ爲シ。或ハ印稅ノ脫漏ヲ防キ。若クハ詐欺ヲ巧ニシテ脫稅ヲ規ル者アレハ。則チ之ヲ探檢シテ印稅局ニ稟議スル等總テ其權内トス。

印紙配分官ハ〔蘇國ヲ除ク〕定額ノ俸給ヲ與ヘス。印紙賣售ノ數ニ比照シテ之ヲ給與ス。即チ郵便稅遺物稅相續稅ニ於テハ其百磅毎ニ一磅ヲ給シ。倒産稅其他諸般ノ印稅ニ於テハ其百磅毎ニ一磅十司令乃至八磅ヲ

給ス。又該官ノ儲蓄スル貼附印紙及ヒ打印紙ハ之ヲ倫敦以丁堡及ヒ都伯林ノ印稅局ヨリ發給ス。

凡ソ印紙配分官タル者ハ一歲ノ納稅金三分一ニ當ルノ抵當證書ヲ呈シ。之ニ保人二名ノ連署ヲ須要ス。收入ノ稅金ハ一月毎ニ印稅局ニ納付シ。其金員百磅ニ滿レハ即時ニ納付セサルヘカラス。納付ノ規法ハ或ハ實貨ヲ以テシ。或ハ郵便爲替ト爲シ。或ハ英倫銀行ノ支店ニ入金シテ納金長官ニ寄付スル爲替證書ヲ作り。以テ倫敦ノ本店ニ送ラシムルモ亦其便ニ從ス。其剩餘ノ金員ヲ以テ已ノ權内ニ在テ區處スルヲ得ルヘキ稅金ノ還付ヲ爲スヲ准スト雖モ。若シ剩餘ノ數十磅ニ超レハ。應ニ必ス其事由ヲ開申スヘシ。又該官ハ日録簿ヲ製シテ事務ノ成績ヲ記録シ。一季ニ滿レハ計算簿ヲ製シ。其季ヲ終ルノ後七日内ニ於テ之ヲ本寮ノ計算課長ニ送呈スヘシ。而シテ配分官ノ管理スル印紙ハ一季毎ニ之ヲ領

收スルヲ例規トス。

凡ソ印稅局ヨリ配分官ニ送付スル打印ノ不動產證券紙ニハ其送達スル地方ノ名稱ヲ記シ配分官ノ副配分官ニ送達スル者モ亦各地方ノ名稱ヲ配ス。

印紙副配分官ハ大藏事務長官之ヲ命スト雖モ俸給ノ額僅少ナルノ地ニ在テハ印紙配分官之ヲ命ス而シテ副配分官ハ印紙ノ供給ヲ配分官ニ仰キ其俸給ハ諸般ノ印稅及倒產稅ニ於テハ其百磅毎ニ二磅乃至八磅ヲ給シ遺物稅及ヒ相續稅ニ於テハ其百磅毎ニ一磅ヲ給ス。

印紙配分官ノ人民ノ請求ヲ以テ印稅局ニ傳達シテ打印ヲ請フヲ得ル者ハ印稅六邊尼ヲ課スル署名證券及ヒ印稅二司令六邊尼以下ヲ課スル貸地證券ノ七箇年ヲ限ル者并ニ雇船證券トス。

官准印紙販賣者

印紙販賣者ノ免許狀ハ或ハ本寮ニ於テ之ヲ付與シ或ハ印紙配分官ニ於テ付與ス。

凡ソ印紙販賣者タラント欲スル者ハ履歷書二通ヲ呈シ且贖造ノ印紙ヲ販賣セサルノ憑證トシテ百磅ノ抵當證書ヲ納ムヘシ但抵當證書及ヒ販賣免許狀ニハ別ニ納稅スルヲ須ヒス。

印紙販賣者ノ儲藏スル印紙ハ印稅局及ヒ印紙配分官ヨリ受領シ或ハ他ノ官准印紙販賣者ヨリ受領ス。

棄銷印紙ノ免稅

稅法ノ改正若シハ圖式形體ノ變更ニ因テ棄銷ニ屬シタル印紙并ニ破損印紙ニ稅金ヲ免除スルノ權ハ慈爾日第三世ノ代及ヒ其後ニ制定スル法令ヲ以テ之ヲ本寮ニ付與セリ而シテ本寮ニ於テハ之カ爲メニ事務ノ繁劇ヲ致シ千八百六十九年ニ免稅セシ印紙ノ數ハ實ニ一萬三千

枚ノ多キニ至リ其金額ハ四萬五千五百磅ニ上レリ。

前ニ記スル所ノ事由ニ因リ税金ヲ免除スルノ事ハ倫敦印稅局ニ在テハ火曜日木曜日ハ正午十二時乃至午後二時ノ間ヲ限リ土曜日ハ午前十時乃至正午十二時ノ間ヲ限リ之ヲ區處ス。ウインチェストル街ノ支局ニ在テハ日曜日ヲ除クノ外。毎日午前十一時乃至午後二時ノ間ヲ限ル。

地方ニ在ル印紙配分官ノ稟銷印紙免稅ノ申請書ヲ受理シテ本局ニ稟請スルヲ得ル者ハ千八百五十四年前ニ在テハ二十五名ナリシニ其後漸ク増加シテ今ヤ四百五十名アルニ至レリ。

凡ソ倫敦ニ在テ稟銷印紙ノ免稅ヲ請フ者ハ當該ノ官衙ニ詣リ一定ノ例文ニ依テ誓詞ヲ爲スヘシ其請求スル所果シテ明白ナレハ。検査官之ニ券子ヲ付與シ。打印課ニ就テ稟銷印紙ニ同シキ稅額ノ印紙ヲ請ハシム。其地方ニ在ル印紙配分官ノ前ニ於テ誓詞セシムル者ハ配分官稟銷

印紙ヲ接受シテ倫敦ノ検査官ニ送ル該検査官之ヲ明白ナリトスレハ配分官ニ移購シテ請主ニ印紙ヲ交付セシム。而シテ何ノ事由ヲ論セス。稟銷印紙ニ免稅スルハ該印紙ノ稅額ノミヲ限リ尋常紙及ヒ羊皮紙ノ價金ハ總テ其主ノ損失ニ歸スルモノトス。

免稅ノ稟銷印紙ヲ使用シ。若シハ稟銷印紙ノ稅額ヲ詐テ巨數ノ免稅ヲ請フノ事ナカラシムル爲メ。豫防ノ法ヲ設ル頗ル嚴密ナリト雖モ。茲ニ之ヲ詳説スルヲ須ヒス。而シテ稟銷印紙ハ本察官吏ノ目前ニ於テ之ヲ銷毀シ直ニ新印紙ヲ交付ス。

以丁堡及ヒ都伯林ニ在テ稟銷印紙ニ免稅スルノ事務ハ該地ニ在ル本察ノ官吏各之ヲ區處ス。

稟銷印紙ニ免稅スルノ規法ノ此ノ如シ簡易ナルノミナラス。凡ソ何ノ地ヲ論セス。諸種ノ印紙ヲ購收セント欲スレハ。即時ニ之ヲ得ラルヘキ



海軍裁判所ノ謝金	一〇、九五三	八五七六	二、三七七
離婚結婚証印稅	二、五二六	二、七九五	二、六九
土地記録ノ謝金	一、二五四	一、四七九	三、三三
慣習法ノ謝金	一一、〇八〇	九、〇四五	二、一六六
公平裁判所ノ謝金	三、三、四七九	三、〇、三三〇	三、一五九
會計裁判所ノ謝金	一一、七六九	一〇、七五二	九九七
不動産証券(愛爾蘭)ノ謝金	七、六五五	七、四四七	二〇八
結社記録ノ謝金	七、四	六三	一一
不動産讓受(愛爾蘭)記録ノ謝金	七、四、五三	一、五、三七〇	七、九一七
デヤンセリ、フキ(愛爾蘭)ノ印紙稅	五八一	五八一	
登録印紙稅	一、五九六	一、五九六	
借地、買地及セ、マイズ、コ、ムジツシヨシ、謝金印紙稅			

總計	九、四六、〇一〇	九、二七、九〇九	七、四、七四四	三、〇七、八四八
減差			一一、三三、一〇四	四、七〇、九〇四

此表ニ據ルニ減差ノ最モ甚シキ者ハ海上保險稅トス。此レ其稅率ノ減スルニ因テ然ルノミ。遺物稅ノ減却スル所以ハ他ニ非ス。千八百六十七年ノ商業紊亂ヲ以テ納稅者ハ其年ノ稅金ヲ翌年ニ上納セリ。故ニ千八百六十八年ノ收入殊ニ夥多シク之ヲ前五年ノ平均ノ數ニ比スレハ即チ二十四萬磅ヲ増加スレハナリ。又遺書稅ノ收入ハ千八百六十八年ニ比スレハ四萬四千百零八磅ヲ減スト雖モ亦前五年間ノ平均ノ數ニ照セハ反テ二萬零七磅ヲ増加スルニ至ルヘシ。

不動産證券及ヒ他ノ證券稅ノ減セレハ當時商業ノ衰零スルニ由ル。又千八百六十八年地方海軍裁判法ノ公布ニ因テ海軍裁判所謝金ノ減セ

レハ從前印紙ヲ以テ收入スル謝金ヲ政府ノ歳入額中ニ加ヘシノ制ヲ  
廢シテ裁判官ニ給付スルニ由ルナリ。又慣習法裁判所謝金ノ減額ハハ  
「ウニストミンストル」裁判所ノ事務ヲ廢合スルニ由ルト雖モ亦幾分カ  
貿易ノ衰頽之ヲシテ然ラシムル者ナキニ非ルナリ。

不動産證券及ヒ他ノ證券稅

此種ノ證券稅ハ本寮始テ年報書ノ編纂ニ從事シテヨリ以來屢改正ス  
ル所アリト雖モ茲ニ之ヲ詳説スルモ益ナキヲ信スルナリ。何トナレハ  
本寮現行ノ印稅纂輯法案ヲ議院ニ紹介スルノ旨趣ヲ以テ既ニ其草ヲ  
起セリ。此案ヲシテ行ハレシメハ一目シテ其要領ヲ會得ス可レハナリ  
印稅纂輯法案ハ本寮ノ訟師メルウキル氏成文律訂正委員ノ囑託ヲ承  
ケテ纂輯スル所ニ係レリ。故ニ氏ハ務メテ現行ノ法令ヲ存シ敢テ改竄  
スル無ランコトヲ欲ス。而シテ事或ハ一項ニシテ數款ニ跨ルアリ。其拾

收整頓固ヨリ修正ヲ加ル者ナキヲ得ス。况ンヤ今既ニ改正ヲ要スルノ  
事又之アルニ於テヲヤ。然リト雖モ其主旨タル現行ノ法令ヲ纂輯スル  
ニ在レハ則チ其改正ヲ加ル者ハ僅々ナルニ過キサルノミ。

爲換手形及ヒ約定手形ノ稅

千八百五十四年爲換手形ノ稅法ヲ改正シテ其稅率ヲ減ヒリ之カ爲メ商  
賈ノ益ヲ蒙ルコト尠カラス。金員僅少ノ手形ニ於テハ最モ甚シトス。而  
シテ此改正ニ因リ。一面ニ於テハ政府ノ歳入三十三萬磅ヲ減スト雖モ。  
一面ニ於テハ十六萬八千三百二十七磅ヲ増加スルヲ得タリ。此レ從來  
外國爲換手形ニ印稅ヲ課セシハ英國ニ於テ振出し而シテ外國ニ在テ  
拂フヘキ者ヲ限リシニ。此時更ニ外國ニ於テ振出し而シテ内國ニ在テ  
拂フヘキ者并ニ外國ニ於テ振出し而シテ外國ニ於テ拂フヘキ手形ノ  
英國ニ在テ批書スル者ニ貼附印紙ヲ以テ其稅ヲ課セシニ由ルナリ。

近ヨリ千八百六十九年商賈ノ書記中ニ往々既ニ銷棄スルノ印紙ヲ使  
用シテ以テ欺瞞スル者アリ。本家ニ於テハ之ヲ防カン爲メ。外國爲換手  
形印紙ノ圖式形体ヲ變改セリ。其欺瞞ノ方。譬ハ六邊尼ノ印紙ヲ貼附ス  
ヘキ手形ニハ。二邊尼ノ印紙三枚ヲ貼附スル猶鳥ノ羽毛ノ重ルカコト  
クシ。其下面ノ二枚ハ銷棄ノ印紙ヲ重貼シ其上面ニ一枚ノ新印紙ヲ附  
シテ之ヲ蔽ヒ僅ニ其邊端ヲ露ハス。故ニ商業繁劇ノ時ニ方テハ。商賈モ  
輒ク之ヲ看破スルヲ得ス。而シテ印紙ノ價金ハ書記ノ私スル所トナレ  
リ。一トヒ其圖式形體ヲ變改セシ後ハ。復々欺瞞スル者アヤヲ聞カス。  
千八百六十年ニ於テハ。爲換手形ノ金員四千磅以上ノ者ニ印稅二磅五  
司令ヲ課スルノ法ヲ廢止シテ。更ニ其金員四千磅以上ニハ千磅及ヒ其  
餘數毎ニ從價稅十司令ヲ課シ。又正副三枚以上ヲ振出タル外國爲換手  
形ニハ。其一枚毎ニ三司令四邊尼ノ稅ヲ課セリ。

此後ニ議定スル法令ヲ以テ。約定手形<sup>プロミッサリノット</sup>ノ金員四千磅以上ノ稅ノ課率ヲ  
改正シテ。爲換手形ト同額ナラシメ。且從前稅ヲ課セサル外國約定手形  
ハ。內國爲換手形ノ請求拂ニ非ル者ノ例ニ照依シ。外國ニ於テ振出タル  
請求拂ノ外國爲換手形<sup>トラフト</sup>商券<sup>オールド</sup>等ハ。請求拂ニ非ル爲換手形ノ例  
ニ照依シテ各其稅ヲ課セリ。  
外國ニ於テ振出シ而シテ內國ニ在テ拂フヘキ請求拂ニ非ル爲換手形  
ハ。初メ內國爲換手形ニ照依シテ從價稅ヲ課セシニ。千八百六十一年ニ  
至テ之ヲ改メ。其金員五百磅ニ超ル者ハ。百磅毎ニ一司令ヲ課シ。五百磅  
ニ超エサル者ハ。仍從前ノ從價稅法ニ從テ課セリ。  
外國批書ノ請求拂爲換手形ノ稅ハ。千八百六十四年ヲ以テ之ヲ改正ス。  
初メ內國ニ於テ振出タル爲換手形ハ。印稅一邊尼ノ外他ノ課稅ナレ。而  
シテ若シ之ヲ外國ニ送テ批書セシムレハ。則チ外國爲換手形ト其効ヲ

同。其形。而外國爲換手形ニハ昂貴シ從價稅ヲ課ス。此レ均平ヲ  
得サルノ甚キ者トス。因テ此年外國批書手形ノ稅法ヲ改メ。請求拂  
非ル内國爲換手形ニ照依シテ從價稅ヲ課スルニ定ム。

### 領收證書及ヒ商券等ノ一邊尼印稅

千八百五十三年哥刺德斯顯氏ハ領收證書及ヒ商券ノ稅法ヲ改メ。貼附  
印紙ヲ以テ課スルノ制ヲ定ム。是ヨリ先キ領收證書ノ稅ハ金員ノ多少  
ニ從テ其額ヲ昂低シ。該稅ノ中ニ就キ最モ低下ナル者即チ證書ノ金員  
五磅乃至十磅ナルモ。二邊尼ヲ課セリ。而シテ金員ヲ領收スル者ハ。必ス  
印紙ヲ用ヒテ之ヲ證セサルヲ得ス。不便モ亦甚シト謂フヘシ。今此改革  
ニ於テ。領收證書ノ稅ヲ一邊尼ニ減シ。而シテ之ヲ課スルニ貼附印紙ヲ  
以テシ。且其使用ノ方ヲ簡便ニシ。亦此時ニ於テ。金員五磅以下ヲ限リ。免  
稅スルノ法ヲ改メテ二磅以下ニ限リシレハ。則チ爾後人民ノ便益ヲ被

ルノ大ナルヤ疑ヲ容ルヘカラス。何トナレハ。從前ノ法ニ依レハ適當ノ  
印紙ヲ得ルノ難キカ爲メニ。誤テ法令ヲ犯シ。或ハ辭ヲ購收ノ不便ニ藉  
テ故ヲ云之ヲ犯ス者多キヲ以テナリ。

領收證書ノ稅額ヲ減スルニ因テ其効ヲ得ルノ多少何如ハ。精細ニ之ヲ  
計算スルコト能ハス。此レ他ノ故ニ非ス。領收證書ニ用フル貼附印紙ヲ  
發行シテ未タ一年ヲ經サルニ。亦之ヲ商券ニ用ヒシム。爾後彼此混淆シ  
テ曾テ區別スルヲ得サレハナリ。然レモ今本察力ノ及フ所ヲ以テ算ス  
レハ。此改革ニ因テ毫モ政府ノ歲入ヲ減セサリシヤ明カナリ。何トナレ  
ハ。三季間ニ在テ該印紙ヲ領收證書ニ用フルノ稅二十萬千九百六十五  
磅ヲ收入ス。之ヲ改正前ノ四季間(即チ一箇年)ニ比スレハ二萬磅餘ヲ增  
加スレハナリ。而シテ此收入ノ數ハ。總令官准印紙販賣者ノ儲蓄シテ未  
ク備置セサル印紙ノ價金ヲ併會スル者ト爲スモ。他ノ一方ニ於テ。從前



ノ税法ヲ施行スル時ノ印紙ニ更換シタル新印紙ノ價金ヲ加算セシム  
 非ナレハ。則チ此増加ノ數ハ蓋シ其實計ナリト謂ハサルヲ得ス。  
 千八百五十三年前ノ領收證書ノ税法ノ大ニ行ハレサリシハ。此年改稅  
 ノ舉アルニ方リ。本察ニ就テ改正稅法ノ主旨ヲ知ラント要ムル者甚ク  
 多キヲ以テ證スルニ足レリ。然レモ唯從來五磅以上ノ領收證書ニ印稅  
 ヲ課スルノ制ヲ改メテ二磅以上トスルノ外ハ。曾テ變更スル所ナク。仍  
 千八百八年ノ法令ヲ施行シテ今日ニ至ル。又郵便爲換手形ノ領收證書  
 ハ。從前免稅スルノ制ヲ廢セシノ外。亦曾テ變更スル所ナシ。  
 領收證書ノ印稅ヲ改正スルノ時ニ於テ。亦請求拂商券ノ稅ヲ改正ス。從  
 前ノ法。商券ハ爲換手形ニ準シテ從價稅ヲ課ス。即チ其稅額ノ最低ナル  
 者ハ商券ノ金員二磅乃至五磅ナレハ。一司令ヲ課シ。而レテ振出ノ地  
 五里十五里内ノ銀行ニ寄送スルノ商券ヲ限リ其稅ヲ免セシム。其弊ヤ十

五里外ノ地ニ在テ振出タル者ト雖モ。該券ノ署名日ヲ捏寫シテ免稅ノ里  
 内ニ在リトシ。以テ免稅ヲ規ル者甚ク多ク。又故造ニ出テスシテ課稅ヲ  
 免スル者アルハ。猶領收證書ノ印稅ニ於ケルカ如シ。是ヲ以テ曩ニ打印  
 紙ヲ以テ商券ノ稅ヲ課スルノ制ヲ廢シテ。之ニ代ルニ一邊尼ノ貼附印  
 紙ヲ以テスト雖モ。然レモ十五里内ノ銀行ニ寄送スルノ商券ニ稅ヲ免  
 スルノ法ニ至テハ。仍之ヲ施行ス。故ニ未ダ以テ人民ノ煩擾ヲ解クニ至  
 ラス。因テ千八百五十八年銀行會社ノ協議ヲ經テ。其免稅ノ法ヲ廢止セ  
 リ。  
 千八百五十三年ノ改正ニ因テ。領收證書及ヒ商券ノ印紙ハ。各類ヲ分テ  
 之ヲ發行セシム。此年ノ終ニ至リ。又一種ノ印紙ヲ發行シテ。互ニ兼用セ  
 シム。即チ一邊尼ノ貼附印紙ニシテ。左ニ記スル所ノ者ニモ。亦之ヲ用ヒ  
 シム。

一 出產記録簿ノ謄書及ヒ其拔萃書。

一 二磅以上ノ「アリバリー、オールドル」。

一 五磅以上ノ併資契約書。

一 保険料ノ金員二司令六邊ニ超エサル保險證書。

一 併資會社ノ集會ニ於テ投票ヲ委託スル委任狀。

今ヤ此等ニ用ヒンムルニ内國一邊ニ印紙ト稱スル者ヲ以テス。

### 新聞紙稅

新聞紙稅ハ千八百五十五年ヲ以テ既ニ之ヲ廢止セリ。今本寮ニ於テ新聞紙ニ打印スルハ實ハ其販賣者ノ便益ヲ圖ル者ニシテ郵便印紙ヲ附スルニ異ナラサルナリ。

極印ヲ活字ニ嵌入シテ新聞紙ヲ刊行セシムルハ初メ「タイムズ」新聞紙ニ限リシニ後ニ倫敦輸入及ヒスタンフツルド、メリユキリ「」ニ

新聞紙ニモ亦之ヲ施セリ。因テ本寮ニ在テハ大ニ其勞ヲ省キ新聞社ニ在テハ著ク其用費ヲ減セリ。而シテ政府ノ歲入ヲ保護スルハ記號器械ヲ用ヒテ打印ノ數ヲ記スルヲ以テ足レリトス。

新聞紙ノ打印ヲ廢止スルハ實ニ新聞社ノ打印ノ爲メニ用費ヲ増加レ刊行ノ滯滞ヲ致スヲ以テ之ヲ冀望スル久シキノミナラス衆庶モ亦之ヲ是トセリ。而レテ本寮ニ於テハ素ヨリ贊成スル所ナリ。

新聞紙稅ヲ廢止スルノ前年(千八百五十四年)ニ在テ合衆王國內ノ新聞紙ニ打印スルノ數ハ一億二千二百七十八萬五千五百零一ニシテ千八百六十八年ニハ二千六百九十萬千五百十五ニ至レリ。

千八百五十三年ニ於テ新聞紙ノ廣告稅ヲ廢止セリ。

本寮ニ於テ新聞紙ノ刊行ヲ記録スルノ法及ヒ讒謗律ニ抵觸セサルノ惡トシテ證書ヲ呈セシムルノ法ハ千八百六十九年七月十二日以後並

ニ之ヲ廢止ス。

### 火災保險稅

火災保險證書ノ印稅ハ、千六百九十四年以降之ヲ賦課スルト雖モ、收稅ノ本旨ナル保險物ノ價金百磅毎ニ若干ノ稅ヲ課スルノ法ハ、千七百八十二年後ノ施行ニ係レリ。

保險稅ハ、總テ保險會社ヲシテ之ヲ收入セシム。故ニ該社ニ在テハ、一季毎ニ收稅金ノ總計及ヒ新々ニ發付シ若クハ期滿テ更ニ發付シタル保險證書ノ數ヲ本寮ニ申報シ、收稅金ハ、其季ヲ終ルノ前之ヲ納金課ニ納付ス。此報勞ハ、倫敦ノ該社ニハ、收入金百分ノ四ヲ給與シ、他ノ地方ノ該社ハ、百分ノ五ヲ給與ス。

千八百六十四年ニ於テ、保險商貨ノ稅ノ其價金百磅毎ニ三司令ナリシヲ減シテ一司令六邊尼ト爲ス、今收稅ノ數ニ據テ計算スレハ、保險商貨

ノ價金ハ、保險物ノ總價金ニ比レテ其三分一ニ當ルニ過キス。面シテ或商貨ノ法令ヲ以テ免稅スル者ヲ併算スレハ、則チ輕稅ヲ課スル物品ヲ貨ノ價金ハ、保險物ノ總價金ノ三分一ニ超過スルニ至ルヘキナリ。

千八百六十五年七月二十五日ヲ以テ、保險物ノ稅ヲ改メテ何ノ種類ニ屬スルヲ論セス總テ一司令六邊尼ト爲シ、保險證書ノ印紙稅ハ、初メ一司令ナリシヲ減シテ一邊尼ト爲ス。印紙稅ヲ減スルノ理由ハ、グロッド氏ノ報告書中ニ詳ナルヲ以テ、之ヲ左ニ抄録ス。

保險會社ハ價金僅少ノ物品ヲ保險スルヲ欲セス。保險物ノ價金二百磅ナレハ、則チ保險料三司令ヲ收メ、之ヨリ減スレハ敢テ保險スルト無シ。凡ソ該社ノ價金三百磅以上ノ物品ヲ保險スルヤ、曾テ保險物稅及ヒ印紙稅ヲ收メス、而シテ此金員ヨリ減スルノ物ニハ、別ニ二司令六邊尼ヲ收ム。故ニ之ニ印紙稅一司令ヲ加フレハ、則チ價金二百三

十磅ノ物品ヲ保險スルノ料金ニ當ルヘシ。該社既ニ此ト如キノ價法ヲ立テ、而シテ之ニ加ルニ一司令ノ印紙稅ヲ以テス。其弊ヤ衆民ヲシテ價金僅少ノ物品ノ保險ヲ得ル能ハサラシムルニ至ル。而シテ價金二百三十磅以下ノ物品ハ、其數甚タ多ク、其火災ニ罹ルノ患ハ、價金貴キノ物品ヨリ更ニ甚シキ者アルナリ。

保險物稅ノ課率ヲ減スルノ時ニ方テ、哥刺德斯頓氏ハ千八百六十四五年ノ稅金七十七萬五千磅ヲ失フヘキノ豫算ヲ立テ、此豫算ヤ其正誤ヲ失ハサル者ト謂フヘキナリ。何トナレハ、千八百六十四年九月三十日ニ終ル四季間<sup>改正</sup>ノ收入ノ總計ハ百六十四萬三千磅ナリシニ、千八百六十六年九月三十日ニ終ル四季間<sup>改正</sup>後一司令六邊ニ至テ、九十四萬二千磅ヲ收メタリ。若シ保險物稅ノ課率ヲシテ減スル無クシテハ、毎ニ五萬磅ノ加收アルヘク、即チ千八百六十六年ニ於テ、百七十四萬磅

ヲ得ルヘシ、而シテ之ヲ現收ニ比照スレハ、八十萬磅ノ過數ナルヘキヲ計算スレハナリ。

千八百六十七年三月三十一日ニ終ル一週年ノ收入ハ、九十五萬二千三百三十八磅トス。此ノ即チ保險物ノ價金百磅毎ニ一司令六邊<sup>從前</sup>ノ稅ニ比スレハ、其半額ヲ減ス。ヲ課スル時ノ總計ニシテ、保險會社ニ給與スル報勞金ヲ除キタル者ナリ。

保險物ノ稅ヲ減スルノ前ニ在テハ、保險物ノ價金増加ノ數平均四千萬磅ナリシニ、千八百六十九年ニ至テハ、約七千三百五十萬磅ヲ増加セリ。而シテ千八百六十七年<sup>減稅</sup>ノ如キハ、三千百三十萬磅ノ増加アルニシ。此ノ愛爾蘭ニ於テ計算法ヲ改正スルニ因リ、保險物ノ價金千二百萬磅ヲ其翌年ノ計ニ記上スルニ由ルナリ。然レモ之ヲ前ノ價金ニ併セ算スルモ、其總計四千三百萬磅ニ過キサレハ、則チ其増加ハ減稅前ニ比シ

テ僅ニ一步ヲ進メタリト謂ハサルヘカラス。

三十一

三月三十一日 ニ終ルノ年度	収入ノ概計	収入ノ實計	保險物 ノ價金	増 加	保險具ノ 價金(免稅)
千八百六十八年	一〇三三、六〇六	九七四、〇一九	一、六、八〇、〇〇〇	三二、三三三、〇〇〇	八〇、五四八、五三三
千八百六十九年	一、〇七〇、〇四六	一、〇一八、六五四	一、三、六、七、〇〇〇	六、九二〇、〇〇〇	八四、三、八、五、八〇二

愛爾蘭ノ計算法改正ニ因テ翌年ノ計ニ記上スヘキ者ヲ扣除スレハ。千八百六十九年ノ保險物ノ價金増加ノ數ハ五千二百六十五萬磅トス。千八百六十九年ヲ以テ保險物ノ稅ヲ廢止セリ。但一邊尼ノ貼附印紙稅ハ。通常ノ保險證書ニ課シテ農具ノ保險證書ニ課セス。

海上保險稅

海上保險證書ノ印稅ハ。千八百九十四年ニ濫賜ス。千七百九十五年ニ至テ之ヲ改正シ。始メテ保險物ノ價金百磅毎ニ若干ノ稅ヲ課スルノ制ヲ

定ム。

海上保險稅ハ保險證書ノ證印ヲ以テ收入シ。航海保險ニ於テハ。保險料ノ多寡ニ隨テ。其課率ヲ昂低ス。即チ保險物ノ價金百磅毎ニ保險料十司令ヲ收ムル者ニハ。十司令毎ニ三邊尼ヲ課シ。五十司令ヲ收ムル者ハ。四十司令ヲ課ス。定期保險ニ於テハ。期日六箇月ヲ限ル者ハ。保險物ノ價金百磅毎ニ二司令六邊尼ヲ課シ。六箇月ヲ超ル者ハ。四司令ヲ課ス。此法ハ千八百四十四年ヲ以テ制定シ。千八百六十四年マテ連綿之ヲ施行ス。而シテ此年ニ至テ重複保險ヲ禁止スルノ法ヲ廢止セリ。重複保險ノ事ハ。アルノルド氏ノ海上保險書中ニ詳カナリ。因テ之ヲ左ニ抄録ス。

我英國ヲ除クノ外。保險者カ既ニ海上保險ノ事ヲ約スルノ後。重テ他ノ保險者ヲシテ保險物ノ價金及ヒ保險料。若クハ(佛蘭西國ニ在テハ)

保險料ヲ除キ其剩餘ノ金數ヲ保險セシムルハ各國ノ習慣且ツ其法令ノ准ス所トス此ノ如ク重複保險スルノ主旨ハ保險者若シ輕シク己ノ堪エサル所ノ保險ヲ爲セシコトアレハ更ニ他人ヲシテ己ニ對シテ保險セシメ以テ其責ヲ輕クスルコアルノミ。

重複ノ保險ヲ爲ス者ヲシテ其本旨ニ違ハサラシメハ敢テ非議スヘキコト非スト雖モ既ニ第十七百紀ノ半ニ方リ我英國ニ於テ之ヲ以テ保險料ヲ昂低スルノ具ト爲シ其跡稍投機ニ類似スル者アリ因テ議院ニ於テ此弊害ヲ矯正スル爲メ凡ソ保險者破産若クハ死亡スルコト非レハ重複ノ保險ヲ爲スヲ准サス若シ破産若クハ死亡スル者アレハ則チ其後見人タル者保險證書ニ重複ノ保險タルコトヲ明記シ其價金ニ從テ再ヒ保險スルヲ得ルヘト令セリ。

重複保險ノ禁令ヲ廢止セス近代ニ至ルマテ之ヲ施行セシハ實ニ怪マ

サルヲ得サルナリ千八百六十四年里味陂ノ保險者カ此禁令廢止ヲ政府ニ建議シタルアリ其論精確一讀以テ其廢止セサル可ラサルヲ知ルニ足レリ况ンヤ人民ハ此禁令アリト雖モ往々己ヲ得スシテ重複ノ保險ヲ爲スニ至ルヲ以テ其廢止ヲ至緊至要ナリト爲サ、ル莫キニ於テヤ里味陂保險者ノ建議書ニ曰今ヤ海外ノ貿易日ニ旺盛ニ趨キ商船ノ構造隨テ巨大ナリ故ニ一船隻ヲ保險スルノ價金モ亦昔日ノ僅少ナルカ如キニ非ス加之電信線ノ架設アル以來外國口港ニ於テ搭貨スルノ郵報達スルノ後直ニ難船報ノ到達スルアリ或ハ搭貨報ノ未ダ達セサルノ先ニ難船報ハ反テ到達スルアリ故ニ商賈ハ未定保險ヲ爲シテ豫メ其難ニ備ヘ保險物ノ價金ノ如キハ搭貨報ノ達スルノ後之ヲ定メサル可ラス今保險價金ノ巨大ナルノ證ヲ舉レハ例ヘハ印度ノ孟買ニ在テ棉花ノ價值騰貴スルト輸出ノ増殖スルトニ因テ商船一隻ノ噸

貸ヲ保險セシムルノ價金ハ十萬磅ニ超ルニ至ル而シテ商賈ハ之ヲ許  
 多ク保險者ニ分擔セシムルノ餘暇ヲ得サレハ則チ必ラス一會社ニ託  
 ス其會社ニ在テハ重複保險ノ法ニ據テ他ノ會社ニ分賦ス故ヲ以テ各  
 堪ル所ノ保險ヲ爲スコトヲ得ルナリ夫レ重複保險ノ己ム可ラサルヤ  
 此ノ如シ而シテ政府獨リ正實ノ業務ニ非ストスル乎何ソ之ヲ公認セ  
 サル之ヲ公認セサルノ故ヲ以テ保險者ハ唯榮譽ヲ相重シ印紙ヲ用ヒ  
 スシテ重複保險ノ事ヲ約ス而シテ未ダ曾テ其約ニ違フ者アルヲ聞カ  
 サルナリ然レモ此レ政府ニ於テ公認セサル所ナレハ則チ保險者ノ之  
 ヲ爲ス豈心ニ快シトセンヤ云々ト

既ニ里味陂保險者ノ建議スルアリ亦他ノ保險者ノ請求スルアリ因テ  
 政府終ニ重複保險ノ事ヲ公認シ且重複保險ノ爲メニ收入シタル税金  
 ハ悉ク還償スヘキヲ令セリ

千八百六十五年ニ於テハ定期保險稅ノ額ヲ減シ且其收入法ヲ改正ス  
 千八百六十七年ニ至テ亦之ヲ改正シテ收入ノ法ヲ簡易ナラシム即チ  
 航海保險ニ於テハ保險料ノ多少ニ關セス保險物ノ價金百磅毎ニ三邊  
 ニト爲シ定期保險ニ於テハ期日六箇月ヲ限ル者ハ亦百磅毎ニ三邊ニ  
 ヲ課シ十二箇月ヲ限ル者ハ六邊ニ課ス而シテ政府ノ歲入ハ此改革  
 ノ爲メニ三十一萬九千三百三十一磅ノ減差ヲ生セリ即チ千八百六十五  
 年ノ收入三十九萬八千七百六十八磅ニシテ千八百六十八年ニ至リ七  
 萬九千六百三十七磅ニ減セリ

賣藥稅

惹爾日第三世ノ代ニ在テ始テ數種ノ賣藥ニ印稅ヲ課シ幾ナラスレテ  
 改正ノ法令ヲ公布ス此レ即チ今日ニ至ルマテ仍施行スル所ノ者ナリ  
 該法令ハ首ニ賣藥ノ品種ヲ掲ケ次ニ此稅ハ前ニ掲クル品種ノ外ハ人

醫ノ外傷或ハ内部ニ腫起スル疾病ノ療治ニ供スル爲メノ丸藥糖藥鎮  
下藥等一切ノ藥劑政府ノ專賣免許ヲ得テ之ヲ廣告シ若クハ書寫印刷  
シテ裝入ノ罐箱等ニ貼附シ以テ販賣スル者ニ賦課スヘシト記セリ但  
人造ノ礫水ハ初メ此品目中ニ掲ケテ其稅ヲ課セシニ維廉第四世ノ代  
ニ至テ之ヲ免除セリ。

賣藥免許稅ハ倫敦及ヒ以丁堡ニ在テハ二磅ヲ課シ此二府外ノ都會ニ  
在テハ十司令他ノ地ニ在テハ五司令ヲ課ス又賣藥ヲ裝入スル包箱ノ  
印紙稅ハ其價値ニ從テ一邊尼半乃至一磅ヲ課ス。

證印ヲ捺スル賣藥ノ商票ハゴングルーア氏ノ發明スル精巧ノ器械ヲ  
用ヒテ之ヲ製造シ本寮免許主簿課ヨリ發給ス而シテ賣藥商ヲシテ其  
姓名及ヒ住所ヲ該票ニ記スルノ料金若干ヲ上納セシム。  
近時歐洲大陸ニ於テ廣造ノ商票ヲ貼附シタル製藥ヲ販賣スル者アリ。

既ニ二三ノ我國ニ輸入セルヲ見ル。

賣藥免許稅ハ千八百六十四年ヲ以テ國產稅局ノ管理ニ屬ス。

骨牌及ヒ骰子ノ稅

骰子稅ハ千八百六十二年ニ於テ廢止シ骨牌稅ハ其徵收法及ヒ販賣免  
許稅ニ至ルマテ悉ク此年ヲ以テ改正ス即チ下ニ記スル所ノ如シ此レ  
其密造者ノ多キヲ防遏セント欲スルノミ。

骨牌製造者言フ骨牌ノ密造甚ク盛ニ一名ノ製スル所モ一週年二十  
萬具ニ超過スト以テ密造ノ多キヲ知ルヘキナリ。

骨牌稅ハ從前一具毎ニ一司令ヲ課セシヲ減シテ三邊尼ト爲シ其徵收  
ノ法ハ從前本寮ニ於テ「スピード」ト稱スル骨牌ノ圖書ヲ印刷シテ製造  
者ノ製スル骨牌紙ニ貼合セシメ骨牌ノ製造悉ク畢レハ一具毎ニ證印  
アル包皮紙ヲ以テ緊封セシメ收稅吏ハ其數ヲ點檢シテ乃チ稅金ヲ收



入ス。此法實ニ本寮ノ不便ノミナラス。亦製造者ニ煩勞ヲ與フルノ弊アリ。加之。本寮ヨリ發付シテ貼合セシムル「スピード」ハ。自ラ他ノ骨牌ニ同カラサル所アルヲ以テ。骨牌ノ遊戲ニ熟スル者ハ。一觸シテ之ヲ察知ス。故ニ賭博ノ弊習ヲ矯正スル所以ノ税法ハ。反テ骨牌ノ密造ヲシテ益盛ナラシメ。遊戲者ヲシテ愈々其欺瞞ヲ縱ニスルヲ得セシムルニ至ル。因テ此法ヲ改メ。骨牌一具ヲ包裝スルノ包皮紙ヲ以テ。其稅ヲ課シ。該包皮紙ハ。製造者ノ請求ニ隨テ本寮ヨリ發付ス。

骨牌及ヒ骰子ハ。英蘇ノ二國ニ在テハ。倫敦「ウエストミンスター」及ヒ「ソイツワーク」ニ於テ之ヲ製造スルヲ准シ。愛爾蘭ニ在テハ。都伯林ニ於テス。其他ハ之ヲ准サス。

骨牌稅ノ未タ減セサルノ前ニ在テハ。課稅スル骨牌ノ數二十七萬二千具ナリレド。減稅ノ後ハ。六十六萬具ノ多キニ至リ。千八百六十九年ニハ。

八十二萬五千九百四十八具ニ上レリ。

骨牌ノ販賣免許稅ハ。從前五司令ヲ課セシメテ改メテ。其製造販賣ヲ兼ヌル者ニハ一磅ヲ課シ。販賣ニ止ル者ハ二司令六邊尼ヲ課ス。而シテ該稅ハ。千八百六十四年ヲ以テ。國產稅局ノ管理ニ歸セリ。

金銀器稅

金銀器稅ハ。金器ニ於テハ。其一「オンス」毎ニ十七司令ヲ課シ。銀器ニ於テハ。一司令六邊尼ヲ課ス。而シテ銀器稅ハ。其實一「オンス」毎ニ一司令三邊尼ヲ課スルニ過キス。此レ銀器ノ秤量ヲ監査シテ稅額ヲ定課スルノ時。其器未タ完成セス。故ニ之ヲ酌量シテ其六分一ヲ減スレハナリ。但其減量ハ。之ヲ完成スル者ニ比照スレハ。頗ル多キニ過ルモノトス。

金銀器稅ヲ免スル者ハ。金器ニ於テハ。時辰標ノ外套ヲ限リ。銀器ニ於テハ。其數甚々多シトス。即チ左ノ如シ。

時辰標ノ外套標鐘頸飾細球卸鈕襦袢扣鈕胸針賞牌等譯者曰銀器稅此他ニ猶數種アリ。今一々之ヲ譯セス。

金銀器稅ノ收入ハ貴金鑒定局ノ官吏之ヲ管掌ス該局ヲ設ルノ地ハ即チ左ノ如シ。

倫敦

北明翰

チエスター

エキセトル

新城市

吉非力

約克

以丁堡

英倫

蘇格蘭

〜ゴラスゴ

愛爾蘭

都伯林

貴金鑒定局官吏ノ俸給ハ左ノ例ニ照シテ之ヲ給與ス。

英倫

收税金百磅毎ニ一磅

蘇格蘭

同 二磅十司令

愛爾蘭

同 五磅

金銀器稅ヲ收入スルノ法ハ倫敦ニ在テハ金銀器會社計算表ヲ作テ計算課長ニ呈シ該課長ハ之ヲ査檢シテ印稅檢査吏ニ移ス檢査吏之ヲ會社ノ原簿ニ照比シ果シテ符合スレハ即チ證書ヲ發ス地方ニ在テハ貴金鑒定吏計算表ヲ作テ印紙配分官ニ送ル配分官之ヲ鑒定吏ノ原簿ニ照比シ符合スレハ即チ每季計算簿ト共ニ計算課長ニ移シテ其査檢ヲ請フ。

千八百五十六年ニ於テ。議院ノ委員ヨリ貴金鑒定局ノ諸規則ヲ改正シ。及ヒ金銀器製造ノ景況ニ因テ該局ヲ廢置スルノ權ヲ大藏卿ニ委任スヘキノ事ヲ建議ス。因テ本寮ニ於テ。訟師ニ命シテ其議案ヲ草セシメタレド。未タ之ヲ議院ニ紹介スルコト至ラス。

免許狀及ヒ證書ノ稅

免許狀及ヒ證書ノ印稅十三萬三千五百十五磅ハ。左ノ數項ヲ以テ收入スル者トス。

- 代訴人等ニ付與スル證書。 九〇、三六三
- 讓狀代書人ニ付與スル證書。 五五〇
- 銀行免許狀。 三五、五五〇
- 首府内驛車御者ニ付與スル免許狀。 三、一八六
- 結婚免許狀。 三、八九九

計

一三三、五一五

代訴人、錄事及ヒ讓狀代書人ニ付與スル證書ノ稅。

惹爾日第三世第百八十四章ヲ以テ。毎年代訴人等ニ付與スル證書ニ印稅ヲ課ス。即チ倫敦「ウエストミンスター」以丁堡及ヒ或地ニ在テハ五磅ヲ課シ。此地ヲ除クノ外ハ三磅ヲ課セリ。千八百四年ニ至テ之ヲ改正シ。特殊辯護人公平裁判所代官人、讓狀代書人ニ付與スル證書ニモ亦之ヲ課ス。其稅率ハ即チ左ハ如シ。

- 倫敦「ウエストミンスター」以丁堡及ヒ郵便稅二邊ニ 一〇〇、〇〇〇
- ヲ出スヘキノ地ニ住居スル者。 五〇〇、〇〇〇
- 此等ノ地ニ住居シテ營業三年ニ滿サル者。 六〇〇、〇〇〇
- 此地ノ外ニ住居スル者。 三〇〇、〇〇〇
- 此地ノ外ニ住居シテ營業三年ニ滿サル者。 三〇〇、〇〇〇

此税ハ千八百十五年ヲ以テ改正シ左ノ例ニ照シテ之ヲ課ス。

代訴人訟師及ヒ録事ノ倫敦「ウエストミンスター」以  
 丁堡及ヒ郵便税二邊ニ出スヘキ地ニ住居シテ三  
 年以上營業スル者。 一二両〇〇、〇

此地ニ住居シテ營業三年ニ滿サル者。 六〇〇、〇

此地ノ外ニ住居スル者。 八〇〇、〇

此地ノ外ニ住居シテ營業三年ニ滿サル者。 四〇〇、〇

特殊辯護人讓狀代書人及ヒ公平裁判所代書人ノ倫

敦「ウエストミンスター」及ヒ郵便税二邊ニ出ス 一二〇〇、〇

ヘキノ地ニ住居スル者。

此地ノ外ニ住居スル者。 八〇〇、〇

愛爾蘭國內ノ代訴人等ニ付與スル證書ノ税ハ即チ左ノ如シ。

營業三年ニ滿サル者。

三両〇〇、〇

三年以上營業スル者。

八〇〇、〇

千八百四十三年ニ於テ。英倫及ヒ威勒士國內ノ代訴人及ヒ訟師ニ關スルノ法令ヲ改正ス。即チ法律社ヲシテ代訴人及ヒ訟師ノ姓名ヲ記録セシムルノ制ヲ定メ。印税局ニ在テハ法律社ヨリ代訴人若シハ訟師タルノ書票ヲ付與セシ者ニ非サレハ證書ヲ發付スルヲ得スト令セリ。千八百五十三年ニ至テ復又證書ノ税率ヲ改メ。左ノ例ニ照シテ之ヲ課ス。

倫敦驛遞局ヲ距ル十里以内并ニ以丁堡及ヒ都伯林

九両〇〇、〇

ニ住居シテ三年以上營業スル者。

此地ニ住居シテ營業三年ニ滿サル者。

四一〇〇、〇

此地ノ外ニ住居シテ三年以上營業スル者。

六〇〇、〇

此種ノ外ニ住居ノテ營業三年ニ滿テタル者。

三〇〇〇

千八百六十年ニハ、英倫、威勒士ノ二國ヲ限リ、代訴人及ヒ訟師等ニ關スル法令ヲ公布シテ曰、法律社ヨリ付與スル代訴人及ヒ訟師ノ書票ニハ、總テ印信ヲ加ヘテ納税ノ憑證ト爲スヘク、又毎年二月十五日以後ニ在テ、法律社ノ請求スルコト有レハ、印税官ハ前年ノ十一月十五日乃至翌年一月二日ノ間ニ發付シタル證書ノ細目即チ本人ノ職業、住所及ヒ税額ヲ記スルノ書ヲ送付スヘシト。此時又令ス、凡ソ代訴人姓名ヲ内國稅事務官ノ指令ニテ刊行セシメタル名簿、刊行ノ年一月一日前ニ證書ヲ書人等ノ姓ニ載スレハ、何ノ法廷何ノ裁判官ノ前ニ於テスルヲ論セス名ヲ記ス。總テ官准代訴人タルノ憑證トス。該名簿ニ載セサル者ハ、官准代訴人ト爲スヲ得ス、又讓狀代書人ノ證書ハ、毎年法學院長ノ付與スル免許狀ヲ領スル者ニ非レハ、之ヲ發付スルヲ得ス。但此法令公布前既ニ發付シタ

ル者ハ此限ニ在ラスト。

千八百六十五年ニ於テハ、讓狀代書人及ヒ特殊辯護人ノ營業三年ナラサル者ニ付與スル證書ノ税ヲ減シテ其半額ト爲ス。即チ左ノ如レ。

倫敦ヲ距ル十里以内ニ住居スル者。

四一〇、〇

此他ノ地ニ住居スル者。

三〇〇、〇

愛爾蘭ノ代訴人及ヒ訟師等ニ付與スル證書ノ税ハ、千八百六十六年ニ改正シテ、英倫ト同一ナラシム。

銀行免許稅(英倫)

千八百八年始テ英倫國內ノ銀行ニ免許狀ヲ領スル者ハ持主ノ請求ニ應シテ拂フヘキ銀行手形ト稱スル約定手形ヲ發行スルコトヲ准シ、該手形ハ必ス證印紙ヲ以テ造ルヘキヲ令ス。而シテ手形發行ノ地幾所アルヲ論セス、免許狀一枚ヲ限リシニ、變モナク改正シテ、其發行ノ地毎ニ

之ヲ領セシメ。其稅ヲ各二十磅ト定ム。千八百十五年ニハ。免許狀ノ稅ヲ三十磅ニ増加シ。惹爾日第三世第百八十四章ノ特許ヲ得ル者ノ外ハ。仍其發行ノ地毎ニ免許狀ヲ領セシメタリ。

千八百二十八年ニハ。六名以上ノ資本ヲ以テ銀行會社ヲ創起スルコトヲ准シ。而シテ免許狀四枚ヲ領スレハ。地所ノ數ヲ限ラス。銀行手形ヲ發行スルヲ得セシム。

千八百二十六年ニハ。銀行手形及ヒ一覽後七箇日內ニ拂フヘキ手形并ニ或爲換手形ハ。證印ナクシテ之ヲ發行シ。附込計算稅法第三百四ノ依テ其稅ヲ上納スルコトヲ准ス。但此准許ヲ得ル者ハ。發行ノ地四所以上ハ。免許狀四枚ヲ領スレハ。則チ之ヲ准シ。四所以下ハ。其地毎ニ領セシム。而シテ其稅ヲ各三磅ト定ム。

此法ニ仍テ變更ナキ者十餘年。千八百四十四年ニ至テ。其五月六日ニ免

許狀四枚ヲ領シテ銀行手形ヲ發行スル者ヲ除クノ外ハ。發行ノ地毎ニ免許狀ヲ領セシム。

此年銀行手形發行ノ銀行ヲ創起スルコトヲ禁止ス。因テ銀行手形ヲ發行セサルノ銀行ニ。命令拂ノ約定手形ト或爲換手形トヲ發行スルヲ准サハル可ラス。乃チ此年免許狀ヲ三種ニ分テ之ヲ付與シ。其稅ヲ各三十磅ト定ム。三種ノ免許狀ハ。即チ左ノ如シ。

第一 惹爾日第三世第百八十四章ヲ以テ制定シタル銀行免許狀。

此免許狀ヲ領スル者ハ。持主ノ請求ニ應シテ拂フヘキ銀行手形ノ證印紙ヲ以テ造タル者ヲ發行スルコトヲ准ス。

第二 惹爾日第四世第二十三章ヲ以テ制定シタル銀行免許狀。

此免許狀ヲ領スル者ハ。持主ノ請求若クハ命令ニ應シテ拂フヘキ無證印ノ銀行手形及ヒ無證印ノ爲換手形ヲ發行スルコトヲ准ス。

第三 憲爾日第四世第二十三章ヲ以テ制定シ維多利亞第三十二章ヲ以テ追加シタル銀行免許狀。

此免許狀ヲ領スル者ハ持主ノ命令ニ應シテ拂フヘキ無證印ノ約定手形及ヒ無證印ノ爲換手形ヲ發行スルコトヲ准ス。

即チ證印紙ヲ以テ造タル銀行手形ヲ發行スル者ハ第一ノ免許狀ヲ領シ。無證印ノ銀行手形若クハ爲換手形ヲ發行スルハ第二ノ免許狀。無證印ノ約定手形ヲ發行シテ銀行手形ヲ發行セサル者ハ第三ノ免許狀ヲ領スルヲ須要スルナリ。

附込計算稅ノ收入法

無證印ノ銀行手形若クハ爲換手形ヲ發行スル銀行者ハ毎年一月一日及ヒ六月一日ヨリ十四箇日ヲ限テ前半年間流通ノ計ヲ一週日毎ニ分チ記シタル報牒ヲ作り其虛捏ナキヲ書憑シ以テ免許主簿課ニ呈スル

ヲ須要ス。免許主簿課長之ヲ接到スレハ該銀行者ノ免許狀ヲ領セシ手否ヲ查明シ之ヲ領スレハ即チ報牒ヲ精査シテ稅額ヲ算定ス。又該課長ハ一日ヲ終ル毎ニ附込計算稅ノ總計ヲ記スルノ書ヲ作テ計算課長ニ移シ以テ該稅ノ納付ヲ納金課長ニ要ムルノ憑證ト爲ス。以丁堡及ヒ都伯林ノ印稅局ニ在テ附込計算稅ヲ收入スルノ規法ハ曾テ英倫ニ異ナルコト無シ。

銀行手形若クハ爲換手形ノ證印稅ニ代ヘテ徵收スル附込計

算稅(英倫)

千七百八十三年ニ於テ英倫銀行<sup>バンク・オブ・イングランド</sup>ノ發行スル銀行手形若クハ爲換手形ノ證印稅ヲ廢止シ之ニ代ルニ一歲一萬二千磅ノ附込計算稅ヲ以テス。千七百九十九年ニハ其稅額ヲ二萬四千磅ニ増加シ千八百四年ニハ三萬二千磅ニ増加ス千八百八年ニ至テハ更ニ増加シテ四萬二千磅ト爲

而レテ若シ金員二磅以下ノ銀行手形ヲ發行セサルノ時ニ至レハ其  
稅四千磅ヲ減スヘシト令セリ。

千八百十五年ニ在テハ銀行手形及ヒ爲換手形流通ノ平均數ニ照算シ  
テ附込計算稅ヲ徵收スルノ制ヲ定ム。即チ該手形流通ノ計百萬磅ナレ  
ハ三千五百磅ノ稅ヲ課シ其半數ナレハ此例ニ準シテ其稅ヲ減セリ。

千八百四十四年ニハ英倫銀行發行ノ銀行手形ノ附込計算稅ヲ免除ス。  
而シテ從來該銀行ニ特別ノ營業ヲ准スノミナラス今亦附込計算稅ヲ  
免除スルノ故ヲ以テ該銀行ニ給與スル國債管理報勞金一歲ノ計十八  
萬磅ヲ減ス。然レモ千八百五十四年ノ法令ノ旨趣ニ據レハ英倫銀行獨  
リ普通ノ成規ニ悖テ免稅ヲ得ル可ラサルノ理アルヲ以テ千八百六十  
一年ニ至リ更ニ銀行手形ノ附込計算稅ヲ課シ之ヲ内國稅ト爲シ餘ノ  
稅金ハ悉ク雜稅トシテ收入スヘキニ議決ス。因テ維多利亞第三章ヲ以

テ該銀行ニ銀行手形ノ附込計算稅一歲ノ計六萬磅ヲ上納スヘキヲ令  
シ爲換手形ノ附込計算稅ハ仍舊爾日第三世第百八十四章ニ依テ之ヲ  
上納セシメタリ。

千八百二十六年ニハ惹爾日第四世第四十六章ニ依テ免許狀ヲ領シ六  
名以上ノ資本ヲ以テ銀行會社ヲ創起シタル者ニ政府ニ抵當證書ヲ納  
ムレハ持主ノ請求ニ應シテ拂フヘキ無印ノ約定手形ヲ發行スルコ  
トヲ准シ手形ノ證印稅ニ代ヘテ一箇年ノ流通ノ數ヲ平均シテ其百磅  
毎ニ七司令ノ附込計算稅ヲ上納セシム。

千八百二十八年ニ於テハ地方銀行ノ發行スル銀行手形及ヒ爲換手形  
ノ證印稅モ亦英倫銀行ノ發行スル手形ノ例ニ照シテ徵收スヘキニ議  
決ス。因テ惹爾日第四世第二十三章ヲ以テ英倫國內(倫敦「レチー」ヲ距ル  
三里以内ノ地ヲ除ク)ノ銀行者ニ免許狀ヲ領シテ政府ニ抵當證書ヲ納



▲レハ持主ノ請求ニ應シ若クハ一覽後七箇日內ニ拂フヘキ五磅以上ノ無證印ノ約定手形并ニ無證印ノ或爲換手形ヲ發行スルコトヲ准シ。又附込計算税法ニ據テ半箇年ノ手形流通ノ數ヲ平均シテ其百磅毎ニ三司令六邊尼ノ稅ヲ上納スルコトヲ准ス。而シテ此法ハ今日ニ至ルマテ仍施行セリ。

銀行免許稅蘇格蘭

千七百九十九年始テ銀行免許狀ヲ發付ス。而シテ之ヲ領スル者ニ一定ノ期日ヲ限リ五司令ノ價位ヲ有スル無證印ノ銀行手形ヲ發行スルコトヲ准ス。然レモ該免許狀ハ或銀行者ヲ限リ付與スル者ニシテ銀行所在ノ地名及ヒ他ノ詳目ヲ具申スルノ時ニ五司令ノ稅ヲ以丁堡ノ印稅局ニ上納セシムルニ過キス。  
一歲毎ニ免許稅ヲ上納セシムルノ制ハ千八百八八年後ノ施行ニ係レリ。

此年ノ法令ヲ以テ免許狀ヲ領セサル者ハ持主ノ請求ニ應シテ拂フヘキ約定手形ヲ發行スルコトヲ禁止シ。免許稅ノ額ヲ二十磅ト定ム。而シテ此時既ニ手形ヲ發行セシ地ニ在ラハ其幾所アルヲ論セス。免許狀一枚ヲ以テ之ヲ准シ。其他ハ發行ノ地毎ニ免許狀ヲ領セシム。但蘇格蘭銀行蘇格蘭ロヤル銀行及ヒ不列顛リヂン會社ニハ免許狀ヲ領セスシテ毎年二十磅ノ稅ヲ上納セシム。千八百十五年ニハ免許稅ノ額ヲ三十磅ニ増加シ。手形發行ノ地幾所アルヲ論セス。免許狀四枚ヲ領スレハ之ヲ准ス。千八百二十六年ニ至テ蘇國內ニ併資銀行ノ創起ヲ准ス。而シテ免許狀ヲ領セシムルノ數并ニ其稅額ハ變更スル所ナシ。故ニ該國內ノ銀行者ハ今日ニ至ルマテ仍千八百十五年ノ法令ニ依テ免許狀ヲ領スルナリ。但千八百四十四年五月六日後ニ免許狀ヲ領シテ手形ヲ發行スル者ハ發行ノ地毎ニ免許狀ヲ領セシム。

銀行手形及ヒ爲換手形ノ證印稅ニ代ヘテ徵收スル附込計算稅(蘇格蘭)

千七百九十九年蘇格蘭國內二三ノ銀行者ニ。金員僅少ノ證印ナキ銀行手形ヲ發行スルコトヲ准レ。數年ヲ經ルノ後蘇格蘭銀行。蘇格蘭ロヤル銀行及ヒ不列顛リチン會社。各一磅。一司令。二磅。二司令ノ價位ヲ有スル無證印ノ銀行手形ヲ發行スルコトヲ准ス。然レモ印稅ハ仍時ヲ定メテ之ヲ上納セシメタリ。

蘇格蘭國內ノ銀行者ニ發行手形ノ證印稅ニ代ヘテ附込計算稅ヲ上納スルコトヲ准セシハ。千八百五十三年ノ事ニ係レリ。此時ノ法令ニ曰。大藏事務長官ハ蘇格蘭國內及ヒ他ノ地ニ在ル銀行者ニ適當ノ規則ヲ遵奉セシメ持主ノ請求ニ應シテ拂フヘキ約定手形及ヒ爲換手形ノ證印稅ニ代ヘテ附込計算稅ヲ上納セシムルヲ得ルヘシト。今大藏事務長官

ノ此法令ニ據リ制定シテ上納セシムル附込計算稅ハ。半箇年間ノ流通ノ數ヲ每週日ニ平均シ銀行手形ニ於テハ。其百磅毎ニ四司令二邊尼爲換手形ニ於テハ。其百磅毎ニ三司令六邊尼トス。

銀行免許稅(愛爾蘭)

千八百十五年愛爾蘭國內ニ在テ持主ノ請求ニ應シテ拂フヘキ約定手形ヲ發行スル者(愛爾蘭銀行ヲ除ク)ニ。一歲毎ニ三十磅ノ稅ヲ課スルノ制ヲ定メ。都伯林ノ印稅局ヨリ發付スル免許狀ヲ領セシメテ之ヲ徵收ス。該免許狀ハ。惹爾日第三世第百章ニ依テ。既ニ手形ヲ發行スル銀行者ハ。發行ノ地幾所アルヲ論セス。免許狀一枚ヲ領スレハ。准スヲ除クノ外ハ。總テ發行ノ地毎ニ之ヲ領セシム。其翌年ニ至テ。免許稅ヲ廢止シ。後幾ナラスレテ。復タ同額ノ稅ヲ賦課ス。

千八百二十五年ニハ。都伯林ヲ距ル五十里ノ外ニ在テ。六名以上ノ資本

ヲ以テ銀行會社ヲ創起スルコトヲ准シ之ニ免許狀ヲ付與セリ。  
 前ニ記スル如ク證印アル銀行免許狀ハ手形發行ノ地毎ニ之ヲ領スル  
 ヲ須要セシニ千八百二十八年ニ至テ其數ヲ四枚ニ限ル。此年又政府ノ  
 記録ニ上セタル銀行者ノ更ニ免許稅三十磅ヲ上納スレハ持主ノ請求  
 ニ應シテ拂フヘキ百磅以下ノ價位ヲ有スル無證印ノ銀行手形ヲ發行  
 セシメ其發行ノ地ハ幾所アルヲ論セス。免許狀四枚ヲ以テ之ヲ准シ又  
 他ノ銀行ノ之ヲ欲スル者アレハ皆此法ニ照依スルヲ准セリ。  
 前記ノ諸法令ヲ以テ制定シタル稅額即チ銀行手形ヲ發行スル免許稅  
 及ヒ證印ナクシテ之ヲ發行スル免許稅ノ額ハ維多利亞第八十二章ノ  
 公布アリト雖モ曾テ變更スル所ナシ。

銀行手形及ヒ爲換手形ノ證印稅ニ代ヘテ徵收スル附込計算  
 稅(愛爾蘭)

愛爾蘭議院ノ慈爾日第三世第五章第十章及ヒ第二十一章ヲ以テ愛爾  
 蘭銀行及ヒ他ノ銀行ニ謝金若干ヲ上納セシメ以テ銀行手形及ヒ銀行  
 「ポスト、ビル」ヲ發行スルコトヲ准ス。慈爾日第三世第六十八章ヲ公布ス  
 ルニ至テ其第二十一章ヲ刪除スト雖モ爾後之ニ同シキ旨意ノ法令ヲ  
 公布シ今日ニ至ルマテ仍之ヲ施行ス。

慈爾日第四世第八十章ヲ以テ政府ノ記録ニ上セタル愛國內ノ銀行者  
 ニ持主ノ請求ニ應シテ拂フヘキ百磅以下ノ價位ヲ有スル約定手形ノ  
 證印稅ニ代ヘテ附込計算稅ヲ上納スルコトヲ准シ半箇年間ノ流通ノ  
 數ヲ平均シテ其百磅毎ニ一司令六邊尼ヲ上納セシム。後チ維多利亞第  
 八十二章ヲ以テ之ヲ三司令六邊ニ増加シ以テ英倫ノ稅ニ同ラシム。  
 今ヤ愛國ノ附込計算稅ハ半箇年間ノ流通ノ數ヲ毎週日ニ平均シ其百  
 磅毎ニ三司令六邊ニ課ス。

### 結婚免許税

結婚免許税ハ、特別ノ結婚ナレハ、則チ五磅ヲ課シ、普通ノ結婚ナレハ、則チ十司令ヲ課ス。但愛爾蘭ニ在テハ、普通ノ結婚税ヲ課セス。千八百三十六年ヲ以テ、凡ソ人民ノ婚姻ハ、記録長官ノ前ニ詣テ、免許狀若クハ證書ヲ請ヒ領シ、之ニ誓詞ヲ記載シテ、其式ヲ行フコトヲ准ス。而シテ該免許狀若クハ證書ニハ、寺院ノ教長ヨリ發付スル免許狀ニ同シキ印税ヲ上納セシメタリ。然レモ此時ノ法令ニ據レハ、國教院ノ式ニ從テ結婚スル者ハ、免許狀ヲ領シテ誓詞スルヲ須ヒス。其後制定スル所ノ法令ヲ以テ、國教院ノ式ニ從テ結婚スル者ト雖モ、必ス印税ヲ上納スヘキヲ令セリ。

### 首府内驛車馭者ノ免許税

首府内驛車ノ馭者ニ付與スル免許狀ヲ以テ收ル税金ハ、千八百七十年

一月一日以降警視官ノ徵收スル所トナレリ。故ニ今印税ノ部類中ニ在ラス。

○  
估價人、骨牌商家屋周旋人、行商、呼賣商、賣藥商、典質商及ヒ金銀器細工人ニ課スル免許税ハ、千八百六十四年以降國產稅局ノ管理ニ屬ス。

### 雜印税

凡ソ諸般ノ印税法中變革ノ最モ大ナル者ハ、裁斷印ヲ用ルノ法ヲ設ケ、民事裁判所ニ於テ證印ナキノ證券ヲ受理スルノ令ヲ公布スル是ナリ。千八百五十年ノ法令ニ曰、凡ソ印税ヲ課スル諸證券ヲ内國稅事務長官ニ呈シテ印税額ノ意見ヲ請フ者アレハ、該長官ハ、其證印ノ有無ヲ論セス。請主ニ謝金十司令ヲ上納セシメ、該謝金ハ印税ト爲己ノ意見ヲ以テ其稅額ヲ定メ、其證印ナキ者及ヒ證印ノ不足スル者ニハ、各其税金ヲ完

納セシメ而シテ裁斷印ト稱スル印ヲ捺シ與フヘシ。乃チ該證券ノ證印  
ナク及ヒ不足スルヲ論セス。裁判所ニ於テ受理スルヲ得ルヘシト。而シ  
テ請主若シ内國稅事務長官ノ意見ニ服セサルハ。會計裁判所ニ上告  
スルコトヲ准ス。又衆民ノ便益ヲ圖リ。以丁堡及ヒ都伯林ニ於テモ。本察  
ノ訟師ヲシテ印稅額ノ意見ヲ開陳セシメ。請主若シ亦其意見ニ服セサ  
レハ。蘇愛二國ノ會計裁判所ニ上告スルコトヲ准セリ。

又從來諸證券ノ印稅ヲ上納スルノ不完ナルニ因リ。民事裁判所ニ於テ  
受理スルヲ得サル者多ク。不便甚シキヲ以テ。千八百五十四年ニ於テ。民  
事審理法ヲ公布シテ。之ヲ便ニスルノ法ヲ設ク。其文ニ曰ク。凡ソ訟庭ニ  
呈スル諸證券ニ證印ナキ者或ハ證印ノ不足スル者アレハ。該證券ヲ朗  
讀スルノ官吏先ツ其事由ヲ開陳シテ裁判官ノ注意ヲ要シ。券主ヲシテ  
適當ノ證印ヲ請ヒ若シハ其不足ヲ補ハシメ。仍印稅法ニ依テ科スル所

ノ罰金ノ外更ニ罰金一磅ヲ増科シテ該證券ヲ受理スヘシト。但刑事裁  
判所ニ於テハ。證券ニ證印ナシト雖モ之ヲ受理スルモノトス。  
凡ソ諸證券ノ證印ナキ者及ヒ其不足スル者ヲ受理スルニ因テ徵スル  
罰金ハ。上等裁判所ニ在テハ。裁判官ノ「マルヴェヨール」之ヲ徵收シ。地方裁  
判所ニ在テハ。オフィサー「之ヲ徵收ス。千八百六十九年ニ證印ヲ請ヒ及  
ヒ其不足ヲ補ハシメタル稅金ノ總計ハ。十四磅十二司令四邊尼ニシテ  
罰金ハ則チ七百十二磅ナリ。又罰金ヲ徵シテ受理シタル證券ノ數ハ八  
十通トス。

○  
千八百六十九年三月三十一日ニ終ルノ年度ニ在テ。印紙ノ賣售ニ因テ  
割引シタル金員ハ。郵便印紙ノ割引ヲ除キ。五萬三千八百八十六磅十三  
司令九邊尼トス。

印紙ノ賣售ニ因テ其價金ヲ割引スルノ規法ハ即チ左ノ如シ。

倫敦都伯林及ヒ以丁堡ノ印稅局ニ在テハ。

諸證券即チ讓狀契約證券貸地證券抵當證券及ヒ一司令以上ノ手形ノ印紙。

但一印紙ノ稅金ハ十磅以下ニシテ購收ノ數三十磅ヲ超ル者ヲ限ル。

百分ノ一半

賣藥票

但購收ノ數五十磅ニ滿ル者ヲ限ル。

百分ノ五

郵便帶紙

但官准印紙販賣者ノ購收スル數十磅ニ滿ル者ヲ限ル。

百分ノ一

爲換手形、銀行手形及ヒ領收證書ノ印紙

但一印紙ノ稅金一司令ヲ超エシテ購收ノ數二磅ニ滿ル者ヲ限ル。  
一磅毎ニ十邊尼

合衆王國內各地方ノ印紙配分官ノ官署ニ在テハ。

領收證書爲換手形及ヒ銀行手形ノ印紙

但一印紙ノ稅金一司令ヲ超エシテ購收ノ數一磅ニ滿ル者ヲ限ル。  
一磅毎ニ十司令

愛爾蘭ノ新聞印紙

百分ノ二十五

既ニ閣下ノ明知セラレ、如ク郵便印紙ハ貼附印紙ナルト凸起畫紋紙ナルトヲ論セス。總テ本寮之ヲ監督シテ製造セシム。此他ニ官廳二十餘所ノ囑託ヲ承ケテ製造スルノ印紙アリ。即チ英倫及ヒ愛爾蘭ノ大審院、民事裁判所、破產裁判所、海軍裁判所、遺書裁判所ノ類是ナリ。而シテ今蘇格蘭ノ法廷ニ於テモ亦印紙ヲ用ヒシムルノ議ニ決メタレハ之ヲ實施

スルハ、則チ閣下ノ任掌ニ在ルヘシ。此他ニ猶本寮ノ監督シテ製造セシムル者ハ、愛爾蘭ノ畜犬免許狀ヲ以テ徵スル地方稅印紙并ニ該國內巡回裁判所ノ謝金印紙ノ二種トス。

第七編 印稅ノ部

郵便印紙 附 印紙製造ノ改正

今ヲ距ル三十年前、一邊尼ノ郵便印紙ヲ用ヒテ信書ヲ遞送スルノ法ヲ設ルヤ、本寮印稅局ニ於テ、新クニ郵便印紙ヲ製造シ、以テ人民ノ需用ニ供シタリ。而シテ打印ノ封套ハ、其需用ノ甚ク多カルヘキヲ察シテ、多ク「モルレギー」氏發明ノ圖形ヲ畫ケル封套ヲ製シ、亦凸起畫紋ノ封套ト貼附印紙トヲ造テ、人民ノ擇フ所ニ從カス。然ルニ「モルレギー」氏ノ圖形ヲ畫ケル封套ハ、曾テ之ヲ需用スル者ナシ。故ニ爾後ハ、唯、貼附印紙ト凸起畫紋封套トノ二種ヲ製セリ。

貼附印紙ハ、總テ印刷工ヲシテ之ヲ製造セシム。其製方ハ、彫刻ノ銅銅板ヲ用ヒテ印刷シ、護謄ヲ紙背ニ塗抹ス。而シテ其製造ノ間ハ、本寮吏員ヲ派シテ之ヲ監視セシム。凸起畫紋封套ハ、印稅局打印課ニ於テ、迅速竣成

スルノ器械ヲ用ヒテ之ニ打印ス。而シテ普魯士及ヒ他ノ外國政府ノ囑託ヲ承ケ。此種ノ器械ヲ製造シテ運出スルコト甚々多シ。

凡ソ印紙ノ製造ニ於テ最モ緊要トスルノ目二アリ。其一ハ。印紙ノ畫紋ヲ華麗ニシテ價造スルニ難シ。且價造スル者ヲシテ用費ノ多キニ堪エカラシムルナリ。其一ハ。貼附印紙ニ於テハ。料紙及ヒ護謄ノ價金并ニ印刷ノ用費ヲ加算セス。着色ノ打印封套ニ於テハ。豫メ顔料ノ價金ノ添加スルヲ計テ。其製造費ヲ節減スルナリ。夫レ印紙ハ配分ノ用費アリ。若シ又其製造費ヲ巨大ニスレハ。則チ其價ヲ郵便稅ニ歸セサルヲ得ス。故ニ大ニ此二費ヲ節減スルニ非レハ。安ソ一邊尼ノ郵便稅ヲ以テ之ヲ償フコトヲ得ンヤ。

郵便印紙賣售ノ數ハ。郵便局ノ數ト共ニ日ヲ逐テ増加シ。稅金前辨ノ規法ヲ廢止セシ後ハ。其數最モ多キヲ加ヘタリ。即チ該印紙發行ノ初年ニ

收ル稅金ノ數ハ。三十萬磅ナリシニ。千八百六十九年ニ至テハ。四百萬磅餘ノ多キニ上レリ。

郵便印紙發行ノ初年乃至千八百六十九年ノ間。毎年收ル所ノ稅金ノ數ハ。即チ左ノ如シ。

年 號	稅 金 ノ 數	磅
千八百四十年	三〇九、六九三	
千八百四十一年	四八九、八六九	
千八百四十二年	五三〇、一八一	
千八百四十三年	五七四、一五二	
千八百四十四年	六四五、八三一	
千八百四十五年	七六九、〇二八	



千八百四十六年	七七七、九八二
千八百四十七年	八八七、四八六
千八百四十八年	八八七、三七五
千八百四十九年	九八五、二二三
千八百五十年	一、一二五、四〇七
千八百五十一年	一、三一三、八三八
千八百五十二年	一、五九〇、三三四
千八百五十三年	一、七六三、一八四
千八百五十四年	一、八八二、六四五
千八百五十五年	一、九五〇、五七二
千八百五十六年	二、二一一、一七七

三百六十一

千八百五十七年	二、四一四、三三一
千八百五十八年	二、三八六、二六九
千八百五十九年	二、五九三、八三八
千八百六十年	二、七六一、二二二
千八百六十一年	二、八八五、九四三
千八百六十二年	三、〇四一、四五九
千八百六十三年	三、二二六、六五四
千八百六十四年	三、四〇一、六〇二
千八百六十五年	三、六五八、九三〇
千八百六十六年	三、七九八、八三〇
千八百六十七年	三、九四五、七五一

三百六十一

千八百六十八年	四、〇七七三六七
千八百六十九年	四、一四四二二九九

凸起畫紋封套ノ打印ノ數ハ諸種ノ郵便印紙ニ較スレハ甚タ多カラスト雖モ若シ一日間ニ打印スル封套ヲ列續セハ其長キコト六里ニ下ラサルヘシ然ハ則チ決メテ之ヲ僅少ナリト謂フ可ラサルナリ。

千八百四十一年始テ打印ノ封套ヲ發行スルヤ其旨趣歲入ヲ保護スルニ在ルヲ以テ三色ノ糸線ヲ澆入シタル一種ノ料紙ヲ用ヒテ之ヲ製セリ。然レ此之ヲ通常ノ料紙ニ比スレハ其品ノ不真ナルアリ亦人民齎ス所ノ封套ハ其形體廣狹及ヒ原紙ノ自ラ異ナル者アルヲ以テ其請求ニ應シテ打印スルヲ得サルノ不便アリ。因テ千八百五十五年ヲ以テ糸線澆入ノ料紙ヲ用ヒテ之ヲ製スルコトヲ廢止ス。而シテ印稅局ニ於テハ。

今仍打印ノ封套ヲ發行シ凡ソ何人ヲ論セス封套ノ料紙ヲ齎シテ打印ヲ請フ者アレハ則チ一定ノ規則ヲ遵守セシメテ准聽シ其規則書ハ該局ニ請求スレハ之ヲ得セシム。而シテ千八百六十八年人民齎ス所ノ封套ノ料紙ニ打印スルノ數ハ千八百萬餘ニ至レリ。

蒸氣器械ヲ用ヒテ封套ノ料紙ニ打印セシニ其功效既ニ顯著ナルヲ以テ凡テ印稅ノ額郵便稅ニ同クシテ需用最モ多キ者ハ工費ヲ要セス。夫テ打印スルヲ得ルヘキヲ知ル。因テ新聞紙ニ打印スルコトヲ准セリ。夫レ新聞紙ノ打印ハ本寮ノ夙ニ計ル所ナリ。然レ此新聞紙ハ其幅員廣キヲ以テ器械ノ回轉ニ隨テ之ヲ上セ。又回轉ニ隨テ之ヲ去ルノ自由ナリ難キヲ察シ施行スルニ至ラスシテ止ミタリ。今ヤ封套打印ノ成效ニ由テ遂ニ之ヲ達スルヲ得タリ。亦素志不撓ノ功ト謂フヘシ。

打印課長本寮ニ建議シテ曰ク。凡ソ新聞紙ハ本寮ヨリ極印ト記號器械

トヲ其社ニ付シ之ヲ印刷器械ニ嵌入シ新聞紙ヲ印刷スルノ時ニ併セ  
テ極印ヲ打シ號數ヲ表記セシメハ。當ニ新聞社主ノ益ヲ蒙ルノモナラ  
ス。本寮モ亦便ナラント。此議ヤ。法令ニ抵觸スル所アルヲ以テ。輒ク決セ  
ス。數月ヲ閱スルノ後。遂ニ之ヲ採用シ。先ツ「タイムズ」新聞紙ヨリ始メ。後  
「倫敦繪入新聞紙」及ヒ「スタンホールド、メルキユリ」新聞紙ニ施シ  
リ。但施工ノ際ニ難事アリ。即チ其一ハ。倫敦繪入「スタンホールド、メル  
キユリ」新聞紙ノ印刷器械ハ。其回轉迅疾ニシテ巨大ノ塗墨器、活字  
檯ノ交互相軋ルノ甚キヲ以テ。記號器ヲ嵌入シテ每紙ノ號數ヲ表記  
セシムルヲ得サル者。其一ハ。曩ニ新聞紙稅法ノ改正アルヤ。新聞紙ヲ印  
刷スルノ際。極印ト記號器トヲ撤去セシメテ印ヲ打シ號ヲ記スルコト  
無ラシムル者是レナリ。初メニハ此ニ難ノ爲メ。頗ル苦ミタリト雖モ。  
漸次實驗ヲ經テ。終ニ其功ヲ奏スルヲ得タリ。

初メ諸種ノ新聞紙ニ打印スルノ時ヤ。器械費用ノ項ニ因テ巨大ノ費用  
ヲ省減セリ。而シテ驛遞局ヲ經テ配達スル新聞紙ヲ除クノ外。總テ其稅  
ヲ廢止スルニ至テハ。復更ニ大ニ其費用ヲ減スルヲ得タリ。  
貼附郵便印紙ノ穿孔ハ。曾テ稅務ニ關係セス器械學ヲ講セサル某氏之  
ヲ計畫シテ迅速ニ竣成ス。而シテ亦其費用ヲ節減スルヲ得タリ。然レモ  
凡ソ貼附印紙ハ。其料紙ヲ濕シテ印刷スルヲ以テ。乾燥スレハ輒チ伸縮  
シ。紙幅ノ廣狹自ラ異ナル無キ能ハス。因テ別ニ穿孔器械ヲ備ヘサルヘ  
ラス。乃チ「ナビヤ、アンド、ソン」會社ヲシテ一器械ヲ製セシメ。後チ多少改  
正シテ始メテ完備スルニ至レリ。今ヤ郵便印紙ハ。悉ク此器械ヲ用ヒテ  
穿孔ス。

千八百五十三年ニ於テ。凸起畫紋及ヒ貼附ノ一邊尼領收證書印紙ヲ發  
行スルノ議ヲ決シ。大藏卿ヨリ貼附領收證書印紙ハ。之ニ穿孔シテ面

ナ後發行スヘキヲ令ス。乃チ穿孔器械ノ製造ヲ竣ルヤ。直ニ其穿孔ノ用ニ供シタリ。今印稅局ニ於テハ。穿孔器械五基ヲ備ヘテ。一日毎ニ印紙一萬五千枚ニ穿孔ス。而シテ其中ノ千百枚ハ。印度錫蘭モリチアス。及ヒ他ノ殖民地ニ送ルモノナリ。

凸起畫紋一邊尼領收證書ノ印ハ。從前尋常ノ手工器械ヲ用ヒテ之ヲ打過ス。千八百五十八年新タニ銀行手形ニ印稅一邊尼ヲ課スルニ至テ。印稅局打印ノ事務更ニ倍徒シ。課稅ノ法令發布後ノ數日間。銀行者ノ手形ヲ齎シテ打印ヲ請フノ數。一日百萬枚アルニ至レリ。乃チ該局ニ於テハ。打印ノ工程ヲ迅速ナラシムル爲メ。記號者ト打印者トヲ三夥ニ分チ。或ハ他ノ打印ニ供スルノ器械ヲ用ヒ。或ハ別ニ一器械ヲ新製シテ之ヲ用ヒ。晝夜打印ニ從事セシメタレハ。則チ印稅局長ノ下令スルヨリ未タ十四箇日ヲ經ス。テ二十四時毎ニ紙數五萬枚ニ打印スルヲ得タリ。之ヲ

概說スレハ。初メ無色凸起畫紋印ハ四萬枚ニ打過スルニ過キサリシニ。僅ニ三週日ヲ經テ。四十萬枚ニ打過スルニ至リシナリ。千八百五十九年ニ至テ。其數自ラ減シ。局務常ニ復ス。然レモ無色凸起畫紋ノ印ヲ打過スルハ。仍從前ヨリ三倍セリ。故ニ更ニ器械ヲ製シテ迅速竣成スルノ方ヲ設ケサルヘカラス。

印稅局ノ工事ノ漸次繁劇ニ趨キシハ。其原因一二ニ止ラス。例ヘハ課率昂クシテ稅項ヲ收ルノ數少キ者ハ。之ヲ改正シテ其課率ヲ低下ス。因テ稅項ヲ收ルノ數隨テ増加スルナリ。金錢ノ授受ニ課スル從價稅モ。亦其課率ヲ低下ス。因テ稅項ヲ收ルノ數自ラ増加スルナリ。諸裁判所及ヒ他ノ衙門ニ於テ徵收スル謝金ハ。實貨ヲ收ルノ制ヲ廢シ。印紙ヲ以テ之ヲ徵收スルナリ。カベンヂシ烟草稅。畜犬免許稅及ヒ電信局ノ謝金モ。亦印紙ヲ以テ徵收スルナリ。此類皆然リ。又此等ノ印紙ヲ需要スルノ數ハ。恒

ニ増減シテ。曾テ一定スルコト無シ。現ニ昨然千八百六十九年驛遞局  
リ電信印紙二百萬枚ヲ製スヘキノ屬託ヲ承ケ。每一日四萬枚ノ計算ヲ  
以テ之ヲ製造シタリ。又農事統計ノ印紙百萬枚餘ヲ數日ノ間ニ需要シ。  
畜犬免許狀ハ其數殆ント百五十萬枚ニ上レリ。夫レ印稅局ハ每一日普  
通ノ印紙二十三萬枚餘ヲ製ス。而シテ尙此ノ如キ臨時ノ需要ニ應スル  
ヲ得ル者ハ他ニ非ス。或ハ迅速竣成スルノ器械ヲ用ヒ。或ハ製造ノ方ヲ  
簡易ニシ。又二三ノ練熟ノ役員ヲ登用スルニ由ルナリ。

器械ノ運轉ヲ監視スルノ事固ヨリ簡易ナルヲ以テ。幼童ヲ役スルニ若  
カサルナリ。而シテ器械ノ數ノ増加スルニ隨テ其員亦増加セサルヘカ  
ラス。乃チ現今ハ八十四名ヲ使フ。其本務ハ器械ノ運轉ヲ監視セシムル  
ニ在リト雖モ。或ハ時ニ壯丁ニ任スル所ノ工事ヲ爲サシムルアリ。此幼  
童ヤ能ク勤勞シテ怠慢スル無シ。動作敏捷ニシテ心ヲ公務ニ竭シ。大ニ

信使スルニ足ル者アリ。監督ノ官吏タル者。宜シク熟察シテ褒賞スヘキ  
ナリ。乃チ曩ニ大藏卿ノ裁可ヲ經テ。幼童打印者ノ一級ヲ設ケ。器械室ニ  
役スル四年ニ至ル者ヲ以テ之ニ充ルノ制ヲ定ム。夫レ幼童打印者ハ。器  
械室ニ役スル者ノ中ニ就キ精選拔擢シテ之ヲ命スルヲ以テ。其事業ヲ  
能クスル。或ハ壯丁ニ優ル者アリ。而シテ其工賃ハ僅ニ壯丁ニ給スルノ  
半額餘ノミ。故コ本寮ノ經費ヲ省減スル亦尠シトセス。此幼童打印者。年  
齡漸ク長シテ事業練熟スルニ至レハ。則チ其工賃ヲ増シテ。壯丁打印者  
ノ下等給ヲ與ヘ。而シテ後漸々其上等給ニ上ス。近時驛遞局ニ於テ。亦幼  
童ヲ役スルノ法ヲ設ク。此蓋シ内閣大臣ノ曾テ本寮ヲ巡回スルノ際。幼  
童ヲ役スルノ功效著明ナルヲ見テ。其法ヲ該局ニ及セシナリ。  
器械ノ運用ト役員配置ノ改正トニ由テ。大ニ本寮ノ經費ヲ省減シタリ。  
若シ此二功ヲシテ無ラシメハ。二十年前本寮増築ノ打印室ハ。猶狹隘ニ

ヲテ用ニ適セサルヤ必セリ。然レモ今日ノ情勢ヲ以テ之ヲ推セハ。工事  
 ハ日ニ増加スルモ。未タ巨費ヲ擲テ更ニ増築スルノ域ニ至ラス。其域ニ  
 至ルハ。尙數年ノ星月ヲ經ヘキナリ。又經費省減ノ點ニ於テハ。尙一二ノ  
 記載スヘキ者アリ。夫レ羊皮紙ハ。年ヲ閱スル久キニ至レハ。打印ノ痕自  
 ラ消滅スルノ患アリ。故ニ「エスカッ」ト稱スル紙片ヲ糊附シテ。其  
 上面ヨリ打印セサルヘカラス。此紙片糊附ノ施工ハ。曾テ巨大ノ用費ヲ  
 要セシ。一器械ヲ製シテ。施工ノ方ヲ簡易ニセシヨリ。一歳ノ計千磅ヲ  
 省減ス。又印稅六邊尼ヲ課スル普通證券ノ打印ハ。之ヲ請フ者甚々多ク  
 申請書ヲ呈スルノ數ハ。一日百四十通ニ下ラサルナリ。亦打印ノ數ヲ表  
 記スル器械ヲ發明セシヨリ以來。復タ申請書ヲ呈セムルヲ須ヒス。印  
 稅局ニ在テハ。簿冊ニ登記スルノ勞ヲ省ケリ。因テ申請書料紙ノ價金ヲ  
 節減シ。日子徒消ノ弊ヲ除ク。其効豈小少ナランヤ。

人民ノ證券ヲ齎シテ打印ヲ請フヤ。各其申請書ヲ作ルヲ要シ。及ヒ證券  
 ヲ打過シ且ツ打印ノ證券ヲ交付スル等ノ間ニ。時刻ノ遷移ナキ能ハス。  
 因テ請主ハ皆扣所ニ塵集シ。室内ノ雜選スル實ニ甚シ。此レ從來人民ノ  
 屢訴ル所ナルヲ以テ。本寮ニ於テハ務メテ其弊ヲ除クノ法ヲ考究シ。乃  
 チ普通ノ證券ナレハ。則チ記號器械ヲ用ヒテ。其號數ヲ表記シ。之ヲ請主  
 ニ交付シテ扣所ヲ去ルヲ得セシム。又申請書ノ計算課及ヒ納金課ヲ經  
 由スル者ハ。亦器械ヲ用ヒテ速ニ之ヲ打印課ニ移ス。故ニ先後ノ次序整  
 頓シテ。復タ雜選スルコト無シ。又受付掛及ヒ打印課ノ證券ヲ接到スル。  
 先後ノ次序ヲ逐テ之ヲ區處スルコト容易ラス。事務繁劇ノ際ニ在テハ  
 最モ甚トス。此レ亦器械ノ使用ニ因テ。其次序ヲ亂スナキヲ得タリ。而  
 シテ訴ル者隨テ絶セリ。以テ器械ノ効ノ大ナルヲ知ルヘシ。

貼附印紙

貼附印紙ハ。初メ郵便税ノ收入ニノミ之ヲ用ヒシニ。千八百五十三年ニ至テ。領收證書及ヒ商券ノ從價税ヲ廢シテ。之ニ代ルニ一邊尼ノ定額税ヲ以テシ。而シテ貼附印紙ヲ以テ之ヲ收入セリ。此法既ニ衆民ニ便益ヲ與フル妙ヲナルヲ以テ。幾モナク他ノ内國税ニ及ホセリ。即チ諸裁判所ノ謝金ヲ徵收スルコ之ヲ用ルノ類是ナリ。裁判所ニ呈スルノ證券ハ。必ス裁判官ノ查驗ヲ經ルヲ以テ。印紙ヲ貼附セシムルモ害アルナシト雖モ。然レモ。若シ今日未ダ准サ、ル所ノ者。例ヘハ不動産證券及ヒ他ノ永遠ニ傳フヘキ證券ノ税モ亦貼附印紙ヲ以テ徵收セント欲セハ。決シテ法ノ善ナル者ニ非ス。何トナレハ。貼附印紙ヲ使用スル者ハ。必ラス己ヲ得サルノ情由ニ出ルヲ以テ。脱税ノ患無キ能ハス。又若シ之ヲ剝去ラルハ。ノ事アレハ。故失ヲ論セス。使用者ヲシテ危險ニ陷ラシムルニ至レハナリ。

貼附印紙ノ製造ハ。其用費甚タ多ク。原版一枚ノ價金。少クモ百二十磅ニ下ラス。而シテ税率ノ異ナル毎コ之ヲ彫刻セサル可ラス。之ニ加ルニ。印刷穿孔及ヒ護謄塗抹ノ用費アリ。尋常紙及ヒ羊皮紙ニ打過スル極印ニ至テハ。其價金十磅ニ過キサルナリ。又貼附印紙ハ。雇人ノ爲メニ竊取セラル、ノ患アリ。郵便印紙ニ於テ最モ多シトス。此レ信書ヲ郵便局ニ送ルノ際。其印紙ヲ剝取スルヲ得ルヲ以テナリ。亦内國税印紙ニ於テモ之ナシトセス。此ノ如キノ故ヲ以テ。使用者ハ印紙面ニ己ノ印信ヲ捺シテ復タ使用スルヲ得サランメ。以テ此弊ヲ防クヲ本寮ニ申請セリ。本寮之ヲ熟考スルニ。若シ之ヲ聽セハ。印紙タルノ證ヲ認ムルヲ得サルノ害アリ。聽サ、レハ。他ニ此弊ヲ防クヘキノ方ナシ。因テ終ニ之ヲ聽シ。而シテ皇帝ノ畫像上ニ捺加スルコトヲ禁止シタリ。

貼附印紙ヲ以テ印税ヲ上納スルヲ准ス者ハ。即チ左ノ如シ。

領收證書

商券

爲換手形及ヒ約定手形 外國ニ於テ振出タル者ヲ限ル。

「デリバリ、オールドル」

「コントラクト、ノート」

「プロキシ」

「フォーチング、ペーパー」

船廠證書

署名契約書

貸地證券

保險證書

雇船證書

出產届書

採鑛經費簿

遺書稅、遺物稅及ヒ相續稅

千八百五十七年前計算課長、トソヨル氏ノ起草セシ遺書稅、遺物稅沿革誌ハ、載ヒテ本寮第一回年報書ノ附録ニ在リ。左ニ之ヲ抄録ス。

英倫、蘇格蘭及ヒ愛爾蘭ノ遺書稅、并ニ死亡者ノ財産ヲ繼承スルニ因

テ課スル遺物稅ハ、之ヲ課スルノ日甚タ久矣。其課率ハ、初メ定ニ僅少ナリシニ、後チ漸ク増加シ、千八百五十六年十二月三十一日ニ終ルノ年度ニ至テ、其總計三百零九萬七千七百五十磅十七司令六邊尼ニ上レリ。

死亡者ノ財産繼承ノ稅ハ、邦國ノ爲ニスルト都市ノ爲ニスルトヲ論セス。歐洲諸國之ヲ課セリル者稀ナリ。而シテ其起源ハ、蓋シ羅馬帝奧古士都ノ制定セシ「ウサシマ、ヘレヂダチエム、エ、レガトルム」遺物稅ニ出ルト云フ。

往昔封建世祿ノ代ニ在テ、死亡者ノ財産繼承ノ稅ハ、實ニ人民ニ禍ヲ蒙ラシムル者トス。曾テ英倫ノ諸王ハ、「インクホーシロ、ポスト、モルテム」ト稱スル検査局ヲ設置シテ、該稅ヲ徵收セシメ、顯理第八世ハ、「コルト、オフ、ワルド」ト稱スル衙門ヲ創置シテ、検査局ノ事務ヲ監督セ



レメ。以テ益、國王ノ權勢ヲ張レリ。查爾斯第一世ノ代ニ於テ。此等ノ衙門ハ、議院ノ非議スル所トナル。因テ爭端ヲ發シ。遂ニ革命ノ亂アルニ至レリ。故ヲ以テ該衙門ハ其名アリト雖モ其實ナレ。查爾斯第二世ノ代ニ至テ令ヲ下シテ曰ク。從來ノ實職ニ據レハ、コールト、オフ、ワルド」ノ。人民ニ害ヲ施スハ。王室ニ利ヲ收ルヨリ甚シトス。夫レ千六百四十五年二月二十五日該衙門ノ中止セシ以降。軍務ノ爲メ。土地ヲ領スル者。遺言ニ因テ其地ヲ賣售スルコト尠カラス。故ニ今ニ於テ其害ヲ除クノ法ヲ設ケサレハ。終ニ救フ可ラサルニ至ルベシト。乃チ遂ニ之ヲ廢止ス。因テ波羅無氏ノ言ヘル如ク。國王ノ金庫ニ流入スル泉源ハ。此ニ至テ乾涸シ。復タ湧出スルノ期ナキニ至レリ。故ニ議院ニ於テハ。更ニ國產稅ヲ課スルノ權ヲ國王ニ獻シテ。王室ノ歲入ヲ償フタリ。千六百四十五年財產繼承ノ稅ヲ廢止シ。爾後之ヲ課セサルモノ五十

年。千六百九十四年六月ニ至リ。荷蘭國ノ法制ニ倣テ。遺書稅及ヒ遺物管理稅法遺書アル者ヲ遺書稅ト稱シ。遺書ナキ者ヲ遺物管理稅ト稱ス。ヲ定メ。所有物ノ價金二十磅ヲ超レハ各、印稅五司令ヲ課ス。後ニ諸種ノ證券ニ二磅乃至四磅ノ苛重ノ稅ヲ課スルノ時ト雖モ。該稅ハ十司令ト爲スニ過ヤサリキ。此ノ如クニシテ變更ナキ者八十有五年。千七百七十九年八月ニ至テ稅法ヲ改正シ。所有物ノ價金三百磅以下ヲ限リ。其價金増加スレハ隨テ其稅率ヲ増加スルノ法ヲ定メ。千七百八十三年ニ於テハ。其價金千磅以下ヲ限リ。千七百八十九年ニハ。一萬磅以下ト爲シ。千八百一年ニハ。大ニ其課率ヲ増加シテ十萬磅ニ及ホス。千八百四年ニハ。又増加シテ其價金五十萬磅以下ニ課シ。千八百十五年ニハ。遂ニ現今施行スル所ノ稅率ニ至ラシメ。其價金百萬磅以下ニ課スル所アリ。第三百九十二丁。又遺書稅ト遺物管理稅ト。初メハ其課率ヲ同クセシ。千八百十

五年ニ至テ遺書税ニ居レハ遺物管理税ハ則チ三ニ當ルノ比例ヲ以テ之ヲ増加セリ。

愛爾蘭ノ遺書及ヒ遺物管理ノ印税ハ千七百七十四年始テ所有物ノ價金三十磅ヲ超ル者ニ各五司令ヲ課ス。此時ヨリ千八百四十二年ニ至ルノ間ニハ屢之ヲ改正シテ其課率ヲ増加スト雖モ未タ英倫ノ甚シキカ如キニ至ラス。千八百四十二年ニハ終ニ其課率ヲ増加シテ英倫ト同一ナラシメ。千八百五十三年ニ至テ永遠ニ之ヲ課スルノ議ヲ決ス。

蘇格蘭ハ千八百四年前ニ在テハ曾テ遺書税ノ類ヲ課セシコト無シ。該年ニ至リ始テ英倫ニ同シキ課率ヲ用ヒテ之ヲ課シタリ。而シテ實際ニ於テハ頗ル輕重ノ差アルヲ免レサリキ。

蘇格蘭ニ於テ耶蘇新教ノ開基スルヤ死亡者ノ遺書ヲ證明スル教法

裁判所ノ法官ヲ大教正中ヨリ選舉シテ之ヲ國王ニ推薦セリ。然レモ

此法官ハ曾テ遺物受託者ヲシテコンホルメーショント稱スル證書ヲ領シテ受託者タルコトヲ證セシムルノ權ヲ有セス。又之ヲ行ヒシコト無シ。且該國從來ノ法遺物ヲ繼承スルニ必シモコンホルメーションヲ領スルヲ須要セス。領スル者ト雖モ習慣ニ循テ唯遺物ノ一部ヲ記スルノコンホルメーションノミニ止ルコトヲ准セリ。故ニ遺書税ヲ以テ政府ノ歲入ヲ補フコト能ハス。因テ千八百八年ニ法令ヲ改正シテ蘇國內ノ動產ヲ繼承スル者ハ總テ遺書ヲ教法裁判所ニ呈レテ印税ヲ上納スヘキヲ令シタレハ頗ル其收入ヲ増加スルヲ得タリ。然レモ該國ニ在テハ今仍遺書ヲ呈セスコンホルメーションヲ領セスシテ死亡者ノ所有物ヲ繼承スルノ習慣アルヲ免レサルナリ。英愛ノ二國ハ之ニ反シ死亡者ノ財產ヲ處分スルニ當テ遺書若クハ遺物

管理狀ノ檢査ヲ請ハサル者甚ク尠シ。故ニ蘇國ニ比スレハ其稅ノ收入極メテ多シトス。

英蘇二國ノ遺物稅ハ千七百八十年六月始テ遺物領票ノ印紙ヲ以テ之ヲ課シ。千七百八十三年八月及ヒ千七百八十九年八月ヲ以テ其課率ヲ增加ス。後チ幾ナラス裁判所ノ判決ヲ以テ始テ領票ニ課稅スルノ非ヲ覺知セリ。其領票ナキニ課スルヲ得サルヲ以テナリ。裁判官「ヒ」ス「氏」曰ク。遺物稅法ニ據レハ遺物稅ハ其領票ニ課スルヲ得テ。反テ遺物ニ課スルヲ得ス。是レ實ニ該法ノ失ナリト。遂ニ千七百九十六年ニ至テ之ヲ改正シテ公布ス。其法概テ現今施行スル所ニ異ナラス。其稅率ハ即チ左ノ如シ。

- 第一 死亡者ノ兄弟姉妹及ヒ其子孫 百分ノ二
- 第二 死亡者ノ父母ノ兄弟姉妹及ヒ其子孫 百分ノ三

- 第三 死亡者ノ祖父母ノ兄弟姉妹及ヒ其子孫 百分ノ四
  - 第四 其他ノ者 百分ノ六
  - 第五 死亡者ノ夫妻子孫及ヒ父母祖父母 免稅
- 但千七百九十六年四月後ニ死亡スル者ノ動產ヲ限リ之ヲ施行スルモノトス。

此年彪士氏ハ更ニ此稅ヲ不動產ニ課セント欲シ。其議案ヲ紹介ス。然レモ下議院ノ議者可非相半シテ決セズ。第三讀會ニ至リ。議長ノ決議ヲ以テ終ニ之ヲ採ラス。

千八百四年ニ於テハ第一項ノ遺物稅百分ノ二ナルヲ增加シテ百分ノ二半ト爲シ第四項ノ稅ヲ百分ノ八ニ增加ス。又凡ソ遺物稅ハ所有者死亡ノ年月ヲ論セスシテ之ヲ課スヘシトノ一款ヲ追加セリ。因テ此時ヨリ以來繼承者ノ所有權ヲ得ルノ年月ヲ論セスシテ該稅ヲ課

スルニ至レリ。

千八百五年ニ於テハ。第五項ノ死亡者ノ子孫ノ免税ヲ改メテ。遺物税百分ノ一ヲ課シ。第四項ノ税百分ノ八ナルヲ増加シテ。百分ノ十ト爲シ。且遺言ニ因テ賣售シタル不動産ノ價金ヲ限り。動産ト同シク課税ヒリ。因テ政府ノ歳入ハ。之カ爲メニ大ニ増加スルヲ得タリ。

千八百十五年ニハ。更ニ第五項ノ死亡者ノ父母若クハ血統ノ祖父母ノ其遺物ヲ繼承スルハ免税ノ法ヲ改メテ。若干ノ税ヲ課シ。且従前ノ百分ノ二半ノ税ヲ百分ノ三ト爲シ。百分ノ四ノ税ハ百分ノ五。百分ノ五ノ税ハ百分ノ六ニ遞増ス。而シテ此時以來。曾テ之ヲ變更スルコト無シ。

愛爾蘭ノ遺物税法ハ。千七百八十五年始テ之ヲ施行シ。爾後法令ヲ以テ漸次ニ其課率ヲ増加ス。然レモ未タ英蘇二國ノ基シキニ至ラス。其

英蘇二國ノ税率ニ比例シテ之ヲ課セシハ。千八百四十二年以降ノ事ニ係レリ。

遺書税。遺物税及ヒ相続税ハ。印税ノ總目中ニ載列スト雖モ。其實證印ヲ以テ收入スル者ハ。唯、遺書税ノミ。

凡ソ遺書税ヲ徴收スルノ規法ハ。遺書裁判所ヨリ證印アル證書ヲ遺物管理者ニ發付シ。以テ死亡者ノ動産ヲ處分スルヲ准スノ憑證ト爲ス。而シテ遺書税ノ課率ハ。動産ノ多寡ニ隨テ増減スルモノトス。

蘇格蘭ニ在テハ。曾テ該國遺書裁判所ヨリ證印アル證書ヲ發付セシコ該裁判所廢止以來ハ。遺書税ヲ徴收スルノ規法モ亦隨テ變更ス。乃チ遺物管理者ハ。豫メ遺書ニ證印ヲ請ヒ。之ヲ教法裁判所ニ呈シテ査驗ヲ受ケ。コンホルメーショント稱スル證書ヲ請ヒ領スレハ。則チ死亡者ノ動産ヲ處分スルヲ准ス。蘇ノ英ト規法ノ異ナル者之ノミナラス。英倫ノ遺